

三 公共道路撒水用	一立方メートル金五錢
四 前各號以外ノ給水	一立方メートル金八錢
消費水量左ノ定量以下ノ場合ニ於テハ定量ニ達シタルモノト看做シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テ量水器點檢ノ都合ニ依リ三十日ニ過不足アルトキハ其ノ定量ヲ日割ヲ以テ計算ス	
一 工事其ノ他一時ノ給水	一回分五立方メートル
二 噴水用	三十日間分三十立方メートル
三 公共道路撒水用	三十日間分三十立方メートル
四 前各號以外ノ給水	三十日間分五十立方メートル
第二十條 共用給水料ハ左ノ區分ニ依ル	
一 建坪十五坪迄ノ家屋	毎戸一月金六十錢
前記建坪五坪迄ヲ増ス毎二月金十五錢ヲ加フ	
第二十一條 私設消火用給水栓演習使用料ハ一栓一回毎ニ金一圓五十錢トス	
第二十二條 船舶用給水料ハ一立方メートルニ付金二十錢トス但シ一回ノ水量五立方メートルニ達セサル場合ニ於テハ五立方メートルニ達セタルモノト看做ス	
第二十三條 量水器及給水用具使用料ハ左ノ區分ニ依ル	
量水器徑十五ミリメートル以下	一月 金二十五錢
同 徑十八ミリメートル以下	一月 金五十錢
同 徑二十五ミリメートル以下	一月 金八十錢
同 徑五十七ミリメートル以下	一月 金二圓
同 徑七十五ミリメートル以下	一月 金三圓
同 徑百ミリメートル以下	一月 金四圓

同 徑百五十七ミリメートル以下	一月 金六圓
給水用具	一月 給水用具費ノ千分ノ十五
量水器又ハ給水用具ノ使用料ハ使用期間カ一月ニ滿タサルトキ又ハ給水ノ中止中ト雖全月分ヲ徴收ス	
船舶給水用量水器及特ニ据付ヲ要セサル量水器ニ對シテハ使用料ヲ徴收セス	
第二十四條 給水工事設計手数料ハ一工事毎ニ金一圓トス但シ該該工施行ノ場合ニ於テハ之ヲ工事費ノ一部ニ充當ス	
第二十五條 第八條第三項ニ依ル鑑札、鍵ノ交付手数料ハ一箇金二十錢トス	
第二十六條 給水料ニ關シ建物坪數ノ計算ハ左ノ方法ニ依ル	
一 構造ノ如何ヲ問ハス總テ外畫以內ヲ計算ス	
二 地下室及二層以上ニ屬スルモノハ二坪ヲ一坪ニ計算ス	
三 一坪未滿ノ端數ハ切捨トス	
四 厩舎浴室及獨立シタル倉庫ハ建物ノ坪數ニ加エス	
第二十七條 計量ニ依ラサル専用給水料及共用給水料ハ其ノ給水ノ開始カ共ノ月ノ十五日以前ナルトキハ全月分、十六日以後ナルトキハ半月分ヲ徴收ス中止シタル給水ヲ再ヒ開始スルトキ亦同シ但シ給水ヲ中止シタル月ニ於テ再ヒ開始スルトキハ其ノ月ノ料金を重テ徴收セス	
給水ノ中止又ハ廢止ノ爲其ノ使用カ一月ニ滿タサルトキト雖全月分ノ料金を徴收ス	
給水種別ヲ變更シタル月ノ料金は日割ヲ以テ計算ス	
第二十八條 計量ニ依ラサル専用給水料及共用給水料ハ毎月一日現在標準ニ據リ算定シ同月十日迄ニ共ノ月分ヲ徴收シ月ノ中途ニ於テ給水ヲ開始スルトキハ開始當日ノ現在標準ニ依リ其ノ月分ノ料金を給水開始ノ日徴收ス但シ官廳、公署ニ在リテハ翌月十日迄ニ之ヲ納付スルコトヲ得	

前項ノ料金ハ其ノ月ニ於テ算定標準ハ異動ヲ生スルコトアルモ之ヲ増減セズ

第二十九條 計量ニ依ル専用給水料ハ每月水景點檢後七日内ニ徵收ス但シ一時給水ノモノニ在リテハ隨時徵收ス

第三十條 船舶用給水料ハ給水ノ都度之ヲ徵收ス但シ特別契約ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 私設消火用給水栓演習使用料ハ使用ノ都度之ヲ徵收ス

第三十二條 量水器及給水用具使用料ハ毎月一回之ヲ徵收ス

第三十三條 給水料金ハ給水ヲ制限シ又ハ一時停止シタル場合ト雖之ヲ減免セズ

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ給水工事費及料金ヲ減免スルコトアルヘシ

- 一 慈善事業ノ爲給水スルモノ
- 二 公共ノ必要ニ應シ一時給水スルモノ
- 三 前二號ノ外特別ノ事由アルモノ

第三十五條 給水工事費又ハ料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ給水使用者 給水用具所有者又ハ共用給水使用者ノ總代人ハ事務所ニ届出ツヘシ

- 一 給水用具ノ破損又ハ漏水其ノ他給水上異狀ヲ生シタルトキ
- 二 給水種別ヲ變更スヘキ事由ヲ生シタルトキ
- 三 料金算定標準ニ異動ヲ生シタルトキ
- 四 給水用具所有者ノ變更又ハ給水用具ノ貸借ヲ爲シタルトキ
- 五 共用給水使用者ノ總代人ヲ變更シタルトキ
- 六 共用給水使用者ニ異動ヲ生シタルトキ
- 七 消火用給水栓ヲ使用シタルトキ

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ給水ヲ停止シ損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

- 一 給水工事費又ハ料金ヲ期限内ニ納付セザルモノ
- 二 給水ヲ濫用分與又ハ販賣シタルモノ
- 三 恣ニ給水用具ヲ移動變更シタルモノ
- 四 限ニ給水用具ヲ開閉シ又ハ之ヲ毀損シタルモノ
- 五 料金ノ標準ト爲ルヘキ要件ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルモノ
- 六 故ナク給水用具ノ檢査ヲ拒ミタルモノ
- 七 故ナク第三十六條ノ届出ヲ怠リタルモノ

第三十八條 前條第二號乃至第四號及左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 虚偽ノ届出ヲ爲シタル者
- 二 鑑札鍵ヲ携帶セシメテ共用給水ヲ汲取シタル者
- 三 鑑札鍵ヲ貸借シ又ハ模造ノ鑑札鍵ヲ使用シテ共用給水ヲ汲取シタル者

第三十九條 特別共用給水ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第十九號(官報二月二十五日)

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則左ノ通定ム

明治四十四年二月二十日

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則

第一章 總則

第一條 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所ニ醫科助産婦科及看護婦科ヲ置ク

第二條 修業年限ハ醫科四年、助産婦科二年、看護婦科一年トス

第三條 生徒ノ定員ハ醫科各學年七十五人、助産婦科各學年二十人、看護婦科各學期二十八トス

第四條 醫科助産婦科各學年及看護婦科各學期ノ學科ハ別表ノ如シ

第五條 醫科及助産婦科學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

前學期 四月一日ヨリ十月二十日迄

後學期 十月二十一日ヨリ三月三十一日迄

看護婦科ノ修業年限ハ之ヲ三學期ニ分チ各學期ノ期間ハ前項學期ノ期間ニ準ス

第六條 教授日數ハ一學年約四十二週トス但シ看護婦科ニ在リテハ全學期ヲ通シ約六十三週トス
各科ノ教授時數ハ每週約三十時間トス

各學科ノ教授時數ハ醫院長之ヲ定ム

第七條 休業日ハ左ノ如シ

孝明天皇祭
紀元節
春季皇靈祭
秋季皇靈祭
神嘗祭
天長節
新嘗祭
日曜日

春季休業 四月一日ヨリ同月七日迄

夏季休業 八月一日ヨリ同月三十一日迄

冬季休業 十二月二十九日ヨリ翌年一月四日迄

特別ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ醫院長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第八條 授業料ハ當分ノ内之ヲ徴收セス

第九條 學費ハ醫科ニ在リテハ生徒定員ノ三分ノ一、助産婦科及看護婦科ニ在リテハ生徒定員半數ヲ限リ之ヲ給與スルコトアルヘシ

學費給與ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 入學、退學、懲戒

第十條 醫科生徒ハ朝鮮人タル男子、助産婦科及看護婦科生徒ハ朝鮮人タル女子トシ醫科、助産婦科第一學年又ハ看護婦科第一學期ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ニ該當シ入學試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

一 年齢十七歳以上二十五歳以下ノ者

二 身體健全ニシテ品行方正ナル者

高等學校第一學年ヲ修了シタル者ハ醫科ニ、普通學校第四學年ヲ修了シタル者ハ助産婦科ニ、普通學校第三學年ヲ修了シタル者ハ看護婦科ニ試験ヲ行ハスレテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條 前條ノ入學試験ハ醫院長之ヲ行フ其ノ科目及程度左ノ如シ

醫科 漢文 四書講讀 作文
算術 四則分數
國語 講讀尋常小學 翻譯 會話
醫院長ハ必要アリト認ムルトキハ試験科目ニ理科ヲ加フルコトヲ得

助産婦科 國語 講讀普通學校 翻譯 會話
日語普通學校 日語普通學校 會話

看護婦科 國語 講讀 普通學校學徒用 會話 日語讀本五六

第十二條 生徒ノ定員ニ缺員ヲ生シタルトキハ醫院長ハ補缺ノ爲特ニ入學試験ヲ行ヒ其ノ學力ニ應ジ相當學年、學期ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 入學志願者ハ生徒募集ノ際第一號書式入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ醫院長ニ之ヲ差出スヘシ

第十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ第二號書式在學證書ヲ醫院長ニ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム者二人トシ内一人ハ京城居住者タルコトヲ要ス

第十五條 特別ノ事情ニ依リ退學セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ醫院長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十六條 醫院長ハ教育ニ必要ト認ムルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

懲戒ハ戒飭及停學トス

第十七條 醫院長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル生徒ニ對シ退學ヲ命スルコトヲ得

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 疾病又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第三章 試験、卒業

第十八條 試験ヲ分チテ學期試験、學年試験及卒業試験トス

醫科及助産婦科ノ學期試験ハ各學期末、學年試験ハ各學年末、卒業試験ハ最終學年末ニ於テ之ヲ行フ但シ後學期試験ハ之ヲ學年試験ト併セ行ヒ最終學年試験ハ之ヲ卒業試験ト併セ行ヒ又ハ後學期試験若ハ最終學年試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得

看護婦科ノ學期試験ハ各學期末ニ之ヲ行ヒ卒業試験ハ最終學期末ニ於テ學期試験ト併セ行フ

第十九條 試験ノ成績ハ一學科百點ヲ滿點トシ各學科四十點以上總平均六十點以上ヲ合格トス

第二十條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事情ニ依リ試験期日ニ出席スルコト能ハサル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ醫院長ノ許可ヲ受クヘシ

醫院長ハ前項ノ場合ニ於テハ追試験ヲ行フコトヲ得

第二十一條 醫院長ハ各科卒業者ニ第三號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第二十二條 醫科ヲ卒業シタル者ハ醫學進士ノ稱號ヲ用フルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際在學スル生徒ニハ第九條ニ拘ラス學資ヲ給與ス

(第一號書式)

入學願書

本籍 住所 氏名 生年月日

戸主又ハ戸主トノ続柄 氏名 生年月日

右者世院附屬醫學講習所醫科(助産婦科)看護婦科(自費生(給費生)トシテ入學志願ニ付御許可相成度履歷書相違此段相續也

年月日 朝鮮總督府醫院長宛

明治四十四年二月 府令 朝鮮總督府第十九號 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則 六一

看護婦科學科表

學期	學	科
第一學期	修身 國語	解剖學生 理解大意 看護科 總論學大
第二學期	修身 國語	看護學 器械取扱 法 手術介補
第三學期	修身 國語	衛生學大 看護學 救急法
		實習 數學

○朝鮮總督府令第二十號(官報二月二十五日)
朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒學費給與規則左ノ通定ム

明治四十四年二月二十日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒學費給與規則

第一條 朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所生徒ニ給與スヘキ學費ハ食費被服費及雜費ノ三種トシ共ノ金額ハ一人ニ付醫科ニ在リテハ月額金七圓以內、助産婦科及看護婦科ニ在リテハ月額金五圓以內トシ其ノ支給區分及給與金額ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ朝鮮總督府醫院長之ヲ定ム

前項ノ學費ハ醫院長ノ見込ニ依リ現品ヲ以テ之ヲ給與スルコトヲ得

第二條 給費生ハ別紙第一號書式ニ依リ保證人二人ノ連署ヲ以テ誓約書ヲ差出スヘシ保證人ニ關シテハ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三條 給費生ニシテ朝鮮總督府醫院附屬醫學講習所規則第十五條ニ依リ退學シタルトキ又ハ同第十七條第一號若ハ第三號ニ依リ退學ノ處分ヲ受ケタルトキハ在學中給與シタル學費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシメ同第十七條第二號ニ依リ退學ノ處分ヲ受ケタルトキハ現ニ所持スル給與品ヲ返納セシム

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙)

(第一號書式)

誓約書

本籍 住所 月主又ハ月主トノ權柄 氏 名 生年月日

住 所 本人 氏 名

住 所 保證人 氏 名

住 所 保證人 氏 名

右者在學中ハ堅ク規則及命令ヲ遵守スルハ勿論本人身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切處理シ萬一給與ノ學費ヲ償還スヘキコトアル場合ニハ本人及保證人ハ連帶ノ責ニ任シ連ニ償還可致候仍テ連署ヲ以テ誓約書差出候也

年 月 日

朝鮮總督府醫院長宛

○朝鮮總督府令第二十一號(官報二月二十八日)
人蔘耕作獎勵規則左ノ通定ム

明治四十四年二月二十三日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

人蔘耕作獎勵規則

- 第一條 紅蔘製造ノ原料タル人蔘ヲ耕作スル者又ハ其ノ雇傭人ニシテ法令其ノ他ノ命令ヲ遵守シ耕作ニ勉勵シ他ノ模範ト爲ルヘキ者ニハ本規則ノ定ムル所ニ依リ獎勵金ヲ授與スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ獎勵金ヲ授與スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
 - 一 其ノ年ニ於ケル定植蔘圃又ハ蔘苗圃ノ一人平均耕作間數以上ヲ耕作スル者
 - 二 十年以上定植蔘圃ノ耕作ニ從事スル者又ハ五年以上蔘苗圃ノ耕作ニ從事スル者
 - 三 蔘圃苗圃ノ耕作又ハ病虫害ノ豫防驅除ニ關シ特殊ノ功勞アル者
 - 四 五年以上耕作者ノ雇傭人トシテ蔘圃、苗圃ノ耕作又ハ管守ニ從事スル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ獎勵金ヲ授與セス
 - 一 紅蔘專賣ニ關スル法令ニ違反シ處分又ハ處罰ヲ受ケタル後滿三年ヲ經過セサル者
 - 二 蔘圃、苗圃耕作ニ關シ政府ノ命令又ハ當該官廳ノ指示ヲ遵守セザリシ者ニシテ其ノ情狀重キ者
 - 三 前年又ハ其ノ年正當ノ事由ナクシテ政府ノ査定シタル量目又ハ根數ノ水蔘ヲ納付セサル者
 - 四 前年又ハ其ノ年當該官廳ノ許可ナクシテ耕作間數ヲ減少シタル者
- 第四條 朝鮮總督府專賣局長ハ毎年各蔘圃、苗圃ノ耕作者及其ノ雇傭人ニ付受賞候補者ヲ決定シ朝鮮總督ニ稟申スヘシ
- 第五條 蔘圃、苗圃ノ耕作者ニ對スル獎勵金ハ一等乃至四等トシ第一號書式ノ賞狀及賞金ヲ授與ス但シ賞金ハ物品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 前項獎勵金ノ金額又ハ物品ノ價格ハ定植蔘圃耕作者ニ對シテハ一人平均五十圓以內、蔘苗圃耕作者ニ對シテハ一人平均十圓以內トス

第六條 蔘圃、苗圃ノ耕作者ノ雇傭人ニ授與スヘキ獎勵金ハ一人平均五圓以內トシ第二號書式ノ賞狀ト共ニ之ヲ交付ス但シ獎勵金ハ其ノ金額ニ相當スル物品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
人蔘耕作者褒賞規程ハ之ヲ廢止ス

(第一號書式)

何等賞	金何圓(何品)	住所	氏名
右者定植蔘圃(蔘苗圃)耕作者トシテ法令ヲ遵守シ明治何年ノ耕作成績其好ナリ洵ニ一般耕作者ノ模範ト爲スニ足ル仍テ之ヲ賞ス		朝鮮總督	氏名
明治何年何月何日		住所	氏名
(第二號書式)		住所	氏名
右者定植蔘圃(蔘苗圃)耕作(管守)ニ從事シ其ノ任務ニ精勵シ一般耕作従業者ノ模範ト爲スニ足ル依テ之ヲ賞ス		朝鮮總督	氏名
明治何年何月何日		住所	氏名

○臺灣總督府令第三號(官報二月一日)
臺灣屠畜取締規則左ノ通相定ム

明治四十四年一月二十日

臺灣屠畜取締規則

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ於テ屠場ト稱スルハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺スル場屋ヲ謂フ
本令ニ於テ獸畜ト稱スルハ牛、馬、羊、豚ヲ謂フ

第二條 屠場ハ廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第三條 屠場外ニ於テハ食用ニ供スル目的ヲ以テ獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 不慮ノ災害ニ因リ負傷シ若ハ救フヘカラサル状態ニ陥リ又ハ難産、產褥麻痺若ハ急性鼓脹症ニ因リ切迫屠殺ヲ必要トスル場合

二 船舶内ニ於テ船員、船客ノ食用ニ供スル爲獸畜ヲ屠殺解體スル場合

三 廳長ノ指定シタル地域内ノ居住者ニ於テ獸畜ヲ屠殺解體スル場合

四 前各號ノ外臨時ノ必要ニ依リ廳長ノ許可ヲ受ケタル場合

第四條 屠場ニ於テハ屠畜検査員ノ検査ヲ經サル獸畜ヲ屠殺解體スルコトヲ得ス

屠肉、内臟其ノ他食用ニ供スル部分ハ屠畜検査員ノ検査ヲ經ルニ非サレハ屠場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第五條 屠場使用者ハ結核、癩、梅毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ヲシテ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲サシムルコトヲ得ス

屠場使用者ニシテ前項ノ疾病ニ罹レルトキハ獸畜ノ屠殺解體ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 屠畜検査員ハ生體検査ノ際獸畜カ疾病ニ罹リ食用ニ供スヘカラスト認メタルトキハ屠殺ヲ禁シ角、前蹄又ハ鬐部ニ禁字ヲ烙印スヘシ其ノ傳染病ナル場合ハ獸畜所有者又ハ占有者ヲシテ直ニ隔離セシメ病毒ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒的清潔方法ヲ施行セシムヘシ

前項ノ烙印ハ屠畜検査員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ消除スルコトヲ得ス

第七條 病畜ハ生體検査ニ於テ食用ニ供スルモ衛生上危害ノ虞ナシト認メラレタルモノト雖病畜屠室以外ニ於テ屠殺スルコトヲ得ス但シ検査員ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 屠畜検査員ハ屠殺解體後ノ検査ニ於テ食用ニ供シ得ルモノト認メタルトキハ屠肉、内臟其ノ他食用ニ供スル部分ニ烙印ヲ爲スヘシ

第九條 屠畜検査員ハ屠殺解體後獸畜カ傳染病ニ罹レルコトヲ發見シタルトキハ獸畜所有者又ハ占有者ヲシテ屠屋其ノ他病毒ニ汚染シタル場所、物件ニ對シ消毒的清潔方法ヲ施行セシムヘシ

第十條 廳長ハ食用ニ供スヘカラスト認メタル屠肉、内臟其ノ他ノ部分ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得

第十一條 第二條乃至第四條第六條第七條ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス第五條ニ違反シ又ハ第六條第一項若ハ第九條ニ基キテ發シタル命令ヲ履行セサル者ハ三十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條 本人カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ代理人又ハ代表者ニ適用ス

代理人、戸主家族同居者雇人其ノ他ノ者ニシテ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ本人ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ本人ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十一月十日以前ノ縣又ハ廳又ハ廳ニ於テ發布シタル屠畜取締ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

從前縣又ハ廳ノ許可ヲ受ケタル屠場ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

○臺灣總督府令第四號(官報二月一日)

臺灣獸肉營業取締規則左ノ通相定ム

明治四十四年一月二十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣獸肉營業取締規則

- 第一條 本令ニ於テ獸肉ト稱スルハ食用ノ目的ヲ以テ販賣ノ用ニ供スル 獸類ノ屠肉ノ内其ノ他ノ部分ヲ謂フ
- 第二條 獸肉營業ト稱スルハ獸肉ノ販賣ヲ爲スヲ謂フ
- 第三條 獸肉營業者營業使用人ヲシテ行商セシムトスルトキハ其ノ姓名本籍地寄留地出生年月日ヲ廳長ニ届出テ賣子鑑札ヲ受クヘシ
- 第四條 獸肉營業者ハ其ノ營業場所ニ左ノ標札ヲ掲クヘシ
 - 一 姓名本籍地本居地寄留地出生年月日
 - 二 獸肉ノ種類
 - 三 店賣又ハ行商ノ別
 - 四 店賣ニ在リテハ營業ノ場所
- 第五條 獸肉營業者營業使用人ヲシテ行商セシムトスルトキハ其ノ姓名本籍地寄留地出生年月日ヲ廳長ニ届出テ賣子鑑札ヲ受クヘシ
- 第六條 獸肉營業者ハ其ノ營業場所ニ左ノ標札ヲ掲クヘシ
 - 一 姓名本籍地本居地寄留地出生年月日
 - 二 獸肉ノ種類
 - 三 店賣又ハ行商ノ別
 - 四 店賣ニ在リテハ營業ノ場所

八寸
明 治 年 月 日 許 可
獸 肉 營 業
住 所 姓 名

- 第七條 前項ノ獸肉ニシテ臺灣外ヨリ輸入シ又ハ移入シタルモノハ廳ノ検査ヲ受クルニ非サレハ販賣スルコトヲ得ス
- 第八條 獸肉營業者ハ獸肉ニ液體ヲ注入スヘカラス
- 第九條 獸肉營業者ハ獸肉ヲ塵埃蚊蠅等ノ附着セサル 装置ノ置場又ハ容器ニ納ムヘシ
- 第十條 獸肉營業者ハ獸肉取扱ノ場所及ニ要スル器具ヲ常ニ清潔ニスヘシ
- 第十一條 獸肉營業者ハ結核癩 微毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レル者ヲシテ獸肉ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ス
- 第十二條 獸肉營業者前項ノ疾病ニ罹レルトキハ獸肉ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十三條 獸肉營業者ハ營業許可證又ハ賣子鑑札ヲ讓渡シ又ハ貸與スヘカラス
- 第十四條 獸肉營業者死亡シタルトキハ死亡届出義務者ヨリ十日内ニ廳長ニ届出テ營業許可證ヲ返納スヘシ
- 第十五條 獸肉營業者ハ營業使用人ノ行商ヲ廢止シタルトキハ十日内ニ廳長ニ届出テ其ノ賣子鑑札ヲ返納スヘシ其ノ死亡シタルトキ亦同シ
- 第十六條 獸肉營業者ハ自己又ハ行商セシムル營業使用人ノ姓名本籍地本居地寄留地出生年月日ニ變更アリタルトキハ十日内ニ廳長ニ届出テ營業許可證又ハ賣子鑑札ノ書換ヲ請求スヘシ
- 第十七條 獸肉營業者其ノ營業許可證又ハ賣子鑑札ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ五日内ニ廳長ニ届出テ其ノ再下付ヲ請求スヘシ但シ毀損ノ場合ハ舊鑑札ヲ添附スヘシ
- 第十八條 廳長ハ第六條違反ノ獸肉ニシテ食用ニ供スヘカラスト認ムルモノ及第七條ノ獸肉ハ明

治三十二年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本令ニ違反シタル營業者ニ關シ亦同レ
 第十八條 第二條乃至第十六條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留科料ニ處ス
 第十九條 獸肉營業者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則
 ハ之ヲ代理人又ハ代表者ニ適用ス
 營業者ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ共ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反
 シタルトキハ營業者ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ營業者ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十一月十日以前ノ縣又ハ廳ニ於テ發布シタル獸肉營業ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
 從前縣又ハ廳ノ許可ヲ得タル獸肉營業者ハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本令ニ依リ許可ヲ受ク
 ルニ非サレハ引續キ營業ヲ爲スコトヲ得ス

○臺灣總督府令第五號(官報二月一日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部北港ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十四年一月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名	埔里社
西	料金年額
	三十六圓
	三十六圓

○臺灣總督府令第六號(官報二月七日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部西線ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十四年一月二十八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第七號(官報二月十六日)

明治四十年十月府令第八十一號臺灣小學校規則第十九條第一項ニ依ル入學ノ申出ハ當分ノ內臺北第
 一尋常高等小學校、臺北第一尋常高等小學校、臺北第三尋常高等小學校及臺北第四尋常高等小學校
 ニ關シテハ之ヲ臺北廳長ニ爲スヘシ
 臺北廳長ハ前項ノ申出アリタルトキハ入學スヘキ兒童及小學校ヲ定メ之ヲ當該小學校長ニ指示ス
 ヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年二月八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第八號(官報二月十六日)

明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

明治四十四年二月九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

后里庄北港間	四十五錢	后里庄東勢角間	十五錢
后里庄新竹間	三十五錢	后里庄牛罵頭間	十五錢
后里庄南庄間	三十五錢	后里庄彰化間	二十五錢
后里庄頭份間	三十五錢	后里庄草鞋墩間	二十五錢
后里庄中港間	三十五錢	后里庄南投間	三十五錢
后里庄苗栗間	三十五錢	后里庄北港間	三十五錢
后里庄後港間	三十五錢	后里庄嘉義間	四十五錢
后里庄通霄間	三十五錢	后里庄臺南間	六十五錢
后里庄三叉河間	三十五錢	后里庄打狗間	七十五錢
后里庄大甲間	三十五錢		
后里庄葫蘆墩間	三十五錢		

○臺灣總督府令第九號 (官報二月十六日)

明治三十九年五月府令第二十九號臺灣度量衡規則施行規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 度量器ノ部中直角形ノ項金屬ノ下ニ、木ヲ加ヘ種類中卷尺ノ下ニ三百六十尺以下ヲ六百尺以下ニ、百メートル以下ヲ二百メートル以下ニ、五「チェイン」以下ヲ十「チェイン」以下ニ改正ス
第二條 度量器ノ公差(三)ノ全長中三百六十尺以下ノ次ニ四百八十尺以下八〇〇〇、〇〇六百尺以下一〇〇〇〇ヲ、百メートル以下ノ次ニ三百五十七メートル以下ニ、五〇〇、〇〇二百メートル以下ニ、〇〇〇、〇〇五「チェイン」以下ノ次ニ七「チェイン」以下八、〇〇七「チェイン」以下ニ、〇〇ヲ加フ

○臺灣總督府令第十號 (官報二月十六日)

明治四十年五月府令第三十五號臺灣總督府電氣使用規則第三十三條、第三十四條、第三十九條、第五十一條及第五十一條ノ二中、基隆、ノ下ニ、臺中、彰化、ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年二月十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第十一號 (官報二月二十八日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部、后里庄ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十四年二月十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換料
料金年額
三十六圓

○關東都督府令第二號 (官報二月十三日)

醫師取締規則左ノ通定ム

關東都督 子爵大島義昌

明治四十四年一月三十一日

醫師取締規則

第一條 醫師ハ内務大臣ノ授與シタル醫師免許證又ハ醫術開業免狀ヲ有スル者タルヲ要ス
第二條 醫師開業セムトスルトキハ醫師免許證又ハ醫術開業免狀寫、履歴書、戶籍謄本又ハ抄本ヲ添ヘ關東都督ニ届出ヘシ
第三條 醫師出張診療所ヲ開始セムトスルトキハ所轄民政署又ハ警務署ニ届出ヘシ
第四條 醫師ハ診療簿ヲ備ヘ受診者ノ住所、氏名、年齢、病名及處置ヲ記載シ十箇年間之ヲ保存スヘシ
第五條 醫師共ノ診療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ共ノ患者ノ氏名、用法及自己ノ氏名又ハ診療所名ヲ明記スヘシ
第六條 醫師死體又ハ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
第七條 醫師ハ正當ノ事由アルニ非サレハ診斷若ハ檢案ヲ拒ミ又ハ診斷書檢案書若ハ死産證ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
第八條 醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證ヲ交付スルコトヲ得ス
第九條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス共ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス
第十條 醫師ハ別記様式ニ依リ診療患者年表ヲ編製シ翌年一月末日マテニ關東都督ニ提出スヘシ
第十一條 醫師住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ關東都督ニ届出ヘシ

醫師死亡シタルトキハ遺族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 醫師禁錮若ハ懲役ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ身體、精神ニ異常ヲ呈シ醫業ヲ爲スニ堪ヘスト認ムルトキハ關東都督ハ其ノ業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

第十三條 醫師法ニ依リ免許ノ取消又ハ醫業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ直ニ關東都督ニ届出ヘシ

前項醫業停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ停止期間醫業ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 醫師ハ居住後二十日以内ニ現籍、住所、氏名、年齢及現在ノ業務ヲ具シ醫師免許證又ハ醫術開業免狀ヲ添へ關東都督ニ届出ヘシ但シ期限内ニ第二條ノ手續ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 關東都督ハ業務ノ地域並期限ヲ定メ出願者ノ履歷ニ依リ又ハ試驗ノ上醫術開業ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 醫師ハ醫師會ヲ組織スルコトヲ得

第十七條 醫師會ヲ組織セムトスルトキハ會則並必要ナル規程ヲ定メ會員連署ノ上關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 醫師會ハ醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應ジ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十九條 關東都督ハ醫師會ニシテ法令ヲ遵守セシ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ之カ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十條 醫師免許證又ハ醫術開業免狀ヲ有セシテ醫業ヲ爲シタル者、禁止又ハ停止中醫業ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條乃至第九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第十條第十一條第十三條第一項第十四條ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

醫師ニシテ本令施行前所轄民政署又ハ警務署ノ許可ヲ受ケ現ニ其ノ業ニ從事スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ更ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項以外ノ醫師ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第十四條ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

(別記様式)

診療患者統計表 明治四十年 住所 醫師氏名

病類別	日本		支那		外國		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
全身病								
精神病								
神經系病								
循環器病								
眼及其附屬器病								
耳								
咽喉病								
鼻								
呼吸器病								

「モルヒネ」及其ノ注射器ノ清國內地輸入ニ關シテハ明治四十二年二月ニ大連稅關告示第三十三號ヲ遵守スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第四號(官報二月十三日)

「コカイン」及其ノ注射器ノ清國內地輸入ニ關シテハ明治四十四年一月大連稅關告示第六十號ヲ遵守スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年一月三十一日

○關東都督府令臨時第二號(官報二月一日)

臨時防疫部設置ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年一月二十二日

第一條 「ベスト」病豫防ノ事務ヲ掌理セシムル爲臨時防疫本部ヲ置ク

第二條 臨時防疫本部ニ臨時防疫委員ヲ置ク

委員長ハ警視總長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ關東都督之ヲ命ス

第三條 臨時防疫本部ニ必要ナル職員ヲ附屬セシム

第四條 大連旅順營口遼陽奉天鐵嶺長春及安東ニ臨時防疫支部ヲ置ク

支部ニ委員ヲ置ク委員ハ本部委員長ノ指揮監督ヲ承ケ防疫事務ニ従事ス

傳染病豫防規則ニ依リ設置セラレタル檢疫委員長檢疫委員副長及檢疫委員ハ臨時防疫支部委員長委員副長及委員トナル

關東都督 子爵大島義昌

關東都督 子爵大島義昌

第五條 臨時防疫支部委員長必要ト認ムルトキハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第六條 傳染病豫防規則第十四條及第十五條ニ規定シタル處分ヲ爲シ又ハ第二十一條ニ依リ署令ヲ發布セントスル場合ニハ臨時防疫本部委員長ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ明治四十四年一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令臨時第三號(一、二、三、四)

明治四十四年一月府令臨時第二號中左ノ通改正ス

明治四十四年二月四日

關東都督 子爵大島義昌

第四條第三項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ事務官ヲ委員長トシ現ニ委員長及委員副長タル者ヲ委員副長トス

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 傳染病豫防規則ニ依リ警務署長ニ屬スル職務ハ「ベスト」ニ關シテハ事務官之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第二十二號(官報三月七日)

明治四十三年勅令第三百二十七號ニ依ル恩賜公債ニ對スル利子仕拂ノ爲日本銀行京城代理店ヨリ
差出ス通常爲替ニ關スル料金ハ無料ト爲スコトヲ得
前項ノ通常爲替ハ拂渡ノ際其ノ爲替受取人ヨリ恩賜公債利札ヲ差出サシメ共ノ拂渡ヲ爲ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年三月一日

○朝鮮總督府令第二十三號(官報三月九日)

明治四十四年四月一日ヨリ左記地域ニ度量衡法ヲ施行ス

明治四十四年三月四日

京畿道

蔚州郡

楊州郡

長湍郡

通津郡

坡州郡

高平郡

南陽郡

豐德郡

抱川郡

楊平郡

安山郡

高陽郡

金浦郡

永平郡

麻田郡

交河郡

加平郡

振威郡

陽川郡

始興郡

果川郡

陽川郡

陽城郡

蔚山郡

蔚山郡

加平郡

振威郡

平山郡

黃海道

長湍郡

通津郡

坡州郡

高平郡

南陽郡

豐德郡

抱川郡

慶源郡

谷山郡

長湍郡

通津郡

坡州郡

高平郡

南陽郡

豐德郡

抱川郡

○朝鮮總督府令第二十四號(官報三月十三日)

電氣事業取締規則左ノ通定ス

明治四十四年三月六日

電氣事業取締規則

第一章 總則

朝鮮總督 子爵寺内正毅

第二章 許可認可申請及届出
 第三章 工事ノ著手、落成検査及使用認可證
 第四章 主任技術者
 第五章 工事施設、送電及記録
 第一節 通則
 第二節 電燈及電力
 第三節 電氣鐵道
 第六章 監査、試驗、改修及停止並許可認可ノ失效及取消
 第七章 罰則
 第八章 官廳施設電氣事業
 附則
 第一章 總則
 第一條 本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
 一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スルモノ
 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道、輕便鐵道、及軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スルモノ
 三 前二號ノ外電氣ヲ使用又ハ供給スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受タルモノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負擔スルモノヲ除ク
 第二條 本令ハ左ニ掲グルモノニ之ヲ適用セス
 一 電信電話又ハ信號ニ電氣ヲ使用スルモノ
 二 一般運送ノ用ニ供スル官設鐵道ノ動力及其ノ車輛内ニ電氣ヲ使用スルモノ
 三 電線路ノ施設ナクシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ

四 電壓十ヴォルト以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
 第三條 本令ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用ウル金屬體ヲ謂フ
 第四條 本令ニ於テ電路ト稱スルハ發電機其ノ他ノ機械、器具、電線、大地等電流ノ通スル一全部ヲ謂フ
 第五條 本令ニ於テ電線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ
 第六條 本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設シタル機械、器具、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ直接電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
 第七條 本令ニ於テ引込線ト稱スルハ使用場所外ノ最終ノ支持物ヨリ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ
 第八條 本令ニ於テ電車ト稱スルハ電動車及電氣機關車ヲ謂フ
 第九條 本令ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ在リテハ六百ヴォルト、交流式ニ在リテハ二百ヴォルトヲ超過セサル電壓ヲ謂フ高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ二千五百ヴォルトヲ超過セサル電壓、特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過スル電壓ヲ謂フ
 交流式ノ電壓ヲ表示スルニハ實効電壓ヲ以テス
 第二章 許可認可申請及届出
 第十條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ起業目録見書及工事設計書ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
 前項ノ申請書ニハ電氣事業者ノ商號又ハ名稱、工事費豫算及事業上ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
 第十一條 前條ノ起業目録見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第十九條 電氣事業者第三十六條ニ依リ使用認可證ノ下付ヲ受ケタル後電線路ヲ新設、延長又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ左ノ書類及圖面ヲ具シ警務部長ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ其ノ落成期限ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ引込線共同引込線所ニ進スル引込線使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

一 電線路圖 其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖

二 落成期限表 工事ヲ受ケタル部分ノ落成期限

第二十條 同一支持物又ハ同一暗渠内ニ於テ電線ヲ増設若ハ撤去シ又ハ電線路ヲ撤去シタルトキハ遲滞ナク警務部長ニ届出ツヘシ但シ引込線共同引込線並使用者構内、發電所、變壓所又ハ配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火災共ノ他ノ原因ニ因リ電氣工作物ヲ滅失損壞シタル爲復舊工事ヲ施サムトスルトキハ電線路ニ關シテハ第十九條ノ規定ヲ準用シ其ノ他ノ電氣工作物ニ關シテハ第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ工事ヲ急施スルノ必要アルトキハ其ノ滅失若ハ損壞シタル電氣工作物ノ原狀ヲ變更セサル場合ニ限リ前項ノ手續ニ依ラス通信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ事業ヲ廢止スルトコトヲ得ス

第二十四條 左ノ場合ニハ電氣事業者遲滞ナク其ノ事項ヲ具シ通信局長官ニ届出ツヘシ

一 電氣ノ使用ヲ開始シタルトキハ其ノ年月日

二 電氣事業者其ノ名稱又ハ商號ヲ變更シタルトキハ其ノ名稱又ハ商號

第二十五條 左ノ場合ニハ電氣事業者其ノ日時、場所、原因共ノ他必要ナル事實ヲ具シ警務部長ニ届出ツヘシ

一 電氣事業ヨリ災害共ノ他ノ故障ヲ生シタルトキ

二 送電ヲ中止又ハ之ヲ復舊シタルトキ

第二十六條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ毎年決算期又ハ六月及十二月ニ於テ事業概況報告書ヲ編製シ通信局長官ニ届出ツヘシ

前項ノ報告書ニハ業務上各般ノ報告、報告期末現在ニ於ケル電線路互長及電線延長需用者數、電燈、電動機及電車ノ箇數ヲ記載スヘシ但シ電線ノ延長ハ電壓ノ類別ニ依リ、電燈ハ白熱燈、弧光燈及ワット數ニ依リ、電動機及電車ハ其ノ種類及ワット數ニ依リ區別スヘシ

第二十七條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡サムトスルトキハ當事者連署ノ上朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ讓渡ヲ終了シタルトキ又ハ第一條第三號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡シタルトキハ當事者ヨリ遲滞ナク通信局長官ニ届出ツヘシ

電氣事業ヲ相續シタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

第二十八條 電氣事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓渡人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十九條 本令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ其ノ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十條 朝鮮總督、通信局長官又ハ警務部長ハ許可又ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ審査上必要ト認ムル書類及圖面ノ提出ヲ命スルトコトアルヘシ

第三十一條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ通信局長官ニ提出スヘキ書類及圖面ハ警務部長ヲ經由スヘシ

第三十二條 警務部長ハ前條ノ書類ニ意見ヲ附シ通信局長官ニ提出スヘシ但シ第十條第一項ノ電氣事業許可申請書及第十三條第一項ノ工事施行認可申請書ニ限リ道長官ヲ經由スヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ事業カ他ノ地方管内ニ係ルモノナルトキハ道長官ヨリ關係道長官ニ商議スヘシ

第三十三條 警務部長ハ許可、認可若ハ命令シタル事項ヲ其ノ都度通信局長官ニ通報スヘシ

第三章 工事ノ著手落成検査及使用認可證

第三十四條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手スヘシ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

朝鮮總督又ハ警務部長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ前項期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ

第三十五條 電氣事業者工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ落成シタルトキ亦同シ

第三十六條 通信局長官又ハ警務部長ハ工事落成ノ届出アリタルトキハ吏員ヲシテ其ノ電氣工作物ヲ検査セシメ支障ナシト認ムルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ但シ検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ検査ノ結果電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ改修ヲ命スヘシ

第三十七條 前條ノ検査吏員ハ検査ノ結果危険ノ虞ナシト認ムルモノニ限リ電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
前項假使用認可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ起算シ六十日以内トス但シ其ノ期間内ト雖通信局長官又ハ警務部長ニ於テ電氣工作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十八條 第三十五條ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ハ使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ第二十一條第二項ノ電氣工作物ニ限リ其ノ落成ノ日ヨリ六十日間ヲ限リ使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケスレテ之ヲ使用スルコトヲ得

第四章 主任技術者

第三十九條 電氣事業者ハ工事著手前學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ但シ第一條第三號ノ電氣事業ニシテ第十五條第二項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲滞ナク左ノ事項ヲ具シタル履歷書ヲ添ヘ通信局長官ニ届出ツヘシ

一 主任技術者ノ氏名住所、年齢及國籍

二 學歷

三 官廳、公署又ハ會社其ノ他ノ事業ニ從事シタルトキハ其ノ勤務場所、職務ノ種類及其ノ終始ノ年月日

四 卒業又ハ修業證書ノ謄本

第四十一條 通信局長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條 主任技術者疾病、不在其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ適當ノ職務ヲ執ル能ハサルコト三十日以上ニ亙ルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ通信局長官ニ届出ツヘシ
代務者ノ行爲ニ付テハ主任技術者其ノ責ニ任ス

第五章 工事施設、送電及記録

第一節 通則

第四十三條 電路ハ大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ
 通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 電路ニハ必要ナル場所ニ避雷装置及閉閉器ヲ設備スヘシ

第四十五條 電路ニハ漏電ヲ檢スルノ装置ヲ爲スヘシ但シ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此
 ノ限ニ在ラス

第四十六條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコトナク且共ノ絶縁物ハ之カ爲變
 化ヲ顯ハササルモノナルコトヲ要ス

第四十七條 各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲攝氏四十度以上ノ溫度ヲ増ササル様完全
 ナル自動遮斷器ヲ裝置スヘシ

各高壓電線並電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變壓所ニ於テ特ニ鋭敏ナル自動遮斷器ヲ裝置スヘ
 シ

第四十八條 架空電線ハ絶縁物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外裝スヘシ
 三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木綿編組線ニシテ共ノ被覆物ハ常
 ニ耐水質絶縁性ヲ具ヘ且其ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

高壓ニ使用スル架空電線ハ護膜又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ共ノ厚サ三厘五
 毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時
 間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付四十萬「オーム」以上ノモノナルコトヲ要ス

左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ前二項ニ適合セサル電線ヲ使用スルコトヲ得

一 堅牢ナル電線墜落豫防裝置ヲ爲シ斷線スルモ危險ノ虞ナキトキ又ハ相當ノ強サ及太サヲ有

スル電線ヲ使用スルコトキ

二 電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヲ豫防スル爲架空電線ノ上部ニ堅牢ナル環
 防裝置ヲ爲ストキ但シ架空電線ノ上部ニ於テ之ト交又若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電
 氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ共ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

人家ヲ離隔シ交通稀少ナルカ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長
 官ノ認可ヲ受ケ前各項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

本條ノ規定ハ電線ニ之ヲ適用セス

第四十九條 架空電線ハ電線ヲ除クノ外直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強カラ
 有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ工事又ハ土地
 ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニシテ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 道路ノ兩側ニ跨ラス共ノ一側ニノミ架設スルコト

二 道路ノ一側ニ架空ノ電線、電話線又ハ電氣信號線アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト、若
 共ノ一側ニ架空ノ電線、電力又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ之ト同側ニ架設スルコト

本條ノ規定ハ電線ニ之ヲ適用セス

第五十一條 架空電線ハ地表ヲ距ル十六尺以上トシ造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ三尺以上共ノ
 上部ヲ架渉スルトキハ高壓電線ハ六尺以上共ノ他ハ三尺以上離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナ
 シト認ムル場所ハ警務部長ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 架空ノ電線、電話線又ハ電氣信號線ト交又若ハ接近シテ架空電線ヲ建設スルコトキ
 ハ三尺以上離隔スヘシ但シ電線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線
 共同引込線ニシテ工事已ムヲ得サルトキニ限リ三尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十三條 他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場所ニシテ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條 架空ノ電氣線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣鐵道用電線ト共ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ

第五十五條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ

高壓電線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗ルヘシ

第五十七條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケヘシ

第五十八條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鍍裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球、取附用器具、其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器、其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絶緣性ノモノナルコトヲ要ス

第六十條 變壓器、直列式弧光電燈、其ノ他高壓電氣ノ通スル機械、器具ハ容易ニ人ノ觸レサル様取附クヘシ

第六十一條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絶緣力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗レ

三十分時間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水ノ函内ニ藏メ地表ヲ距ル十四尺以上ニ於テ電柱ニ取附クヘシ

石造煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得

第六十三條 電路ハ之ヲ検査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十五條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風、其ノ他非常ノ場合ニハ危險ノ虞アリト認ムル区域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ中止シタル区域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ掲グヘシ

第六十六條 通信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條 特別高壓電氣工作物並地中電線路ノ施設制限ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條 本章ノ規定ニ依ル記録ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二節 電燈及電力

第六十九條

高壓電路ノ架空部分及絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶縁力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「ヴォルト」後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎ニ六十萬「ヴォルト」下ルヘカラス
低壓電路ノ大地トノ絶縁力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一項及第二項ノ絶縁力ハ三月毎ニ一回之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十條

架空電線ヲ架空ノ電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十一條

共同引込線ノ分歧シタル部分ハ三十間以上ト爲スコトヲ得且道路ヲ横斷セス人ノ容易ニ觸レサル様屋外ニ取附クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私道ニ限り横斷スルコトヲ得

七十二條

屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ裸線ヲ用ウルコトヲ得

一 點檢容易ナル場所ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト

二 點檢容易ナラサル場所點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムヲ得ズ人

ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絶縁電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト但シ點檢容易ナラサル場所ト雖二百五十七「ヴォルト」以下ノ電壓ニ限り特別ノ方法ニ依リ施設スルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ規定ハ發電所變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第七十三條

前條ノ高等絶縁電線ハ護謨又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ二百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付一百「メグオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條

屋内ニ施設スル可撓紐線以外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ積可撓紐線ノ電線ハ直徑三厘八毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有シ其ノ撓線ノ數ハ七本以上ナルコトヲ要ス但シ「パイプ」ベンダント、「ブラケット」其ノ他之ニ類スルモノ内ニ藏ムル電線及通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條

屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ管内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ管子ヲ使用シ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ

點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十七「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限り、並附木製「トリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鍍裝又ハ被覆ナキモノハ金屬管内ニ納ムヘシ

第七十六條

電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部分又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ碍管内ニ藏メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第五十三條 他人ニ屬スル電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場所ニシテ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條 架空ノ電線、電話線、電氣信號線又ハ電燈電力若ハ電氣鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去スル場合亦同シ

第五十五條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ

第五十七條 高壓電線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗ルヘシ

第五十八條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設クヘシ

第五十九條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鍍裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 變壓器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絶緣性ノモノナルコトヲ要ス

第六十條 變壓器直列式弧光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械器具ハ容易ニ人ノ觸レサル様取附クヘシ

第六十一條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絶緣力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗レ

三十分時間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水ノ函内ニ藏メ地表ヲ距ル十四尺以上ニ於テ電柱ニ取附クヘシ

第六十三條 石造煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

第六十四條 危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得

第六十三條 電路ハ之ヲ檢査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

第六十五條 出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十六條 第六十五條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風其ノ他非常ノ場合ニハ危險ノ虞アリト認ムル区域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

第六十六條 前項ニ依リ送電ヲ中止シタル区域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六十七條 第六十六條 通信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條 特別高壓電氣工作物並地中電線路ノ施設制限ニ關シテハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條 本章ノ規定ニ依ル記録ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二節 電燈及電力

第六十九條 高壓電路ノ架空部分及絶緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶緣力ハ一百
「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「ヴォルト」後者
ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎ニ六十萬「ヴォルト」ヲ下ルヘカラス
低壓電路ノ大地トノ絶緣力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制
限ニ依ラサルコトヲ得

第一項及第二項ノ絶緣力ハ三月毎ニ一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十條 架空電線ヲ架空ノ電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上、架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線
ト並行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理
ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十一條 共同引込線ノ分歧シタル部分ハ三十間以上ト爲スコトヲ得ス且道路ヲ横斷セス人ノ
容易ニ觸レサル様屋外ニ取附クヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私
道ニ限り横斷スルコトヲ得

第七十二條 屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絶緣物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易
ニ損傷セサル様外装シタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ通信局長官ノ認可ヲ受
ケ裸線ヲ用ウルコトヲ得

一 點檢容易ナル場所ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電線若ハ之ト同等以上ノ
モノナルコト
二 點檢容易ナラサル場所點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充テ易キ場所又ハ工事上已ムヲ得ス人

ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絶緣電線若ハ之ト同等以
上ノモノナルコト但シ點檢容易ナラサル場所ト雖二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ限り特
別ノ方法ニ依リ施設スルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第七十三條 前條ノ高等絶緣電線ハ保護又ハ之ニ相當スル良好ナル絶緣物ヲ以テ被覆シ其ノ絶緣
力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ二百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏十五度
ニ於テ一里ニ付一百「メグオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條 屋内ニ施設スル可撓紐線以外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ積可撓紐線ノ電線ハ直徑
三厘八毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有シ其ノ
撚線ノ數ハ七本以上ナルコトヲ要ス但シ「パイプ」ペンダント、「プワケット」其ノ他之ニ類スルモ
ノ内ニ藏ムル電線及通信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ樋内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水
質ノ管子ヲ使用シ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ

點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限り密附
木製「フリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鍍裝又ハ被覆ナキモノハ金屬管内ニ納ムヘ
シ

第七十六條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部分又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水
管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ得管内ニ藏メ又ハ特別
ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十七條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶縁力及電線ト大地トノ絶縁力ハ孰レモ機械器具及
附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試験シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又ハ供給スヘキ一定電壓
ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシムヘカラス但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ
中止スヘシ

第八十條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ一時間以上送電ヲ中止スルトキハ關係需用者ニ通知シ急遽
ノ場合ヲ除クノ外之ヲ豫告スヘシ

第八十一條 屋内ニ送電スル電壓ハ直流式ニ在リテハ五百ヴォルト、交流式ニ在リテハ二百五十
「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ此ノ制限ヲ超過シテ送電セムトスルトキハ工事方法ヲ具シ通
信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ

第三節 電氣鐵道

第八十二條 架空電車線ニハ直徑二分五厘ノ圓形ノ硬鋼線若ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スル電線
ヲ用ウヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコ
トヲ得

第八十三條 歸線單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設スル部分ヲ除
クノ外大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長
官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十四條 單線式電氣鐵道ヲ施設スル場合ニ於テ地中ニ金屬體ノ施設アルトキハ左ノ各號ニ依
ルヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 歸線ノ絶縁セサル部分ハ地中施設ノ金屬體ヨリ四尺以上離隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サ
ル場合ニ於テ通信局長官ノ認可ヲ受ケ其ノ部分ト金屬體トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電
流ヲシテ地中四尺以上流通セシムルノ設備ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

二 歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ
向テ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四五「ヴォルト」金屬體ヨリ歸線ニ向テ流ルルトキハ
兩者間ノ電壓ノ差一五「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

四 軌條ハ電氣的完全ナル接続ヲ爲スヘシ

五 軌條ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有
スル補助線ヲ敷設スヘシ

六 軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設シタル補助線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ
三以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌條ト
接続スヘシ

七 歸線ノ絶縁セサル部分中ニ生スル電位ノ差ハ七「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

第八十五條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ電位ノ差及第八十六條ニ規定
スル兩地板ト發電機ノ接地シタル一極トノ接続ニ依リテ流ルル電流ヲ常ニ自動的ニ記録スルノ
裝置ヲ爲シ其ノ最大電位ノ差及最大電流ヲ毎日記録スヘシ

第八十六條 第八十四條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタル點ノ近傍ニ二箇ノ地板ヲ埋設シ且四「ジョルト」以下ノ電壓ヲ用井テ兩地板間ニ「アマムベア」以上ノ電流ヲ發セシムル様ノ施設シ少クモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔ツル所ニ施設シ埋設スヘキ地板ノ距離ハ十間以上ト爲スコトヲ要ス

前二項ニ適合スル地板ノ埋設地ヲ得難キ場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十七條 電車線及之ニ接続スル電路中ノ絕緣シタル部分ノ絕緣力ハ其ノ漏洩電流銀道一里ニ付「アマムベア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流銀道一里ニ付「アマムベア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ直ニ電車ノ運轉ヲ中止スヘシ

高壓電路ノ架空部分及絕緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絕緣力ニ付テハ第六十九條第一項ノ規定ヲ適用ス

土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十八條 前條第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大電壓ヲ用井、前條第二項ノ絕緣力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第八十九條 歸線ト金屬體トノ電氣的接続ヲ爲スノ必要アル場合ニハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後通信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ接続ハ最モ良好ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設シ三月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第九十條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分チ非常其ノ他道路ニ故障ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ通信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十一條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完全ニ接地シタル強力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スヘシ但シ電車線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以下、其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上ト爲スヘシ尙單線式電氣鐵道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ電車線ト金屬線ト混觸ヲ生スルトキ直ニ電車線ニ送電スル電路ノ自動遮斷器ヲシテ働作セシムルモノナルコトヲ要ス

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十二條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流式低壓ナルコトヲ要ス但シ通信局長官ノ認可ヲ受ケ高壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スルコトヲ得

第九十三條 電車内ニ施設スル電線ニ付テハ第七十二條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條 電車ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外其ノ前部及後部ニ制御機ヲ設クヘシ

第九十五條 電車ハ使用前及後開始後少クモ一年毎ニ一回電動機其ノ他ノ各部ヲ検査シ同時ニ電氣上ノ試験ヲ爲シ其ノ成績ヲ記録スヘシ一年内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ

第九十六條 毎日運轉スル電車數及其ノ使用スル最大ノ電流及電壓ハ之ヲ記録スヘシ

第六章 監査、試驗、改修及停止許可、認可ノ失効及取消

第九十七條 通信局長官ハ吏員ヲシテ電氣工作物若ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシメ又ハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械、器具及物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲ス

コトアルヘシ
前項ノ監査ニ係ル試験費用又ハ見本ノ運搬ニ要スル費用並試験ニ因リ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第九十八條 通信局長官ハ電氣事業者ノ施設ニ係ル工作物ニシテ他ニ障害ヲ及ホシ又ハ危険ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九十九條 左ノ場合ニハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
一 指定期間内ニ第十三條ノ工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ
二 指定期間内ニ第十三條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ

第一百條 左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ許可又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ
一 六月以上送電ヲ中止シタルトキ
二 指定期間内ニ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサルトキ
三 第十三條、第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ落成期限内ニ落成セシメサルトキ

第一百一條 主任技術者ノ曠缺スルコト四月以上ニ亙ルトキハ朝鮮總督ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百二條 前二條ノ外電氣事業者本令ノ條項ニ違背シ又ハ本令ニ依リテ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ朝鮮總督ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第一百三條 電氣事業者使用認可證ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六月以上其ノ使用ヲ中止スルトキ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下付シタル官廳ニ於テ其ノ電氣工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ電氣事業者電氣事業ヲ廢止シ

又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル場合亦同シ

第七章 罰則

第一百四條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ得ヌ又ハ第十三條、第十五條、第十六條、第十九條若ハ第二十一條ノ認可ヲ受ケスレテ其ノ工事ニ著手シタル者第二十七條ノ許可ヲ受ケスレテ電氣事業ヲ讓渡若ハ讓受シタル者第三十條ノ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者或ハ第十八條、第二十二條、第二十三條、第三十八條、第七十八條若ハ第九十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 左ニ掲グル者ハ科料ニ處ス
一 第十五條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十五條、第四十條又ハ第四十二條ノ届出ヲ爲ササル者

二 第三十條ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ爲ササル者
三 第八十九條ノ認可ヲ受ケスレテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者

四 第五十四條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十八條、第七十一條、第七十九條乃至第八十一條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シタル者

五 第六十九條、第七十七條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十五條又ハ第九十六條ノ記録ヲ爲ササル者

第八章 官廳施設電氣事業
第一百六條 官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前第十五條ニ準シ書類及圖面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第一百七條 前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成シタルトキハ直ニ其ノ官ヲ朝鮮總督ニ報告シ其ノ使用ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ヌ

第一百八條 第六條ノ電氣事業ニ關シテハ第二十四條第二十五條第四十三條乃至第六十五條第六十七條乃至第七十七條第八十一條乃至第九十一條ノ規定ヲ準用ス

附則

第一百九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一百十條 本令施行ノ際既ニ施設シ又ハ現ニ使用スル電氣工作物ハ本令ニ依リ共ノ施設使用ヲ許可又ハ認可セラレタルモノト看做ス

前項ノ電氣工作物中本令ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三年内ニ本令ノ規定ニ適合セシメ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ三年ノ期間内ト雖第六十六條及第九十八條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

第一百一十條 前條ノ工作物ヲ有スル電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ共ノ電氣工作物ニ付第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項 改修ヲ要スル事項 改修ノ方法及期間ヲ詳記シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

朝鮮總督ハ前項ノ改修方法ヲ指定シ又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第一百十二條 本令施行前電氣事業ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニシテ未タ共ノ工事ニ著手セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項ヲ詳記シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ共ノ工事ニ著手シ未タ落成セサルモノ亦同シ

○朝鮮總督府令第二十五號(官報三月十五日) 陰竹郡ノ位置ヲ長湖院ニ變更ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年三月十一日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

○朝鮮總督府令第二十六號(官報三月十七日) 朝鮮總督府臨時防疫委員會規則左ノ通定ス

明治四十四年三月十三日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

朝鮮總督府臨時防疫委員會規則

第一條 「ハスト」豫防ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲臨時防疫委員會ヲ設ク

第二條 臨時防疫委員會ハ委員長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ委員長及委員ハ朝鮮總督之ヲ命ス

第三條 委員長ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ防疫ニ關スル事務ヲ統理ス

第四條 委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ防疫ノ事務ヲ掌ル

第五條 臨時防疫委員會ニ書記ヲ置ク

書記ハ委員長又ハ委員ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第二十七號(官報三月二十八日) 郵便爲替規則左ノ通定ス

明治四十四年三月二十三日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

郵便爲替規則目次

第一章 總則

第二章 通常爲替

第一節 振出

第二節 拂渡

第三節 拂渡停止及拂戻

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第二章 電信爲替

第四章 小爲替

第五章 郵便爲替證書讓渡

第六章 再度證書

第七章 郵便爲替金拂渡濟通知

第八章 郵便爲替金居室拂

郵便爲替規則

第一章 總則

第一條 朝鮮内及朝鮮ト内地 臺灣 樺太及在清國帝國郵便局所並關東都督府管内郵便局所トノ間

ニ取組ム郵便爲替ハ本令ニ依リ之ヲ取扱フ

第二條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ

此ノ限ニ在ラス

朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所(以下單ニ管ト稱ス)ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限リ之ヲ取扱フ

第三條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ左ノ如シ

一 通常爲替

一 電信爲替

一 小爲替

通常爲替及小爲替ノ金額ニハ錢位未滿、電信爲替ノ金額ニハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得

第四條 定期又ハ無定期ニ高額ノ金員ヲ郵便爲替ニ依リ送付セムトスル者ハ豫メ朝鮮總督府通信

局長官ノ認可ヲ受クルトキハ通常爲替證書一枚ノ金額ヲ規定ノ制限額以上ニ高ムルコトヲ得

官廳又ハ銀行業者高額ノ金員ヲ電信爲替ニ依リ送付セムトスルトキハ通信局長官ノ認可ヲ受ケ

電信爲替證書一枚ノ金額ヲ五千圓迄ニ高ムルコトヲ得

前項ノ電信爲替ハ朝鮮内ニ於テ振出し且拂渡スヘキモノニ限ル

第五條 前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ送金ノ目的、證書一枚ノ最高金額及振出郵便局所名等ヲ

記載シタル認可申請書ヲ當該振出局所經由通信局長官ニ差出スヘシ

高額爲替振出認可ヲ受ケタル者一年間其ノ振出ヲ爲ササルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 郵便爲替、郵便貯金、電信電話ノ事務ニ關シ當該官署相互間又ハ當該官署ト其ノ官吏

トノ間ニ受授スル官金、朝鮮總督ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ノ間ニ受授スル金員並郵便切手

類及收入印紙買受代金ハ無料通常爲替ト爲スコトヲ得

前項ノ無料通常爲替ニ對シテハ其ノ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

第七條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ左ノ如シ

一 朝鮮内

通常爲替

高額通常爲替

小爲替

電信爲替

高額電信爲替

二 朝鮮ト内地 臺灣又ハ樺太間

金六錢

以上爲替金額十圓迄ヲ増ス毎金四錢加徴ス

金三錢

爲替金額十圓迄

金三十錢

以上爲替金額十圓迄ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加徴ス

通常爲替
高額通常爲替
小爲替

朝鮮内ニ同シ

電信爲替

爲替金額十圓迄 金四十錢
以上爲替金額十圓迄ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加徴ス

三

朝鮮ト在清國帝國郵便局所及關東都督府管内郵便局所

爲替金額十圓迄 金十錢
以上爲替金額十圓迄ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加徴ス

通常爲替

金五錢

小爲替

朝鮮ト内地臺灣及樺太間ニ同シ

第八條

郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一人ニ限ル

第九條

代人ヲ以テ本令ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サントスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求證書

等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代人

ハ請求證書等ニ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第十條

法人又ハ法人ニ非サル團體ヨリ本令ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サントスルトキハ其ノ請

求證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩

書ヲ附シ記名調印スヘシ

第十一條

印章ヲ所持セサル爲本令ニ規定スル各種ノ請求證書等ニ調印スルコト能ハサルトキ

ハ相當保證人ヲ立テ記名調印セムヘシ

第十二條

郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ヲ提出又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ

爲之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十三條

露陵島千島國琉球國小笠原島伊豆諸島臺灣及樺太所在ノ郵便局所ト取組ミタル郵便

便爲替證書ノ有効期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一ノ島内ニ取組ミタルモノハ此ノ限

ニ在ラス

千島國及樺太所在ノ郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ每年十二月

一日ヨリ翌年四月三十日迄ハ其ノ有効期間ニ算入セス

第十四條

郵便爲替ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ納付ヲ受

ケタル郵便局所ニ於テ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一

郵便局所ノ過失ニ因リ過納又ハ誤納セシメタル料金

二

郵便局所ノ過失ニ因リ電信爲替證書ノ送達ヲ郵便ニテ到達スヘキ日時ヨリモ後レシメタル

場合ニ於ケル電信爲替料金但シ受取人ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ受ケタルモノニ在リテハ其ノ

爲替金額ニ對スル電信爲替料金ト通常爲替料金トノ差額ヲ還付ス

三

特殊取扱ノ請求アリタル郵便爲替ニ對シ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合

ニ於ケル特殊取扱料金

前項ノ料金ハ當該爲替證書ノ有効期間満了後三月ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコ

トヲ得ス

第二章

通常爲替

第一節

振出

第十五條

通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ

記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取

ルヘシ

前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標商號又ハ其ノ他ノ符號ヲ附記スルコトヲ得

第十六條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第十七條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十八條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替證書一枚毎ニ金五錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ヲ爲レタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之カ通知ヲ請求スルコトヲ得

前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモノトス

第十九條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第二十條 通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己又ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二十一條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應レタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節 拂渡

第二十二條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名關印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十三條 拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十八條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略スルコトアルヘシ

一 差出人ノ宿所氏名

二 受取人ノ宿所氏名

三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十四條 郵便貯金ニ受入レタル通常爲替證書ニ對シテハ前二條ノ規定ニ依ラス郵便局所ニ於テ之カ振替計理ヲ爲ス

第二十五條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚損シタルモノトス

一 爲替金額

二 爲替證書ノ記號番號

三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名關印

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

一 通常爲替證書送式ノトキ

二 通常爲替振出請求書送式ノトキ

三 通常爲替振出請求書未達ノトキ

四 通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ

五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十七條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ通常爲替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第二十八條 第二十六條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖其ノ停延期間内ニ事故判明ス

ルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十九條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ郵便局所ノ拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 通常爲替ノ受取人前條ニ依リ爲替金ノ假拂ヲ受クルトキハ郵便局所ニ其ノ受領証ヲ差出シ且通常爲替證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ證書面記載ノ金額ヲ受領スルトキハ通常爲替證書ニ記名調印スヘシ

第三節 拂渡停止及拂戻

第三十一條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ但シ差出人ニ於テ豫メ拂渡停止ノ解除期日ヲ指定セムトスルトキハ其ノ請求書ニ解除期日ヲ記載スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第三十二條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應ジタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第三十三條 第三十一條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ

差出人通常爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ尙證書ノ毀損若ハ汚損ニ係ルモノハ之ヲ添ヘ振出郵便局所ニ差出スヘシ

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲替金拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領証印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第二十六條 第三十四條第二項及第三十五條第一項ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第二十七條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第二十八條 通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名爲替證書記號番號爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第四十條 通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名爲替證書記號番號爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第四十一條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第四十二條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第四十三條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額、受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ電信爲替料金ト同額ノ料金別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十五條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ電信爲替證書ヲ作り之ヲ受取人ニ送達ス但シ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ於テ拂渡スヘキモノナルトキハ其ノ附近ニ在ル郵便集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ本文ノ手續ヲ爲ス

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十六條 第二章ノ規定ハ第十五條乃至第十八條ヲ除クノ外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章 小爲替
第四十七條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十八條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメタルトキハ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメタルトキハ受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ノ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十九條 小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ指定ヲ取消シムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ証印ヲ受クヘシ

第五十條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第五十一條 小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄
- 四 爲替證書ノ日附

第五十二條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 第二十六條乃至第二十八條、第三十條、第三十四條第二項及第三十五條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十八條、第三十九條及第四十二條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十四條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十四條第二項第三十五條及第三十九條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章 郵便爲替證書ノ讓渡

第五十四條 郵便爲替證書ハ其ノ裏面ニ二條ノ平行線ヲ畫シ銀行ニ對シ任憑ニ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ特ニ銀行ヲ指定セムトスルトキハ其ノ線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

讓受銀行ハ前項郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定ナキモノハ引渡ニ依リ又其ノ指定アルモノハ其ノ指定ヲ抹消シ前項ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモノヲ特ニ銀行ヲ指定シテ讓渡サムトスルトキハ證書裏面ノ平行線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

第五十五條 前條ノ場合ヲ除クノ外郵便爲替證書ハ任憑ニ之ヲ讓渡スコトヲ得但シ小爲替證書ニシテ受取人ノ指定ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第五十四條ニ依リ線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定アルモノハ其ノ指定銀行ノ又指定ナキモノハ一般銀行ノ請求ニ應ジ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第五十七條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第二十三條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第五十八條 郵便局所ハ交換所組合銀行ノ請求アルトキハ交換所所在地ニ限リ特ニ定ムル交換方法ニ依リ線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ之カ拂渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六章 再度證書

第五十九條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書有効期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ

前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添附差出スヘシ

第六十條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ毀損汚斑ノ郵便爲替證書アルトキハ之ヲ再度證書請求書ニ添附スヘシ

第六十一條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第六十二條 再度證書ノ請求ニ對シテハ管理所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確メタル上再度證書ヲ發行シ書留郵便ニ依リ之ヲ請求人ニ送達ス

第六十三條 小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ再度證書ヲ發行セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七章 郵便爲替金拂渡濟通知

第六十四條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金拂渡濟通知ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第六十六條 郵便爲替金拂渡濟通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第六十七條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡濟通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ルトキハ郵便爲替金拂渡濟通知書ニ記名調印スヘシ

第六十八條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡濟通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ル

モノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス但シ振替又ハ交換拂ノ方法ニ依リ拂渡シタルモノナルトキハ拂渡通知書ニハ受取人ノ記名調印ヲ徴セス拂渡月日及拂渡方法ヲ記載シ之ヲ送付ス

第六十九條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ爲替金拂渡濟否ノ取調ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便爲替種別振出月日、證書記號番號、爲替金額、拂渡郵便局所名及受取人宿所氏名ヲ記載シタル請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ニ對シ受付郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所又ハ管理所ニ拂渡濟否ノ照會ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第八章 郵便爲替金居宅拂

第七十條 郵便爲替金居宅拂渡ヲ取扱フ區域内ニ在ル者ノ受取ルヘキ郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及其ノ區域ハ別ニ告示スル所ニ依ル

第七十一條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ電信爲替ハ金五錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第七十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證明印ヲ捺捺ス

第七十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書ヲ作り之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求書封入ノ郵便物封皮表面ニ通信事務ト明記スヘシ

第七十四條

左ノ各號ノ場合ニ於テハ爲替金居宅拂ノ請求ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ轉居先同一郵便區内ニシテ且爲替金居宅拂取扱區域内ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 受取人轉居シタルトキ

二 受取人所在不明ナルトキ

三 郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ

四 受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ再度ノ居宅拂ヲ試ムルモ尙其ノ拂渡ヲ了スル事能ハサルトキ

第七十五條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルトキト雖拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス

第七十六條 本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年統監府令第二十二號同第二十六號及同四十二年朝鮮總督府令第五十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十一年七月三日統監府令第二十二號ハ官報銀行業者國內ニ於ケル高價電信管中請力等、同年八月二十五日統監府令第二十六號ハ韓國憲法施行規則、同四十三年十一月二十五日朝鮮總督府令第五十號ハ朝鮮總督府郵便局所、在清國帝國郵便局所及關東都督府郵便局所ト、同ニ取組ム郵便爲替料金は朝鮮總督府郵便局所ト内地臺灣、樺太ニ在ル郵便局所在清國帝國郵便局所及關東都督府郵便局所ト、同ニ取組ム電信爲替料金はナリ

○朝鮮總督府令第二十八號(官報三月二十八日)
地方委員會規則ハ明治四十四年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治四十四年三月二十二日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第二十九號(官報三月二十九日)
朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル制令施行細則左ノ通定ス

明治四十四年三月二十五日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府稅關貨物取扱人ニ關スル制令施行細則

第一條 稅關貨物取扱人ノ業務ニ從事セムトスル者ハ營業所ヲ定メ管轄區域毎ニ所轄稅關長ニ出願スヘシ但シ會社ニ在リテハ定款ノ賸本ヲ添フヘシ

第二條 稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘシ

第三條 免許料ハ二十圓トス收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四條 稅關貨物取扱人ハ免許狀ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ身元保證トシテ左ノ金額又ハ之ニ相當スル價格ヲ有スル有價證券ヲ提供スヘシ

仁川、釜山、京城 二千圓
元山、鎮南浦 千五百圓
其ノ他 千圓

第五條 稅關貨物取扱人ノ提供シタル身元保證金額ニ不足ヲ生シタルトキハ稅關長ハ本人ニ告知シ一月内ニ其ノ不足額ニ相當スル金額又ハ有價證券ヲ提供セシムヘシ

第六條 稅關貨物取扱人カ身元保證トシテ提供スル金額又ハ有價證券ハ之ヲ金庫ニ供託シ供託受領證ヲ所轄稅關ニ提出スヘシ

第七條 稅關貨物取扱人支店又ハ代理店ヲ設ケルトキハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ稅關稅關支署又ハ稅關出張所ニ届出ツヘシ
營業所又ハ代理店ヲ閉鎖シ若ハ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタルトキ亦同シ
第八條 稅關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ届出ツヘシ其ノ變更アルトキ亦同シ
附則
本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第十二號(官報三月三日)
明治三十九年一月府令第四號臺灣種痘規則施行規則中左ノ通改正ス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年二月二十一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ於テ通常種痘ト稱スルハ出生後ニ行フ第一回ノ種痘及其ノ種痘不感ナリトキ更ニ行フ第二回ノ種痘ヲ云フ

特別種痘ト稱スルハ通常種痘ヲ終リタル者ノ内廳長カ必要ト認メテ指定シタル者ニ行フ種痘ヲ云フ

第一條ヲ第一條ノ二ニ改ム

第五條 廳長ハ毎年入寄留者ニ就キ其ノ管内ニ於テ痘瘡ニ罹リタル者及通常種痘ヲ終リタル者ノ種痘年月日並其ノ感不感ヲ調査シ十二月末日迄ニ其ノ本居地ヲ管轄スル廳長ニ通知スヘシ

第六條 廳長ハ毎年出寄留者ニ就キ戶口調査簿種痘欄記入未済ノ者ヲ調査シ翌年一月末日迄ニ其ノ寄留地ヲ管轄スル廳長ニ通知スヘシ

第八條第四號中若ハ韓國ヲ削ル

第十三條中「旅券ヲ取上ケ」ヲ「旅券ヲ下付シタル官廳ニ取上ケ」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

第四條ノ規定ニ違反シテ外國ニ渡航シ若ハ渡航セムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第八十六號外國旅券規則(明治四十年十月三十日)抄錄

第一條第一項及第二項 臺灣ヨリ直ニ外國ニ渡航セムトスル帝國臣民ニシテ旅券ヲ下付ヲ請フ者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ其ノ本居地若ハ寄留地ヲ管轄スル廳ニ送付スヘシ

前項ノ願書ニハ戶口調査簿ノ抄本及本島人ニ在リテハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞(半身ニ限リ)ヲ添附スヘシ

第四條 臺灣ニ在ル韓國臣民ノ旅券ノ下付ニ關シテハ此ノ規則ヲ準用ス但シ臺北廳及臺南廳ニ限リ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本籍地ノ記載ヲ省略セシムルコトヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ヲ下付ヲ受ケルコトヲ得ス

四 濟國若ハ韓國ニ在留禁止命令中ノ者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ取上ケ六箇月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○臺灣總督府令第十四號(官報三月十六日)

官設埤灌溉地臺帳及水租徵收規則左ノ通相定ム

明治四十四年三月八日 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

官設埤灌溉地臺帳及水租徵收規則

第一條 臺灣總督府土木部ニ灌溉地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス

一 座落

二 地番

三 等級

四 地目

五 甲數

六 水租

七 業主、典主住所氏名又ハ水租ヲ負擔スル佃戶ノ住所氏名但シ業主、典主又ハ水租ヲ負擔スル佃戶カ社團、財團又ハ公業ナルトキハ其ノ管理人ノ住所氏名

國庫ニ屬スル土地ノ借受人ハ佃戶ト看做ス

灌溉地臺帳ニ登錄シタル土地ニ付テハ附屬地圖ヲ編製シ座落、地番、地目及境界ヲ表示ス

第一項ノ地番、地目、甲數ハ土地臺帳ニ依リ、土地臺帳ニ登錄ナキ土地ニ在リテハ臺灣總督府土木部長ノ調査シタル所ニ依ル

第二條 水利ヲ受クヘキ土地ノ業主、典主又ハ佃戶ノ負擔スル水租ハ灌溉地臺帳ニ登錄シタル土地ニ付水利ニ依リ所得ヲ審査シ等級ヲ決定シ租率ニ依リ甲數ニ應シテ之ヲ課ス

第三條 動力其ノ他ノ目的ノ爲埤圳ノ水ヲ使用スル者ノ負擔スル水租ハ其ノ使用ノ程度ヲ審査シ事業ノ種類ニ應シテ之ヲ課ス

第四條 土地ノ等級及租率ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 灌溉地臺帳ニ登錄スヘキ場合左ノ如シ

一 官設埤規則施行規則第十條第一項ノ告示ニ依リ灌溉區域ノ指定アリタルトキ

二 第十七條ニ依リ登錄ノ申告アリタルトキ

第六條 灌溉地臺帳ニ登錄シタル土地ハ左ノ場合ニ於テ其ノ登錄ヲ削除ス

一 官設埤圳規則施行規則第十條第一項ノ告示ニ依リ灌溉區域外トナリタルトキ
 二 第十七條ニ依リ登録削除ノ申告アリタルトキ
 第七條 土地ノ等級及水租ハ一地番毎ニ之ヲ定ム但シ土地登記ニ登録ナキ土地ハ一區域ヲ以テ一地番ト看做ス
 水租ノ算出上一錢未滿ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テ五厘未滿ハ切捨テ五厘以上ハ一錢トシテ計算ス但シ一地番ノ水租額一錢未滿ノモノハ一錢トシテ計算ス
 第八條 第二條ノ水租ハ地租ノ納期ニ依リ其ノ土地ノ管轄廳長之ヲ徵收ス
 第九條 第三條ノ水租ハ其ノ土地ノ管轄廳長ニ於テ適宜納期ヲ定メ之ヲ徵收ス
 第十條 灌溉地登記ニ登録シタル土地ノ水租ハ其ノ翌年ヨリ之ヲ徵收ス
 灌溉地登記ヨリ削除シタル土地ノ水租ハ其ノ翌年ヨリ之ヲ徵收セズ
 第十一條 第三條ノ水租ハ許可ノ日ヨリ徵收ス其ノ使用ヲ廢止シタルトキ又ハ使用許可ノ取消アリタルトキハ其ノ翌月ヨリ徵收セズ
 第十二條 水利ヲ受クヘキ土地ニシテ天災ニ因リ荒地トナリ又ハ水利ヲ害セラレタルトキハ被害ノ狀況ニ應シ其ノ翌年ヨリ五年以内ノ免租年期ヲ付與スルコトヲ得
 第十三條 水利ヲ受クヘキ土地ニシテ灌溉、排水ノ目的ヲ以テ區劃又ハ形狀ノ變更若ハ地目變換ヲ要スルモノハ其ノ事業ノ狀況ニ應シ處分ノ翌年ヨリ十年以内ニ於テ年租ヲ定メ五割以内水租ヲ低減スルコトヲ得
 第十四條 前二條ニ依リ年租ヲ付與シタルモノハ年租滿了ノ翌年ヨリ原水租ニ復ス
 第十五條 第二條ノ水租ノ増減ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ其ノ翌年ヨリ更正額ニ依リ水租ヲ徵收ス
 第十六條 第三條ノ水租ニシテ使用方法ノ變更其ノ他増減ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ其ノ翌

月ヨリ更正額ニ依リ水租ヲ徵收ス
 第十七條 灌溉區域内ニ於ケル灌溉地登記未登録地ニシテ新ニ水利ヲ受ケムトスルトキ又ハ灌溉地登記未登録地ニシテ水利ヲ受ケサル土地トナリタルトキハ別記第一號様式ニ依リ其ノ都度臺灣總督府土木部長ニ申告スヘシ
 第十八條 第十二條ニ依リ免租年期ノ付與ヲ請ハムトスル者ハ別記第二號様式ニ依リ被害後九十日以内ニ其ノ土地ノ管轄廳長ニ願出ヘシ
 第十九條 第十三條ニ依リ低租年期ノ付與ヲ請ハムトスル者ハ別記第三號様式ノ願書ニ事業方法書及圖面ヲ添附シ事業著手前其ノ土地ノ管轄廳長ニ願出ヘシ
 第二十條 前二條ニ依リ出願又ハ申告ハ水租ヲ負擔スヘキ者ヨリ之ヲ爲スヘシ
 第二十一條 動力其ノ他ノ目的ノ爲水ヲ使用セムトスル者ハ別記第四號様式ノ願書ニ事業方法書及圖面ヲ添附シ臺灣總督府土木部長ノ許可ヲ受クヘシ水ノ使用方法ヲ變更セムトスル場合亦同
 前項ノ使用ヲ廢止セムトスルトキハ別記第五號様式ニ依リ臺灣總督府土木部長ニ申告スヘシ但シ使用者ノ死亡又ハ使用期間滿了ノ爲廢止スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二十二條 水利ヲ受クヘキ土地ノ業主、典主又ハ佃戶ニシテ他廳管内ニ在ルトキハ其ノ土地管轄ノ管轄内ニ納租代人ヲ定メ別記第六號様式ノ申告書ニ戶口調査簿抄本ヲ添ヘ其ノ土地ノ管轄廳長ニ申告スヘシ其ノ納租代人ヲ變更、廢止シタルトキ亦同シ但シ納租代人廢止ノ申告書ニハ戶口調査簿抄本ノ添附ヲ要セス
 地租ノ納租代人ハ水租ノ納租代人ト看做ス
 第二十三條 官設埤圳ニ關スル規定ニ依ラスシテ官設埤圳ノ水ヲ使用シタル者ハ其ノ通脫シタル水租ヲ定メ其ノ都度之ヲ追徵ス制限以外ニ水ヲ使用シタルトキ亦同シ

第六號様式

納租代人設置(變更)(廢止)申告書

左記ノ通中告領也

年月日

住所

住所

業主(地主)氏

名印

納租代人 氏

名印

廳長宛

座落	地番	地目	水租	事由

備考

一 納租代人ヲ變更又ハ廢止シタルトキハ其ノ元納租代人ノ氏名ヲ事由欄ニ記入スヘシ

○臺灣總督府令第十五號(官報三月十六日) 明治三十九年七月府令第四十九號臺灣鐵業規則施行細則中左ノ通改正ス

明治四十四年三月九日

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

第二十七條 鐵業人ハ左ニ掲グル工作物ヲ設置シ又ハ變更セムトスルトキハ第一號ノモノニ付テハ其ノ設計書及圖面ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ、第二號ノモノニ付テハ使用ノ目的ヲ明記シ豫メ届出ヘシ

- 一 汽罐、捲揚機、選礦場、燒礦場、製煉場及煙突
- 二 汽機、瓦斯發動機、發電機、電動機、水車、唧筒、通風機

前項第一號ニ掲ケタルモノノ工事ヲ完成シタルトキハ其ノ旨ヲ届出テ使用ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス共ノ使用ヲ廢止セタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

臺灣總督府令第四十九號臺灣鐵業規則施行細則(明治三十九年八月十七日官報)抄録 第三十七條 鐵業人ハ鐵業ニ使用スル汽機、汽罐、其ノ他ノ發動機、選礦場又ハ製煉場ヲ新設シタルトキハ其ノ位置、使用ノ目的及設計ノ大要ヲ記シタル書面並圖面ヲ添ヘ其ノ旨ヲ届出ヘシ

○臺灣總督府令第十六號(官報三月十六日)

明治四十三年三月府令第十八號郵便振替貯金規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

第十一條ノ二 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金ニシテ郵便官署ノ過失ニ因リ過納又ハ誤納セシメタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ納付ニ係ルモノナルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ニ係ルモノナルトキハ現金ヲ以テ之ヲ還付ス 前項ノ料金ハ納付後九十日ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

○關東都督府令第五號(官報三月十四日)

罰金科料等ヲ收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ルノ件左ノ通定ム

關東都督 子爵大島義昌

明治四十四年三月四日 罰金、科料、過料及刑事追徵金ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第六號(官報三月三十一日)

明治二十九年三月關東州民政署令第十二號魚市場規則中左ノ通改正ス

明治四十四年三月十日

關東都督 子爵大島義昌

第二條第五條第六條第七條第十條中民政長官ヲ關東都督ニ改ム

第三條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第七號(官報三月三十一日)

明治四十年四月府令第十八號關東州地方稅規則中左ノ通改正ス

明治四十四年三月十三日

關東都督 子爵大島義昌

第一條第一項中民政署長ノ下ニ又ハ民政支署長ヲ加ヘ第二項ヲ左ノ通改ム

民政署長又ハ民政支署長ハ必要ニ應シ部下ノ官吏ヲシテ前項ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條中民政署長ノ下ニ又ハ民政支署長ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第十八號關東州地方稅規則(明治四十年四月一日(官報)抄錄)

第一條 關東州地方稅ハ此ノ規則ノ定ムル所ニ依リ民政署長之ヲ賦課徵收ス

民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ得テ支署長ヲシテ賦課徵收セシムルコトヲ得

第四條 民政署長ニ於テ納稅ニ堪ヘスト認ムル者ハ關東都督ノ認可ヲ得テ地方稅ヲ減免スルコトヲ得

○關東都督府令第四號(官報三月十日)

關東都督府臨時防疫支部規程左ノ通定ム

明治四十四年二月十七日

關東都督 子爵大島義昌

關東都督府臨時防疫支部規程

第一條 (ハ)スト防疫ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲旅順、大連、大連港、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、長

春、安東ニ臨時防疫支部ヲ置ク

第二條 臨時防疫支部ニ左ノ職員ヲ配屬ス

委員

書記

監吏

第三條 臨時防疫支部ニ支部長一名副長若干名ヲ置キ委員中ニ就キ關東都督之ヲ命ス

第四條 支部長ハ臨時防疫部長ノ指揮監督ヲ承ケ其ノ管内ノ防疫事務ヲ掌理シ部下ヲ指揮監督ス

第五條 副長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 委員ハ支部長ノ命ヲ承ケ防疫事務ヲ掌ル

第七條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 監吏ハ上司ノ指揮ヲ承ケ防疫事務ニ從事ス

第九條 臨時防疫部長ハ必要ト認メタル地ニ支部出張所ヲ設クルコトヲ得

出張所ニ必要ナル委員書記監吏ヲ配屬ス

出張所ニ所長ヲ置キ前項ノ職員中ニ就キ部長之ヲ命ス

第十條 支部ノ管轄區域ハ民政署、警務署ノ管轄區域ニ依ル但シ大連港支部ノ管轄ハ大連港及旅

順港トス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ没收シ百圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ三箇月以下ノ懲役若ハ拘留ニ處ス
一 第一條各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第六條各號ノ一ニ該當スル者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ行爲ヲ以テ旅券ノ下
付ヲ受ケタル者及之ヲ幫助シタル者

○朝鮮總督府令第三十一號(官報 四月十日)
郵便貯金規則左ノ通定ス

朝鮮總督 子爵寺内正毅

明治四十四年三月三十一日

郵便貯金規則目次

- 第一章 總則
- 第一節 通則
- 第二節 貯金利子
- 第三節 通帳檢閲
- 第四節 再度通帳
- 第五節 讓渡及相續
- 第二章 貯金預入
- 第一節 通常預入
- 第二節 郵便切手預入
- 第三節 證券預入
- 第四節 局所外預入
- 第三章 貯金拂戻
- 第一節 通則
- 第二節 通常拂戻
- 第三節 特殊拂戻

第四章 證券購入保管及賣却

- 第一節 通則
- 第二節 證券購入及保管
- 第三節 證券交付及賣却
- 第五章 特別貯金
- 第一節 規約貯金
- 第二節 据置貯金
- 第三節 共同貯金
- 第四節 海外貯金

郵便貯金規則

第一章 總則

- 第一節 通則
- 第一條 郵便貯金ハ特ニ告示シタル場合ヲ除クノ外何レノ郵便局所ニ於テモ之ヲ取扱フ
- 第二條 左ノ貯金預ケ人ハ貯金ノ目的ヲ異ニスル場合ニ限リ二冊以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得
 - 一 公共團體社寺學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體
 - 二 規約貯金ノ預ケ人
 - 三 据置貯金ノ預ケ人
 - 四 共同貯金ノ總代人
- 第三條 貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ貯金ノ目的ヲ表示スヘキ簡單ナル文詞備載
ヲ印刷又ハ筆書スルコトヲ得
- 第四條 郵便貯金ノ受入及拂出ハ朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所 郵便貯金局 大阪郵便貯金支局

下關郵便貯金支局及臺灣總督府民政部通信局(以下單ニ貯金庫)ニ於テ之ヲ貯金預ケ人原簿ニ登記ス

第五條 一人ノ郵便貯金總額制限ヲ超過シタルトキハ郵便官署ハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

前項ノ通知ヲ發シタル後三十日以内ニ預ケ人ヨリ減額ノ請求ヲキトキハ貯金原簿所管廳ハ郵便貯金法第六條ノ手續ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テハ第四章ノ規定ヲ準用ス但シ證券購入保管料金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ控除ス

第六條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ニ於テ本令ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ名稱ヲ記載シ其ノ印ヲ捺捺スルカ又ハ其ノ代表者、管理者ニ於テ相當ノ書ヲ附シ記名調印スヘシ

第七條 代人ニ於テ本令ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サントスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出し代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作製スルコトヲ得

第八條 貯金預ケ人ハ一名ヲ限リ加印者ヲ設クルコトヲ得

加印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本令ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ加印者モ亦當該書類ニ其ノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

第九條 貯金預ケ人加印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及新舊加印者連署シ且新加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人其ノ加印者ヲ廢シタルトキハ前項ノ例ニ準シ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十條 貯金預ケ人預入開始後加印者ヲ設ケタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及加印者連署シ且加印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十一條 印章ヲ所持セザル者貯金預ケ人トナルトキハ代印者一名ヲ設クヘシ

代印者ヲ設ケタル貯金預ケ人本令ノ定ムル所ニ依リ記名調印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ本人ノ氏名ヲ記シ尙代印者記名調印スヘシ

第十二條 貯金預ケ人代印者ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ新舊代印者連署シ且新代印者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條 貯金預ケ人代印者ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ニ預ケ人及代印者連署シ且預ケ人ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

第十四條 貯金預ケ人印章ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且通帳ヲ呈示スヘシ但通帳ヲ呈示シ能ハサル場合ニ於テ正當本人タルコトヲ證明シ得サルトキハ郵便局所ノ相當ト認ムル保證人ヲ立ツヘシ

代印者又ハ加印者印章ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出ヲ爲スヘシ但レ加印者印章變更ノ場合ニ於テハ其ノ届書ニ預ケ人ノ連署ヲ要ス

第十五條 貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ其ノ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ届書ニ記名調印シ之ヲ貯金原簿所管廳ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第十六條 貯金預ケ人其ノ住所ヲ他ノ貯金原簿所管廳ノ所管區域内ニ移轉シタルトキハ當該原簿所管廳ニ預ケ人原簿ノ移替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯金通帳ヲ又證券保管通帳ヲ所持スルモノナルトキハ該通帳ヲモ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出し其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金原簿所管廳ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ移替先ヲ所管區域トスル貯金原簿所管廳ニ預ケ人原簿ヲ移替シ其ノ移替ヲ受ケタル貯金原簿所管廳ニ於テ通帳記載番號ヲ更訂シタル上通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ヲ引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第十七條 公共團體、社寺、學校又ハ各種ノ法人若ハ團體ノ代表者、管理者ニ異動アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊代表者、管理者連署シ且新代表者、新管理者ノ印鑑ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出ス

第十八條 特別即時拂取振込受付ヘキ貯金預ケ人第九條第十條第十二條乃至第十五條及第十七條ノ届出ヲ爲ストキハ當該特別取振郵便局所ニ對シテモ亦其ノ届出ヲ爲スヘシ

第十九條 貯金預ケ人第九條第十條第十二條乃至第十五條及第十七條ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ通帳中變更ニ係ル事項ヲ訂正スヘシ

第二十條 貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ當該通帳ノ記號番號ヲ附記スヘシ

第二十一條 郵便官署ニ於テ必要ト認メタルトキハ貯金預ケ人ノ請求ニ依リ貯金ニ關スル特別ノ取扱ヲ爲ス場合ト雖其ノ承認ヲ取消シ又ハ其ノ取扱局所ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十二條 天災其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限り本令ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス

前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ揭示ス

第二十三條 郵便貯金ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便局所ニ納付シタルモノハ當該郵便局所ニ於テ又貯金原簿所管廳ニ納付シタルモノハ納付人所在ノ最寄郵便局所ニ於テ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一 郵便局所ノ過失ニ因リ過納又ハ誤納セシメタル料金

二 貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サリレ場合ニ於ケル證券購入保管料金

三 貯金預ケ人ノ請求ニ對シ郵便局所ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル既納ノ料金

前項ノ料金ハ納付後九十日ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十四條 朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所(以下單ニ郵便爲替貯金管理所トス)所管ノ通帳所持ノ貯金預ケ人ハ該通帳ヲ以テ朝鮮總督府郵便官署以外ノ郵便官署ニ於テ各其ノ規定ニ從ヒ預入又ハ拂戻ヲ爲スコト

ヲ得此ノ場合ニ於テ朝鮮文ノ郵便貯金通帳ヲ所持スルモノニ限り朝鮮内ニ於テ普通ノ郵便貯金通帳トノ引換ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ

前項朝鮮文貯金通帳ノ引換ニ關シテハ第四節中通帳餘白ナキモノニ關スル規定ヲ準用ス

第二節 貯金利息

第二十五條 郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戻證書發行ノ前月マテ又拂戻證書ヲ發行セザルモノハ拂戻金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス但シ一月ノ預入金中十錢未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十六條 貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ四月ヨリ更ニ利子ヲ附ス但シ其ノ十錢未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第二十七條 貯金預ケ人ハ通帳ニ元加利子ノ記入ヲ受クル爲毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第二十八條 前條ノ通帳ニ對シテハ貯金原簿所管廳ニ於テ元加利子ノ記入ヲ爲シ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 通帳檢閲

第二十九條 貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ貯金原簿所管廳ノ檢閲ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ニ依リ貯金原簿所管廳ニ於テ通帳ヲ檢閲シタルトキハ其ノ通帳ニ依リ何レノ郵便局所ニ於テモ即時拂取振込ヲ爲サシムル爲特ニ貯金現在高ノ證明ヲ附ス但シ貯金預ケ人ニ於テ通帳提出ノ際反對ノ申出ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 貯金原簿所管廳ニ於テ通帳ノ檢閲ヲ爲サムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示セル方法ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付スヘシ

第三十一條 貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ郵便局所所屬員ニ交付シタルトキハ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第三十二條 檢閱ノ爲提出ニ係ル通帳ハ貯金原簿所管廳ニ於テ之ヲ當該貯金預ケ人原簿ニ對照シ其ノ預拂金ノ正當ナルコトヲ確メタル上通帳最終記載ノ次欄ニ貯金現在高ヲ附記ス

前項檢閱済ノ通帳ハ第二十九條第二項ニ依リ現在高證明ニ係ルモノハ書留郵便ニ依リ其ノ他ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四節 再度通帳

第三十三條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ貯金原簿所管廳ニ再度通帳ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 通帳ヲ亡失シタルトキ

二 通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 通帳餘白ナキニ至リタルトキ

前項第一號及第二號ニ依ル再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一冊ニ付料金五錢ヲ收ス

第三十四條 貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ通帳アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第三十五條 貯金原簿所管廳ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ預ケ人原簿ニ依リ再度通帳ヲ發行シ通帳ハ郵便局所ニ於テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ交付ス

第三十六條 再度通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無効トス

第五節 讓渡及相續

第三十七條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ讓渡スコトヲ得

一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニ讓渡ス場合

二 親族ニ讓渡ス場合

三 遺言ニ依リ讓渡ス場合

第三十八條 貯金ノ讓受人ハ速ニ貯金ノ名義書換ヲ貯金原簿所管廳ニ請求スヘシ

前項ノ場合ニ於テ讓受人カ既ニ自己名義ノ通帳ヲ所持スルトキハ其ノ通帳ニ讓受ニ係ル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十九條 貯金讓受人貯金ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且讓受人ノ印鑑及左ノ書類ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ

通帳受領證ヲ受取ルヘシ

一 法人若ハ團體ニ於テ讓受ケタルトキハ營利ヲ目的トセサルコトヲ認ムヘキ相當證明書

二 親族ニ於テ讓受ケタルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ戸籍ノ謄本若ハ抄本

三 遺言ニ依リ讓受ケタルトキハ相當證明アル遺言書謄本

第四十條 貯金讓受人貯金ノ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ遺言ノ場合ヲ除クノ外讓受人及讓渡人連署シ且自己名義ノ通帳及讓受ニ係ル通帳並前條各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第四十一條 貯金原簿所管廳ニ於テ前二條ノ請求ニ依リ貯金ノ名義書換又ハ轉記ヲ了シタルトキハ通帳ハ郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

第四十二條 貯金ノ讓渡人反對ノ申出ヲ爲ササルトキハ當該貯金ニ屬スル證券モ亦讓渡ヲ爲シ

ルモノト看做ス

第四十三條 死亡ニ因ル家督相續人又ハ遺產相續人、被相續人ノ貯金ノ名義書換若ハ轉記ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ戸籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添ヘ名義書換ノ場合ハ尙印鑑ヲ添ヘ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘン但シ郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ相當保證人ヲ立テシムルコトアルヘン
死亡以外ノ原因ニ依ル家督相續人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第三十九條及第四十條ノ例ニ依ルヘン

第四十一條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二章 貯金預入

第一節 通常預入

第四十四條 新ニ貯金預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金預入申込書ヲ編製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘン
前項ノ場合ニ於テ貯金預入ケ人カ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ナルトキハ貯金預入申込書ニ相當證明書ヲ添附スヘン

第四十五條 郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名義ノ通帳ヲ編製シ預ケ入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス
貯金預ケ人通帳ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ印鑑欄ニ預入申込書ニ使用シタル印章ヲ捺捺スヘン

第四十六條 朝鮮人ノ預入ニ係ル郵便貯金ニ對シテハ朝鮮文ノ郵便貯金通帳ヲ交付ス但シ預ケ人ノ希望ニ依リ普通ノ郵便貯金通帳ヲ交付ス
第四十七條 貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預

入金ノ記入ヲ受クヘン

第四十八條 貯金預ケ人通帳ヲ郵便官署ニ提出中貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ郵便局所ニ通帳受領證ヲ呈示シタル上現金ヲ差出シ其ノ假預リ證ヲ受取ルヘン
貯金預ケ人通帳ノ返付ヲ受ケタルトキハ預入ヲ爲シタル郵便局所ニ前項ノ假預リ證ヲ差出シ通帳ニ預入金ノ轉記ヲ受クヘン

第四十九條 郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額、預入年月日共ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シ且日附印ヲ捺捺シテ之ヲ證明ス

第二節 郵便切手預入

第五十條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル郵便切手ハ左ノ五種トス

- 一 五厘郵便切手
- 二 一錢郵便切手
- 三 一錢五厘郵便切手
- 四 二錢郵便切手
- 五 三錢郵便切手

第五十一條 郵便切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ノ交付スル郵便切手貯金書紙ニ同一種類ノ郵便切手ヲ其ノ相當欄全部ニ貼付シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘン

第五十二條 郵便切手貯金書紙ハ之ヲ私製スルコトヲ得但シ郵便官署發行ノモノト様式、寸法等ヲ異ニスルモノナルトキハ豫メ其ノ紙質、寸法並之ニ印刷スヘキ文字、欄劃又ハ繪畫等ニ關スル見本ヲ朝鮮總督府通信局ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘン
前項但書ニ依リ發行スル書紙ニハ其ノ看易キ箇所ニ何年何月何日朝鮮總督府通信局認可ノ文

字ヲ表示スヘシ

第五十三條 郵便切手ニ依ル貯金ノ預入ハ一月一圓ヲ超ユルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタル者アルトキハ其ノ制限超過額ヲ無効トシ共ノ消印シタル郵便切手ニ對
シテ之カ代價ヲ爲サス

第三節 證券預入

第五十四條 郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス
前項ノ證券ニシテ割増金附ノモノナルトキハ割増金モ共ニ預入スルコトヲ得

郵便貯金ニ預入スル證券ニシテ所得稅ヲ課セラルルモノハ其ノ所得稅額ヲ控除シタル額ヲ以
テ貯金預入額トス

第五十五條 證券ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ證券ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入
ヲ受クヘシ但シ證券ニ支拂期ノ明記ナキモノハ預ケ人ニ於テ其ノ支拂期ノ開始セルモノナルコ
トヲ證明スヘシ

第四節 局所外預入

第五十六條 一定ノ場所及日時ニ於テ貯金ノ預入ヲ爲ス者多數アルトキハ郵便局所ハ其ノ預ケ人
ノ請求ニ依リ吏員ヲ派出シ之カ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第五十七條 郵便局所ノ郵便區市外ニ在ル貯金預ケ人ハ當該郵便局所ノ郵便集配人ニ依リ預入ヲ
爲スコトヲ得但シ證券ニ依ル預入ハ此ノ限ニ在ラス

郵便集配人ニ於テ貯金ノ取扱ヲ爲スヘキ場所及日時ハ所轄郵便局所長ノ揭示スル所ニ依ル
第五十八條 郵便局所ノ派出吏員又ハ郵便集配人ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ場
所及日時ニ於テ貯金預入申込書又ハ通帳ニ預入金ヲ添ヘ之ヲ派出吏員又ハ郵便集配人ニ交付シ
共ノ受領證ヲ受取ルヘシ

同一ノ場所及日時ニ於テ預入ヲ爲サムトスル者多數アルトキハ取扱ノ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ
得此ノ場合ニ於テハ其ノ取扱人ニ於テ各預ケ人ノ氏名金額等ノ内譯書ヲ編製シ之ヲ添附スヘ
シ

第五十九條 前條ニ依リ取扱ヲ爲シタル貯金ニ對シテハ所轄郵便局所ニ於テ相當手續ヲ爲シタル
上通帳ハ預入ノ日ヨリ起算シ五日内ニ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス但シ取扱メ預
入ヲ爲シタルモノナルトキハ之ヲ其ノ取扱人ニ交付ス

第六十條 貯金預ケ人前條ノ期間内ニ通帳ノ交付ヲ受ケザルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當該郵便局所
長又ハ朝鮮總督府通信局長官ニ申告スヘシ

第三章 貯金拂戻

第一節 通則

第六十一條 貯金拂戻證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ六十日トス

第六十二條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ五十錢以上ノ貯金ヲ殘シ置クヘ
シ但シ朝鮮文通帳ナルトキハ十錢以上ヲ以テ足ル

第六十三條 貯金預ケ人ハ貯金ノ一部拂戻ノ場合ニ於テハ十錢未満ノ端數及未メ元金ニ加ヘサル
利子ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第二節 通常拂戻

第六十四條 貯金預ケ人貯金ノ一部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ
依リ貯金拂戻請求書ヲ編製シ之ヲ貯金原簿所管廳ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第六十五條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ貯金拂戻請求書
ヲ編製シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ但シ請求書ニハ拂戻金額ヲ
記載セス共ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記スヘシ

第六十六條 前二條ノ貯金拂戻請求ニ對シテハ貯金原簿所管屬ニ於テ其ノ請求書ヲ預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキヲ認メタル上拂戻證書ヲ編製シ之ヲ請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第六十七條 貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領印ヲ爲シ之ニ通帳又ハ通帳受領證ヲ添ヘ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

拂渡郵便局所ハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額、通帳記號番號、預ケ人ノ氏名及印鑑ノ符合スルヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十八條 左ノ場合ニ於テハ拂渡郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 拂戻證書遺失ノトキ
- 二 拂戻請求書遺失ノトキ
- 三 拂戻請求書未達ノトキ
- 四 拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

拂戻金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ當該郵便局所ニ於テ拂戻證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記載印シ之ヲ請求人ニ返付ス

第六十九條 郵便局所ハ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザル場合ニ於テハ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ又拂渡資金缺乏ノ場合ニ於テハ其ノ拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ拂戻請求人ノ請求ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ爲ス

第七十條 貯金拂戻請求人前條ニ依リ拂戻金ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出シ且拂戻證書ヲ呈示シテ之ニ假拂金ノ記入ヲ受クヘシ但シ拂戻證書ト拂戻請求書ト金額符合セザル場合

ニ於テ拂戻證書ニ記載シタル金額ノ拂渡ヲ受クルモノナルトキハ拂戻證書ニ受領印スヘシ

第七十一條 郵便局所ハ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ニ於テ其ノ事故判明シ又ハ資金充實シテ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキ若ハ停延期間ノ延長ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第七十二條 郵便局所ニ於テ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲メ經過シタル日數ハ拂戻證書ノ有効期間ニ算入セス

第七十三條 貯金預ケ人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ通帳ノ記號番號、拂戻金額、原拂渡郵便局所名及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名等ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第七十四條 貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ郵便官署ニ再度拂戻證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 拂戻證書ヲ亡失シタルトキ
- 二 拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ
- 三 拂戻證書有効期間ヲ經過シタルトキ

再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ徴收ス

第七十五條 貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳記號番號、拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名調印シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

第七十六條 郵便官署ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シテ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第七十七條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第七十八條 貯金預ケ人拂戻證書ノ交付ヲ受ケタル後現金受領ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ

拂戻金ノ戻入ヲ請求スルコトヲ得但シ貯金全部拂戻ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 貯金預ケ人拂戻金ノ戻入ヲ請求セムトスルトキハ拂戻證書ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シテ不判明トナリタルモノハ通帳記號番號拂戻金額拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル戻入請求書ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ニ拂出及受入ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第三節 特殊拂戻

第八十條 貯金預ケ人ハ貯金原簿所管屬ニ於テ第二十九條第二項ニ依リ證明ヲ爲シタル貯金現在金額ニ付テハ何レノ郵便局所ニ於テモ一日五十圓以内一箇月二百圓以内ヲ限リ即時拂ヲ請求スルコトヲ得通帳ニ預入金ヲ記入シタル郵便局所ニ對シ共ノ記入金額ニ就キ拂戻ヲ請求スル場合亦同シ

第八十一條 貯金預ケ人貯金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領證ニ捺印シタル印影ト通帳ニ捺印シタル印影ト對照シ相違ナキヲ認メタル上請求人ニ拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ノ場合ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第八十二條 貯金預ケ人貯金全部ノ即時拂ヲ請求シタル場合ニ於テ現金ニ組入レタルト否トヲ問ハス通帳ニ記入セラレザル利子アルトキハ貯金原簿所管屬ニ於テ之ニ對シ拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

前項ノ拂戻證書ニ對シテハ何レノ郵便局所ニ於テモ之ト引換ニ現金ヲ交付ス

第八十三條 貯金預ケ人郵便局所ニ於テ豫メ特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケタルトキハ第八十條ノ場合ニ於テ金額ノ制限ナク當該郵便局所ニ貯金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十四條 貯金預ケ人最初預入ノ際特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ貯金預入申込書ト共ニ其ノ副本ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

既ニ通帳ヲ所持スル者特別即時拂取扱ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ郵便局所ニ通帳ヲ呈示シ且貯金預入申込書副本ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ特別即時拂取扱ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス

第八十五條 貯金預ケ人ハ別ニ告示スル郵便局所ニ於テ貯金ノ全部又ハ一部ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第八十六條 貯金預ケ人局待拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ受領證ヲ郵便爲替貯金管理所ニ於ケル預入申込書及預ケ人原簿ニ對照シ相違ナキヲ認メタル上之カ拂渡ヲ爲ス

第四章 證券購入保管及賣却

第一節 通則

第八十七條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入保管スヘキ證券ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十八條 貯金預ケ人ノ請求ニ依リ郵便官署ニ於テ購入シ又ハ賣却スル證券ノ價格ハ逓信大臣及大藏大臣ノ協定シタル所ニ依ル但シ日本勸業銀行ヨリ其ノ賣出中ニ係ル勸業債券ヲ購入スル場合ハ其ノ發行價格ニ依ル

第八十九條 證券購入保管又ハ賣却ニ關スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス但シ公共團體又ハ社寺ヨリ共ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ保管料金ヲ徴收セズ

第九十條 郵便官署ニ於テ購入スル證券ノ代金ハ預ケ人ノ貯金ヨリ拂出シ保管ニ係ル證券ノ利子償還金及賣却代金ハ預ケ人ノ貯金ニ組入ル

貯金ニ組入レタル證券ノ利子ハ預ケ人ヨリ元加利子ノ記入又ハ檢閲ヲ受クル爲通帳ヲ提出シテルトキ貯金原簿所管廳ニ於テ之ヲ通帳ニ記入ス

第九十一條 貯金預ケ人貯金ノ全部拂戻ヲ請求スルトキ若ハ貯金讓渡ノ場合ニ於テ貯金ニ屬スル證券ノ讓渡ヲ爲ササルモノナルトキハ同時ニ郵便官署ニ於テ保管ニ係ル證券ノ交付ヲ請求スヘシ

第九十二條 貯金預ケ人ハ其ノ所有ニ係ル證券ノ保管ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得前項ニ依ル保管證券ハ貯金ヲ以テ購入シタルモノト見做シ之ヲ取扱フ

第九十三條 營利ヲ目的トセサル法人本章ノ規程ニ依リ新ニ證券ノ購入又ハ保管ヲ請求スルトキハ其ノ請求書ニ相當證明書ヲ添付スヘシ

第九十四條 貯金預ケ人ハ貯金通帳ニ證券ノ賣却代金又ハ償還金ノ記入ヲ受クル際ニ限り金高ニ制限ナク其ノ全部又ハ一部ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第九十五條 證券ノ購入、保管、賣却及償還ノ場合ニ於テ通帳ニ其ノ受拂ノ記入ヲ受クヘキ指定郵便局所ノ變更又ハ證券ノ交付ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ指定交付郵便局所ノ變更ニ關シテハ第七十三條ノ規程ヲ準用ス

第九十六條 第二節 證券購入及保管
貯金預ケ人證券ノ購入ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ所ニ差出スヘシ

貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ其ノ賣出中ニ係ル勸業債券ノ購入ヲ請求セムトスルモノナルトキハ特ニ其ノ旨ヲ購入請求書ノ餘白ニ附記スヘシ

第九十七條 前條ニ依リ證券ヲ購入シタルトキハ其ノ旨ヲ郵便貯金局ヨリ請求人ニ通知ス請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ郵便局所ニ貯金通帳ヲ差出シ之ニ證券代金ニ對スル拂出金ノ記入ヲ受ケ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ受取リ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出シ之ニ證券ノ種類、記號番號、額面金高等ノ記入ヲ受クヘシ

第九十八條 貯金預ケ人ノ指定ニ係ル證券ヲ購入シ得サルトキハ郵便貯金局ヨリ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第九十九條 貯金預ケ人第九十二條ニ依ル證券ノ保管ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證券保管請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ證券ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ且初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ貯金通帳ヲ呈示シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ヲ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ初度ノ請求ニ係ルモノナルトキハ請求人ニ證券假受領證ヲ交付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノナルトキハ證券保管通帳ニ證券ノ種類、記號番號、額面金高等ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第一百條 前條ノ證券ヲ受取リタルトキハ郵便貯金局ニ於テ證券保管原簿ニ登記シ初度ノ請求ニ係ルモノハ證券保管通帳ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送付シ再度以後ノ請求ニ係ルモノハ原簿登記簿ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第一百一條 證券ノ償還金ヲ貯金ニ組入レタルトキハ郵便貯金局ヨリ其ノ旨ヲ預ケ人ニ通知ス
貯金預ケ人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之
ニ證券拂出及償還金受入ノ記入ヲ受クヘシ

第三節 證券交付及賣却

第一百二條 貯金預ケ人證券ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證
券交付請求書ヲ調製シ之ヲ貯金原簿所管廳ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ
第一百三條 前條ノ請求ニ對シテハ郵便貯金局ニ於テ請求人指定ノ郵便局所ニ證券及交付請求書ヲ
送付シ且其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス
請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ之ニ證券拂出ノ記
入ヲ受ケ且交付請求書ニ受領證印シテ證券ヲ受取ルヘシ

第一百四條 貯金預ケ人證券ノ賣却ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ證
券賣却請求書ヲ調製シ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ之ヲ貯金原簿所管廳ニ送付シ又ハ郵便局所
ニ差出スヘシ
貯金預ケ人前項ノ場合ニ於テ其ノ賣却代金ノ全部ノ拂渡ヲ受ケムトスルモノナルトキハ賣却請
求書ノ餘白ニ全拂ノ文字ヲ附記スヘシ

第一百五條 證券ヲ賣却シタルトキハ郵便貯金局ヨリ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス但シ賣却代金ノ全部
拂渡ヲ要スヘキモノナルトキハ其ノ代金ニ相當スル貯金拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達シ
賣却請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス
請求人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ證券保管通帳及貯金通帳ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ通帳ニ
證券拂出及賣却代金受入ノ記入ヲ受ケ又貯金拂戻證書ヲ送達ヲ受ケタルトキハ當該拂戻證書ニ
受領證印シ證券保管通帳ト共ニ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ現金ヲ受領シ且通帳ニ證券拂出ノ記

入ヲ受クヘシ

第五章 特別貯金

第一節 規約貯金

第一百六條 組合規約ニ依リ拂戻ニ制限ヲ付シテ預入シタル貯金ハ之ヲ規約貯金トス
規約貯金ニ屬スル保管證券ノ交付及賣却ニ關シテハ規約貯金ノ拂戻ト同様ノ制限ヲ付シタルモ
ノト看做シ本節ノ規定ヲ準用ス

第一百七條 規約貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ組合代表者ニ於テ組合ノ名稱所在地並拂戻及
組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ記載シタル請求書一通ヲ郵便局所ニ差出スヘシ
郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ承認スルトキハ其ノ旨ヲ代表者ニ通知ス

第一百八條 組合員新ニ規約貯金ノ預入ヲ爲ス場合ニ於テハ貯金預入申込書ニ組合ノ名稱及規約貯
金ノ旨ヲ附記シ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘシ

第一百九條 規約貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ拂戻制限ノ旨ヲ附記ス
前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ規約貯金ト看做ス

第一百十條 通常貯金通帳ハ之ヲ規約貯金ニ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ通帳ヲ規約貯
金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ之ニ拂戻制限ニ關スル徽號ノ附記ヲ受クヘシ

第一百十一條 組合員他ノ規約組合ニ轉シタルトキハ舊組合ニ於テ使用セシ通帳ヲ新組合ニ於テ使
用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳ヲ新組合ニ對シ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ其ノ
承認ヲ受クヘシ

第一百十二條 規約貯金預ケ人ハ其ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ヲ除クノ外他ノ郵便局所ニ於テ貯
金ノ特殊拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ局待拂ハ此ノ限ニ在ラス

第一百十三條 規約貯金ノ拂戻ヲ請求セムトスル者ハ拂戻承認ニ關スル證明ヲ具シ其ノ請求書ヲ送

出スヘ

前項ノ證明カ豫メ組合代表者ヨリ提出ニ係ル證明方法ニ符合スルニ非サレハ之カ拂戻ヲ爲サス
第百十四條 組合ニ於テ拂戻及組合脱退ノ承認ニ關スル證明方法ヲ變更シタルトキハ組合代表者
ニ於テ其ノ届書ニ通テ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出スヘ
第百十五條 組合ニ於テ拂戻制限ニ關スル規約ヲ解除シ若ハ組合ヲ解散スルトキハ代表者ニ於テ
直ニ其ノ旨ヲ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ届出ツヘ
前項ノ場合ニ於テ各組合員ハ通帳ヲ當該承認局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受ク
ヘ

第百十六條 規約貯金預ケ人組合ヲ脱シタルトキハ通帳ニ組合脱退承認ニ關スル證明書ヲ添ヘ規
約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル徽號ノ取消ヲ受クヘ
第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ預ケ人他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局
所ニ差出シ通常貯金通帳ニ規約貯金ノ轉記ヲ受クヘ

第二節 据置貯金

第百十八條 一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置貯金トス
据置貯金ノ期間ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ三年乃至十年ノ年限内ニ於テ貯金預ケ人任意ニ之ヲ指
定スヘ

第百十九條 新ニ据置貯金ノ預入ヲ爲サトスル者ハ貯金預入申込書ニ其ノ据置期間ヲ明記スヘ
第百二十條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サトスルトキハ其ノ請求書ニ通帳ノ記號番號
及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘ
前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第百二十一條 据置貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ据置貯金ノ旨ヲ附記ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ据置貯金ト看做ス

第百二十二條 据置貯金ハ据置期間満了ノ後ニ非サレハ其ノ拂戻ヲ爲サス其ノ貯金ヲ以テ購入レ
タル證券ノ交付ニ付亦同シ但シ貯金預ケ人ノ申請ニ依リ朝鮮總督府通信局長官ニ於テ其ノ必要
アリト認メタルトキハ据置期間内ト雖貯金ノ拂戻又ハ證券ノ交付ヲ爲スコトアルヘ

第百二十三條 据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間満了ノ際ニ於テ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テ第百二十條ノ例ニ依リ郵便局所ノ承認ヲ受クヘ

第百二十四條 据置貯金ノ預ケ人其ノ期間満了ノ際他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ
郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ据置貯金ノ轉記ヲ受クヘ

第三節 共同貯金

第百二十五條 貯金ノ預入ヲ爲サトスル者共同シ總代人ノ名義ヲ以テ預入スル貯金ハ之ヲ共同
貯金トス

第百二十六條 共同貯金ノ取扱ヲ受ケトスルトキハ其ノ總代人ニ於テ貯金預入申込書ニ其ノ旨
ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘ

郵便局所ニ於テ共同貯金ノ取扱ヲ承認スルトキハ總代人ニ通帳及其ノ通帳ノ記號番號ヲ記入シ
タル貯金預入票用紙ヲ交付ス

第百二十七條 總代人ハ隨時貯金預入票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通帳記
號番號及所要數量ヲ記載シタル請求書ヲ通帳ノ交付ヲ受ケタル郵便局所ニ差出スヘ

第百二十八條 貯金預入票用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得
前項ノ用紙ハ郵便局所發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面ニハ共同貯金ニ關スル事
項ニシテ通信文ノ性質ヲ有セサルモノニ限り之ヲ印刷スルコトヲ得

第二百二十九條 總代人ハ貯金預入票用紙ノ相當欄ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シ私製ノモノニ在リテハ尙通帳記號番號ヲ記入シ之ヲ各共同者ニ配付スヘシ

第二百三十條 總代人ハ貯金預入票用紙ヲ各共同者ニ配付スル爲其ノ送達ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ用紙ニ密封ヲ施シ其ノ表面ニ配付ヲ要スル共同者ノ住所氏名ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第二百三十一條 共同貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ預入票用紙ニ相當事項ヲ記載シ預入金ト共ニ郵便局所ニ差出シ預入金受領證ヲ受取ルヘシ

多數ノモノ同時ニ前項ノ預入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ取纏メ一枚ノ預入票ヲ以テ其ノ預入ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取纏人ニ於テ預入票ニ相當事項ヲ記載シ且其ノ裏面ニ各預入者ノ氏名及金高ヲ附記シ又ハ別ニ内譯書ヲ添ヘ差出スヘシ

第二百三十二條 前條ノ預入金ハ貯金原簿所管應ニ於テ之ヲ其ノ總代人名義ノ共同貯金トシテ預ケ入原簿ニ登記シ預入票ヲ總代人ニ送付ス

第二百三十三條 總代人前條預入票ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘシ但レ同時ニ多數ノ記入ヲ要スルモノニシテ其ノ預入月ノ同一ナルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ取纏メ通帳ニ記入ス

第二百三十四條 貯金預ケ人ハ自己名義ノ貯金ヲ共同貯金ニ組替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預入票ニ組替ノ旨ヲ附記シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

前項貯金ノ組替ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但レ貯金ノ一部組替ヲ要スルモノナルトキハ其ノ組替金額ヲ通帳ニ記入シ通帳受領證ト引替ニ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第二百三十五條 共同貯金ノ組合ヲ解除シタルトキハ總代人ニ於テ其ノ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第四節 海外貯金

第二百三十六條 帝國郵便局所ノ設置ナキ外國ニ在留スル本邦人ニシテ郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、職業、氏名及初度預入金額ヲ記載シ且自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ宛テ送付シ預入金ハ郵便爲替ニ依リ之ヲ同所ニ送付スヘシ但レ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第二百三十七條 前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者再度以後ノ預入ヲ爲サントスルトキハ其ノ預入金ヲ爲替ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第二百三十八條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前二條ニ依リ送付ヲ受ケタル爲替金ハ郵便貯金ニ振替受入レ之ヲ預ケ人原簿ニ登記ス

第二百三十九條 海外貯金預ケ人貯金拂戻ヲ受ケムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、氏名及拂戻金高ヲ記載シ且印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ但レ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第四百十條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ拂戻金ヲ郵便爲替ニ依リ之ヲ請求人ニ送付ス此ノ場合ニ於テハ爲替料ヲ請求人ノ貯金ヨリ控除ス

第四百十一條 海外貯金預ケ人ハ第三百二十九條ノ例ニ準シ朝鮮內在住者ヲ指定シ之ニ貯金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證書ヲ發行シ之ヲ指定ノ受取人ニ送達ス

第四百二十二條 海外貯金預ケ人其ノ貯金ニ關シ各種ノ請求又ハ届出ヲ爲サトスルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ請求書又ハ届書ヲ調製シテ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第四百二十三條 海外貯金預ケ人朝鮮内ニ歸住シタルトキハ速ニ通帳ノ交付ヲ郵便爲替貯金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ通帳交付請求書ヲ調製シテ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差出スヘシ

第四百二十四條 請求人前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ受領印シ又ハ別ニ通帳受領證ヲ調製シテ之ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ且正當預ケ人タルコトヲ證明シタル上通帳ノ交付ヲ受ケヘシ

第四百四十五條 本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
四十二年統監府令第二號ハ之ヲ廢止ス

第四百四十六條 從來發行ニ係ル郵便切手貯金邊紙ハ當分ノ内其ノ儘之ヲ使用スルコトヲ得
郵便局所ニ於テ第五十一條ニ依リ貯金預ケ人ニ交付スヘキ郵便切手貯金邊紙ハ當分ノ内從來發行ニ係ルモノヲ使用ス其ノ使用ニ關シテハ從來ノ例ニ依ル

〔參照〕

明治四十二年 二月十一日 統監府令第二號 朝鮮人ノ預入ニ係ル郵便貯金ニ關スル件ナリ

朝鮮總督府令第三十二號

速達郵便規則左ノ通定ス

朝鮮總督 子爵寺内正毅

速達郵便規則

- 第一條 特定ノ地域ニ發着スル料金完納ノ郵便物ハ本令ノ定ムル所ニ依リ速達便ト爲スコトヲ得
- 第二條 前條ノ速達地域並速達取扱ニ要スル料金ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第三條 速達小包郵便物ノ重量ハ四百グラムヲ超過スヘカラス
- 第四條 集配事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テハ郵便取扱時間ニ拘ラス速達郵便物ノ引受ヲ爲ス
- 第五條 速達郵便物差出人ハ其ノ郵便物ノ表面見易キ場所ニ「速達便」ノ文字ヲ明瞭ニ朱記スヘシ
- 第六條 速達郵便物ハ特定メタル速達方法ニ依リ之ヲ送達ス
速達取扱ト爲シタル代金引換郵便物及留置郵便物ニ付テハ其ノ到着通知書ヲ特定メタル速達方法ニ依リ之ヲ送達ス
- 第七條 集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ差出レタル速達郵便物ハ通常ノ方法ニ依リ所轄郵便局ニ之ヲ集配ノ上前條ノ取扱ヲ爲ス
- 第八條 郵便物速達地域ニ於ケル速達郵便物差出人ハ電話其ノ他適宜ノ方法ニ依リ豫メ其ノ郵便物ノ種類、數量、引渡時刻等ヲ其ノ地集配事務所轄郵便局ニ通告シ其ノ居所ニ於テ之カ引受方ヲ請求スルコトヲ得但シ郵便取扱時間外ハ此ノ限ニ在ラス
- 郵便局ニ於テ事務ニ差支アルトキハ前項ノ請求ニ應ゼサルコトアルヘシ

第二十八條ノ三中又ハ臺灣總督府民政部通信局ヲ臺灣總督府民政部通信局又ハ關東都督府通信管理局ニ改ム

第六十一條中又臺灣總督府民政部通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テノ下ニ關東都督府通信管理局ニ屬スル加入者ハ大連郵便局ニ於テヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第六十九號郵便貯金規則(明治四十二年十二月二十一日)抄録

第三條第二項

郵便貯金ノ振替計算ヲ爲ス爲朝鮮總督府郵便貯金管理所、郵便貯金局及向大阪郵便貯金支局、福岡郵便貯金支局及臺灣總督府民政部通信局ニ加入者ノ口座ヲ設ク

第四條第一項

口座所管廳ニ於テハ加入者ノ口座番號、氏名、住所、職業等ヲ轉錄シタル振替貯金加入者名簿ヲ發行シ加入者ノ請求ニ依リ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スモノトス

第二十八條ノ三

郵便貯金局同支局又ハ臺灣總督府民政部通信局ニ屬スル加入者ノ口座ニ對シテ拂込料金加入者預納ノ旨ヲ表示シタル當該加入者ノ口座專用ノ拂込書ヲ以テ拂込ム振替貯金ノ拂込金ニ對シテハ第二十八條第一項第一號ノ料金ハ之ヲ拂込入ヨリ徵收セシ

第六十一條

朝鮮總督府郵便貯金管理所ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京中央郵便局又ハ通信省轄内郵便局ニ於テ大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪中央郵便局ニ於テ福岡郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ福岡郵便局ニ於テ臺灣總督府民政部通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ拂渡ヲ受ケシムヘキ局待拂出書ヲ提出スコトヲ得

○朝鮮總督府令第三十五號(官報 四月十三日)

地方費賦課金徵收規則左ノ通定ム

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

地方費賦課金徵收規則

第一條 地方費法第五條ニ依リ賦課金ノ徵收ハ國稅徵收法及國稅徵收法施行細則ノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 賦課金ヲ徵收セムトスルトキハ地稅附加稅ハ面長ニ對シ共ノ納額告知書ヲ發シ共ノ他ハ納稅者ニ對シ共ノ納入告知書ヲ發行スヘシ

第三條 公債領收員ハ共ノ徵收シタル現金ニ現金納付書、納稅者ハ現金ニ納入告知書ヲ添附シ道金庫ニ納入シ領收證書ヲ受クヘシ

道金庫所在地外ニ在リテハ韓國銀行支店若ハ出張所、農工銀行本店、支店若ハ出張所又ハ漢城銀行水原支店ニ拂込ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該銀行ハ納入ニ領收證書ヲ交付シ道金庫ニ之カ代替ヲ爲シ現金納付書、納入告知書、現金拂込書ハ領收濟通知書接續ノ儘付替通知書ト共ニ之ヲ道金庫ニ送付スヘシ

前二項ニ依リ納入又ハ拂込ヲ爲スコト能ハサル地方ニ在リテハ郵便振替貯金ヲ以テ道金庫ニ納入スルコトヲ得

第四條 市場管理者ハ帳簿ヲ設ケ市場稅ノ徵收及納入ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第五條 地稅附加稅ニ付テハ面長ニ對シ共ノ徵收金額ノ百分ノ二ヲ交付ス

第六條 府郡ハ賦課金ノ徵收整理ノ爲國稅ノ例ニ依リ徵收簿ノ外徵稅簿ヲ設備スヘシ

第七條 賦課金ノ納額告知書、納入告知書、現金納付書ノ様式ハ第一號乃至第三號ニ依リ

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式(用紙適宜紙而寸法 餘額、取扱餘額内ノ寸法ハ適宜)

第 號	何「年」度	何「府」(郡)「何」(面)「何」(里)「何」(洞)	何「年」月「何」(日)
納入經常部	款	項	何「年」月「何」(日)
何「道」	主 管	「取扱」	何「府」(郡)「何」(里)「何」(洞)
一 金		〇取扱主任印	
右明治「何」年「何」月「何」日限「何」金庫(納入ス)ハ			
明治「何」年「何」月「何」日 「何」府尹(郡守)「氏」 名「印」			

(告知書裏面)

注意

- 一、 進金庫所在地外ニ在リテハ韓國銀行、農工銀行及其支店出張所 拉漢城銀行水原支店ニ拂込ヲ為スコトヲ得
- 二、 前項ニ依リ拂込ヲ為ス能ハサル地方ニ在リテハ郵政總局貯金ヲ以テ進金庫ニ拂込ムコトヲ得

第二號樣式

書 知 告 入 納			
第 號	何「道」	主 管	「取扱」
何「年」度	納入經常部	款	何「府」(郡)「何」(里)「何」(洞)
一 金		項	何「年」月「何」(日)
右明治「何」年「何」月「何」日限「何」金庫(納入ス)ハ			
明治「何」年「何」月「何」日 「何」府尹(郡守)「氏」 名「印」			

書 知 通 濟 收 領			
第 號	何「道」	主 管	「取扱」
何「年」度	歳入經常部	款	何「府」(郡)「何」(里)「何」(洞)
一 金		項	何「年」月「何」(日)
右領收濟ニ付通知候也			
明治「何」年「何」月「何」日 「何」府尹(郡守)「氏」 名「印」			

書證收領

第 號	「何」道 主管	「取扱部」 「何」府(郡)	「何」府(郡)「何」市(町)「何」里(洞)「何」某(洞)
「何」年度	歳入經常(臨時)部	款	「何」年「何」期「何」分
一金			
右領收候也			
明治「何」年「何」月「何」日			
「何」金庫 印			

(告知書裏面)

注意

- 一、納税者才道金庫所在の外ニ在ルトキハ納入者ノ便宜ニ依リ韓國銀行、農工銀行及支店出張所並漢城銀行水原支店ニ納入スルコトヲ得
- 二、前項ニ依リ納入ヲ爲ス能ハサル地方ニ在リケハ郵便振替貯金ヲ以テ道金庫ニ納入スルコトヲ得

第三號様式(用紙適宜)

輪廓ハ單線 輪廓内ノ寸法適宜)

書付納金現

第 號	「何」道 主管	「取扱部」 「何」府(郡)	「何」年(期)分
「何」年度	歳入經常(臨時)部	款	項
一金			
右納付ス			
明治「何」年「何」月「何」日 面「何」府(郡)「何」公領收員「何」氏 名 印			

書知通濟收領

第 號	「何」道 主管	「取扱部」 「何」府(郡)	「何」府(郡)「何」市(町)「何」里(洞)「何」某(洞)
「何」年度	歳入經常(臨時)部	款	「何」年(期)分
一金			
右領收候ニ付通知候也			
○金庫取扱主任印			
明治「何」年「何」月「何」日			
「何」府(郡)「何」市(町)「何」里(洞)「何」某(洞) 印			
「何」金庫 印			

書證收領

第 號	「何」道 主管	「取扱部」 「何」府(郡)	「何」府(郡)「何」市(町)「何」里(洞)「何」某(洞)
「何」年度	歳入經常(臨時)部	款	「何」年(期)分
一金			
右領收候也			
○金庫取扱主任印			
明治「何」年「何」月「何」日			
「何」金庫 印			

注意

- 一、公領收員ハ本署ニ現金ヲ送ハ納領告知書ニ指定シタル金庫ニ納付シ領收候リ受テハシ
- 二、金庫ハ明瞭ニ記載シ「一」「二」「三」ノ数字ハ壹貳拾ヲ用フ
- 三、金庫名領收年月日ヲ除キ他ノ事項ハ公領收員ニ於テ記載ス
- 四、領收證書ハ年度毎ニ編綴保管ス

○朝鮮總督府令第三十六號(官報 四月十三日)

明治四十四年遞信省令第七號ノ規定ハ朝鮮ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

〔参照〕

明治四十四年三月二十五日遞信省令第七號ハ外國郵便規則中改正ノ件ナリ

○朝鮮總督府令第二十七號(官報 四月十三日)

朝鮮總督府鐵道局出納員現金取扱規則左ノ通定ム

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

朝鮮總督府鐵道局出納員現金取扱規則

第一條 鐵道局出納員ハ官吏、雇員又ハ特別驛夫ヲ以テ之ニ充ツ

出納官吏ヲ置カサル驛ニ於テハ驛長若ハ主席助役ヲ以テ主任出納員トシ分任出納官吏ノ職務ヲ

行フモノトス

第二條 出納員ハ左ノ範圍内ニ於テ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

一 各種ノ歳入金

二 派出仕拂ヲ要スル繰替歳出金

第三條 出納員ハ明治二十二年大藏省令第九號中第十九號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ

登記スヘシ但シ特種ノ帳簿ヲ以テ現金出納簿ニ代用シ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 出納員ハ其ノ領收シタル現金ヲ毎日精算シ遲滞ナク其ノ所屬出納官吏ニ引續キ領收證書

ヲ受クヘシ

第五條 出納員ハ其ノ所屬出納官吏ヨリ現金ヲ受領シタルトキハ領收證書ヲ發スヘシ

第六條 特種ノ帳簿ニ依リ現金ノ受授ヲ證シ得ル場合ハ前二條ノ場合ニ於テ領收證書ヲ受クルコ

トヲ要セス

第七條 現金出納ノ取扱ニ關シ本規則ノ外特ニ規定シタルモノハ其ノ規定ニ依ル

附 則

第八條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 明治四十三年朝鮮總督府令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治四十三年十月十一日朝鮮總督府令第二十二號ハ朝鮮總督府鐵道局ノ出納員ニ關スル件ナリ

○朝鮮總督府令第二十八號(官報 四月十三日)

郵便貯金規則第四條中「及臺灣總督府民政部通信局ヲ」臺灣總督府民政部通信局及關東都督府通信

管理局ニ改ム

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

○朝鮮總督府令第三十九號(官報 四月十三日)

統監府中學校規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺内正毅

「統監」ヲ「朝鮮總督」ニ改メ第三十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第三十七條 附屬臨時小學校教員養成所ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第四十號(官報四月十三日)

朝鮮總督府中學校附屬臨時小學校教員養成所規程左ノ通定ム

明治四十四年四月一日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督府中學校附屬臨時小學校教員養成所規程

第一章 目的

第一條 本所ハ朝鮮ニ於ケル内地人小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二章 學科目及修業年限

第二條 學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、圖畫、音樂、體操、手工、商業、農業トス但シ手工、商業、農業ニ就テハ生徒ヲシテ其ノ一科目ヲ學習セシム

第三條 本所ノ修業年限ハ一箇年トス

第三章 學年、學期及休業

第四條 學年、學期及休業日ハ朝鮮總督府中學校規則ノ定ムル所ニ依ル

第四章 學科ノ程度及教授時數

第五條 學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科目	每週教授時數	程度
修身	二	人倫道德ノ要旨
教育	二	教育學、教授法、學校管理法、教育制度、學校衛生、教育實習
國語及漢文	一七	國語 講讀、作文、文法
數學	二	算術、算式、珠算
博物	三	植物、動物、生理、衛生、礦物ノ概要
物理	一	物理、化學ノ概要、實驗
化學	一	寫生、化學實驗
圖畫	三	單音唱歌、複音唱歌、樂器使用法
音樂	三	遊戲、普通體操、兵式體操
體操	二	手工 天然物ノ模造、日用器具ノ製作
商業	二	商業 商業大意、簿記
農業	二	農業 農業大意、實習
計	三四	

第六條 毎日ノ教授終始ノ時限ハ學校長之ヲ定ム

第五章 生徒定員、入學及退學

第七條 生徒ノ定員ハ四十名トス

第八條 本所ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、志操確實、品行方正ニシテ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第九條 入學ヲ許可セラレタル者ハ父兄又ハ親戚等ノ中ニ就キテ本人ノ身上ニ關シ一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ保證人ヲ定メ入學ノ際其ノ保證書(第一號書式)及誓書(第二號書式)ヲ差出ス

保證人ノ住所遠隔ノ地ニアルトキハ京城府又ハ其ノ附近ノ地方ニ居住スル者ヲ代理保證人トナス

第十條 生徒ハ總テ本所ノ寄宿舎ニ居住セシム但シ已ムヲ得サル事情アリト認メタル者ニ限り學校長ニ於テ期間ヲ定メ外宿ヲ許可スルコトヲ得

寄宿舎ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ニハ朝鮮總督ノ認可ヲ經テ退學ヲ命スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ修學ニ堪ヘサル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者

三 性行不貞ニシテ本所教育ノ旨趣ニ適セサル者

第十二條 前條第三號ニ依リ退學ヲ命セラレタル者ニハ在學中給與ヲ受ケタル學資ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第十三條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス

第六章 成績考査

第十四條 學校長ニ於テ全學科ノ修了ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ學科目ノ種類ニ依リ試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第十五條 試驗ヲ分テテ學期試驗及學年試驗トシ學期試驗ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 學校長ハ全學科ヲ修了シタリト認メタル者ニ第三號書式ノ卒業證書ヲ授與ス

第七章 卒業後ノ服務

第十七條 本所ノ卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間朝鮮總督ノ指定ニ從ヒ小學校ニ奉職ス

ルノ義務ヲ有ス

第十八條 本所卒業者特別ノ事情ニ依リ前條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督府中學校長ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ朝鮮總督ニ請願スルコトヲ得

第十九條 本所卒業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ在學中給與シタル學資ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ一部又ハ全部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 第十七條ノ義務ヲ履行セサル者

二 服務年限中懲戒免職ニ處セラレタル者

第二十條 第十八條ニ依リ服務上ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキハ其ノ猶豫ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

第一號書式(用紙美濃紙)

保證書

族 籍

姓 名

生年月日

住 所

族 籍 職業

姓 名 印

年 月 日 學校長宛

右者今般御校附屬臨時小學校教員養成所ニ入學政候ニ付アハ在學中本人身上ニ關スル一切ノ事件ハ勿論本人ニ於テ自便則第十條ノ義務ヲ履行シ能ハサル場合ハ拙者引受ケ處辨可仕候仍テ謹言差出候也

第二號書式(用紙美濃紙)

私學令校臨時小學校教員養成所ニ入學仕候ニ付テハ在學中御規則等遵守仕ルヘキハ勿論卒業ノ上ハ服務ニ關スル規定ヲ遵守シ教育ニ從事可致候仍テ誓書差出候也

第三號書式

卒業證書

年 月 日 學校長宛
 本籍 姓 名 印
 族 姓 姓 名 印
 生 年 月 日
 年 月 日 學校長位勳學位 姓 名 印

右者當校附屬臨時小學校教員養成所ノ課程ヲ履修シ方ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ認ス

朝鮮總督府令第四十一號(官報四月十三日)

朝鮮總督府中學校附屬臨時小學校教員養成所生徒學費支給規則左ノ通定ム

第一條 附屬臨時小學校教員養成所生徒ニハ在學中學費トシテ食費、手當、被服及旅費ヲ給ス

第二條 食費及手當ハ第一號表ニ依リ被服ハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス
 第三條 自己ノ便宜ニ依リ寄宿舎ニ居住セサルトキハ其ノ間食費及手當ヲ給セス
 第四條 入學旅費及修學旅費額ハ其ノ都度學校長ニ於テ之ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ
 第五條 食費及手當ハ當月分ヲ其ノ末日ニ給與ス
 第六條 本所生徒在學中死亡シタルトキハ其ノ保證人又ハ親族ニ一時手當金二十圓ヲ給ス

附則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

食	費	一	日	手	當	一	日
三	錢	十	錢	十	錢		

第二號表

品	目	數	量	使	用	期	限
帽	(日履付)	一	頂	一	年	年	年
冬	服	一	頂	一	年	年	年
夏	服	一	頂	一	年	年	年
靴	外	一	頂	一	年	年	年
靴	外	一	頂	一	年	年	年

○朝鮮總督府令第四十二號(官報四月十三日)
 朝鮮内ニ於テ外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ノ取扱ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外
 總テ逓信省令及告示ノ定ムルトコロニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十三年朝鮮總督府令第二十號ハ之ヲ廢止ス
明治四十四年四月六日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

〔參照〕

明治四十三年十月十九日朝鮮總督府令第三十號ハ朝鮮内ニ於ケル外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ニ關シテ通信費告示ノ定ムル所ニ依ル事項ナリ

○朝鮮總督府令第四十三號(官報 四月十五日)

朝鮮總督府巡查及巡查補採用及給與令中左ノ通改正ス
第六條 前條ノ外宿料ノ給與ニ付テハ朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料支給規則ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十四年四月八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

〔參照〕

朝鮮總督府令第四十四號朝鮮總督府巡查及巡查補採用及給與令(明治四十三年十月十日)抄録
第六條 宿料ハ著任ノ翌日ヨリ出發ノ日迄支給ス

○朝鮮總督府令第四十四號(官報 四月十五日)

明治四十三年朝鮮總督府令第四十五號中「多太浦稅關監視署 慶尙南道釜山府多太浦ヲ削リ三千浦稅關監視署 慶尙南道泗川郡三千浦ヲ次ニ麗水稅關監視署 全羅南道麗水郡麗水ヲ加フ」

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十四年四月八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第四十五號(官報 四月十五日)

憲兵補助員規程左ノ通定ム

明治四十四年四月八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

憲兵補助員規程

第一章 總則

第一條 憲兵補助員ハ憲兵ノ指揮監督ヲ承ケ警察勤務ヲ幫助スルモノトス

第二條 憲兵補助員ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 本規程ノ施行ニ關スル細則ハ朝鮮駐衛憲兵隊司令官之ヲ定メ總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 採用

第四條 憲兵補助員ハ朝鮮人ニシテ憲兵補助員志願者中左ノ各號ニ該當スル者ヨリ採用ス

一 年齡二十歲以上四十歲以下ナル者

二 禁獄又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

三 素行善良ニシテ志操確實ナル者

四 身長五尺以上ニシテ身體強健ナル者

五 初歩ノ算術並簡易ナル邦文若ハ漢文ヲ解シ得ル者

第五條 在職中ノ朝鮮人巡查及巡查補ハ兩官憲交涉ノ上憲兵補助員ニ採用スルコトヲ得

第六條 憲兵補助員ニハ採用ノ際軍屬讀法式ヲ受ケレムルモノトス

第三章 服務

第七條 憲兵補助員ノ服務期間ハ採用ノ日ヨリ滿二年トス但シ本人ノ志願ニ依リ滿期後更ニ年限ヲ定メ五十歲ニ至ル迄繼續服務セシムルコトヲ得

第八條 憲兵補助員中三月以上實務ニ服シ成績優秀ナル者ハ選拔シテ監督ヲ命スルコトヲ得

第九條 監督ヲ命セラレタル憲兵補助員ハ所屬上官ノ命ヲ承ケ憲兵補助員ノ服務及射行ヲ監督ス

第十條 監督ヲ命セラレタル憲兵補助員ハ憲兵上導兵ニ其ノ他ノ憲兵補助員ハ陸軍一二等卒ニ準テ取扱フモノトス

第十一條 憲兵補助員ハ服務年限内ト雖傷病疾病非行其ノ他官ノ都合ニ依リ解免スルコトヲ得

第十二條 憲兵補助員ハ採用後二月間勤務ニ必要ナル學術科ヲ修習セシメタル後實務ニ就カシムルモノトス但シ進歩ノ程度ニ依リ此ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第十三條 憲兵補助員ノ服制ハ左ノ各號ニ依ル

一 陸軍軍服服制憲兵下士以下第二種帽ニ同シ

二 絨衣袴 陸軍軍服服制憲兵下士以下ノモノニ同シ但シ肩章ヲ除ク

三 夏衣袴 陸軍軍服服制憲兵下士以下ノモノニ同シ但シ肩章ヲ除ク

四 外套 陸軍軍服服制憲兵下士以下ノモノニ同シ但シ肩章ヲ除キ頭巾ハ之ヲ纏著ス

第十四條 監督ヲ命セラレタル憲兵補助員ニハ衣及外套ノ左上膊ニ中徑二寸ノ緋絨製星章ヲ附ス

第十五條 憲兵補助員ハ左ノ等級ニ應シ月給ヲ給ス但シ教習中ハ月額六圓ノ手當ヲ給スルモノトス

特別給 一等給 二等給 三等給 四等給 五等給 六等給 七等給 八等給

第十六條 初メテ憲兵補助員ニ採用シタル者ノ月給ハ六等給以下トス但シ本規程第五條ニ依リ採用シタル者ニハ前職相當月給額迄ヲ給スルコトヲ得

第十七條 憲兵補助員ニシテ日本語其ノ他ノ外國語ヲ解スル者ニハ其ノ技能ノ程度ニ應シ月額一圓以上五圓以内ノ特別手當ヲ加給ス

第十八條 憲兵補助員ハ營外居住トス但シ必要ニ應シ宿舍ヲ貸與ス

第十九條 憲兵補助員ニハ所要ノ被服ヲ貸與シ糧食ハ本人ノ自辨トス

第二十條 憲兵補助員傷病ニ係ル藥餌及入院中ノ食費ハ官給トス

第二十一條 憲兵補助員公務旅行(官ノ都合ニ依リ解免セラル場合ハ旅行ノ性質ニ依リ旅費又ハ手當ヲ給ス)

第七章 恤金

第二十二條 憲兵補助員在職中其ノ職務ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ服務ニ堪ヘサルヲ以テ解職シタル者ニハ三十圓以上百圓以下ノ病傷手當金ヲ給シ死亡シタル者ニハ遺族ニ三十圓以上百圓以下ノ賑恤金ヲ給ス

第八章 埋葬料

第二十三條 憲兵補助員在職中死亡シタルトキハ埋葬料十圓ヲ遺族ニ給ス但シ官ニ於テ埋葬シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第三號ノ場合ニ在リテハ告訴ヲ待テ之ヲ處斷ス

- 一 第一條第二條第二項第三條又ハ第四條ニ違反シタル者
- 二 第二條第一項ノ禁止區域ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シタル者
- 三 第五條ニ違反シタル者
- 四 免狀ヲ受ケス又ハ第八條ノ期間外ニ於テ銃器又ハ張網ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲シタル者
- 五 詐欺ノ所爲ヲ以テ免狀ヲ受ケタル者
- 六 第十四條ニ違反シタル者

前項第一號乃至第三號ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 第七條第二項、第十一條第一項ニ違反シタル者又ハ第十一條第二項ノ検査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ施行ス

○朝鮮總督府令第四十七號(官報四月十八日)

明治四十四年法律第五十一號ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所ヲ左ノ通定ス
一 咸興地方裁判所清津支部
一 京城控訴院

○朝鮮總督府令第四十八號(官報四月二十日)

臨時恩賜金管理規則中左ノ通改正ス
明治四十四年四月十五日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

朝鮮總督 子爵寺內正毅

第八條 臨時恩賜金利子ノ剩餘ハ之ヲ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰越シタル以外ノ剩餘ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第九條 前條ニ依リ剩餘ヨリテ前條第二項ニ依リ基金ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

朝鮮總督府令第二十六號臨時恩賜金管理規則(明治四十三年十月八日官報抄録)

第八條 各府郡ノ臨時恩賜金利子ノ剩餘ヲ生シタルトキハ基金ニ編入スヘシ

第九條 前條ニ依リ剩餘金ヨリ編入シタル額ハ必要アル場合ニ於テハ總督ノ認可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

○朝鮮總督府令第四十九號(官報四月二十日)

懸賞富籤類似其ノ他投票募集等取締ニ關スル件左ノ通定ス

明治四十四年四月十五日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倂ノ方法ヲ用井ムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集セムトスル者ハ所轄警察署長又ハ警察分署長ノ事務ヲ取リ經由シ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クヘシ但シ學術技藝ニ對シ懸賞ノ方法ヲ用井ムコトヲ提供スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ依リ許可ヲ與ヘタルモノ若ハ前項但書ニ該當スルモノト雖發務總長又ハ警務部長ニ於テ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ之ヲ禁止若ハ制限スルコトアルヘシ

本令又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シタル者ハ一月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料情ヲ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ寄贈ヲ申出テ又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ表彰物ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

明治四十四年四月 府令 朝鮮總督府第四十九號

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第五十號(官報 四月二十日)

朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料支給規則別表備考中第一號ヲ左ノ通改正ス

二 父母妻子カ朝鮮内ニ居住シ且自己又ハ父母妻子カ一戸ヲ構フルモノノ外ハ半額ヲ給ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月十五日

○朝鮮總督府令第五十一號(官報 四月二十二日)

道路規則左ノ通定ス

朝鮮總督 子爵寺内正毅

朝鮮總督 子爵寺内正毅

道路規則

第一條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス

一 等道路

二 等道路

三 等道路

等外道路

第二條 一 等道路ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付之ヲ定ム

- 一 京城ヨリ道廳所在地、師團司令部所在地、旅團司令部所在地、要塞司令部所在地、鎮守府所在地、要港部所在地、樞要ナル開港又ハ鐵道停車場ニ達スル道路
- 二 軍事上重要ナル道路

三 經濟上特ニ重要ナル道路

第三條 二 等道路ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付之ヲ定ム

- 一 鄰接道廳所在地ヲ連結スル道路
- 二 道廳所在地ヨリ其ノ管轄府廳又ハ郡廳所在地ニ達スル道路
- 三 道廳所在地ヨリ道内樞要ナル地點、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル道路
- 四 道内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ連結スル道路
- 五 鄰接道内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ連結スル道路

第四條 三 等道路ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道長官之ヲ定ム

一 鄰接府廳又ハ郡廳所在地ヲ連結スル道路

二 府廳又ハ郡廳所在地ヨリ府、郡内樞要ナル地點、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル道路

三 府、郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ連結スル道路

四 鄰接府、郡内樞要ナル地點、港津、鐵道停車場又ハ道路相互ヲ連結スル道路

第五條 等外道路ハ一 等道路、二 等道路又ハ三 等道路ニ屬セサル道路トシ道長官之ヲ定ム

第六條 三 等道路ヲ變更又ハ廢止セムトスルキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 一 等道路及二 等道路ハ朝鮮總督府、三 等道路ハ道廳、等外道路ハ府廳又ハ郡廳ニ於テ之ヲ管理ス

第八條 鄰接道區劃ノ境界ニ在ル三 等道路、等外道路又ハ其ノ橋梁、渡船場若ハ隧道ヲ管理スヘキ

第九條 道内鄰接府、郡區劃ノ境界ニ在ル等外道路又ハ其ノ橋梁、渡船場若ハ隧道ヲ管理スヘキ

第十條 一 等道路及二 等道路ノ築造及維持修繕ハ朝鮮總督府ニ於テ之ヲ施行ス但シ維持修繕ニ關

シ慣行アルモノハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ地方廳ヲレテ負擔セシムルコトアルヘシ
 三等道路ノ築造及維持修繕ハ地方廳ニ於テ慣行ニ依リ之ヲ施行ス但シ其ノ費用ノ一部ハ朝鮮總
 督府ニ於テ之ヲ補助スルコトアルヘシ
 等外道路ノ築造及維持修繕ハ慣行ニ依リ關係部落之ヲ行フモノトス但シ其ノ費用ノ一部ハ地方
 廳ニ於テ之ヲ補助スルコトアルヘシ
 第十一條 道路ヲ管理スル行政官廳以外ノ者ハ當該官廳ノ認可ヲ受ケ自己ノ費用ヲ以テ道路ノ改
 築又ハ修繕ヲ施行スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第五十二號(官報四月二十四日)

巡查看守療治料、給助料及用祭料給與令ハ朝鮮總督府巡查及巡查補ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ規定ハ本令施行前ニ於ケル朝鮮總督府巡查及巡查補ニ亦之ヲ適用ス

明治四十四年四月十八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第五十三號(官報四月二十四日)
 委任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員ノ定員左ノ通定ス

- 監獄醫 十四人
- 教諭師 十一人
- 牧師 五人
- 藥劑師 九人

看守

八百五十九人

女監取締

十八人

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月十八日

朝鮮總督 子爵寺內正毅

○臺灣總督府令第十七號(官報四月一日)

明治四十一年八月府令第三十九號臺灣清涼飲料水營業取締規則中左ノ通改正ス

明治四十四年三月二十一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第九條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ有害性「テール」色素、人工甘味質有害

性芳香質又ハ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

「テール」色素ハ前項以外ノモノト雖製造地廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ

得ス

第十條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スル

コトヲ得ス

一 潤濁又ハ變敗シタルモノ

二 沈澱物又ハ夾雜物アルモノ

三 鹽酸、硝酸及硫酸其ノ他遊離酸ヲ含有スルモノ

四 砒素「アンチモン」ニウム「鉛」亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ

五 有害性「テール」色素其ノ他製造地、輸入地ノ廳長又ハ内地ニ於ケル製造地、輸入地ノ地方長

官ノ許可ヲ受ケサル「テール」色素ヲ含有スルモノ

六 人工甘味質ヲ含有スルモノ
 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
 八 防腐劑ヲ含有スルモノ

第十一條 清涼飲料水製造者ハ其ノ姓名若ハ名稱、營業所ノ所在、製造年月日ヲ記載シタル票紙、内地製及外國製清涼飲料水引取販賣者ハ其ノ姓名若ハ名稱、營業所ノ所在並引取ノ年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ノ容器ヲ封緘スヘシ但シ廳長ノ許可ヲ得テ姓名若ハ名稱、營業所ノ所在ヲ容器ニ表示シ封緘ヲ爲ササルコトヲ得

「テール」色素ヲ含有スル清涼飲料水ニハ製造者又ハ輸入者ハ其ノ容器ニ人工著色ノ文字ヲ表示スヘシ

第二十一條 清涼飲料水ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第二十二條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 一 許可ヲ受ケスシテ第二條ノ營業ヲ爲シタル者
 二 第八條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者

第二十三條 第十一條乃至第十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 一 許可ヲ受ケスシテ第二條各號ノ事項ヲ變更シ又ハ製造場ヲ増築、改築若ハ修繕シタル者
 二 第三條、第五條乃至第七條、第十四條乃至第十六條ノ規定ニ違反シタル者

附則
 本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十九號臺灣清涼飲料水營業取締規則(明治四十一年八月二十二日)抄錄

第九條 清涼飲料水營業者ハ清涼飲料水ノ製造又ハ貯藏ニ「テール」色素、サッカリン、有害性芳香質又ハ有害防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 清涼飲料水營業者ハ左ノ清涼飲料水ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
 一 酒類又ハ醱酵シタルモノ
 二 沈澱物アルモノ
 三 鹽酸、磷酸及硫酸其ノ他遊離酸ヲ含有スルモノ
 四 砒素、アンチモン、ニール、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ
 五 「テール」色素ヲ含有スルモノ
 六 「サッカリン」ヲ含有スルモノ
 七 有害性芳香質ヲ含有スルモノ
 八 有害防腐劑ヲ含有スルモノ

第十一條 清涼飲料水製造者ハ住所、姓名若ハ名稱、營業所ノ所在地並製造年月日ヲ記載シタル票紙ヲ以テ清涼飲料水ヲ販賣スル容器ヲ封緘スヘシ其ノ内地製及外國製ニ係ルモノハ引取人ニ於テ引取ノ年月日、引取人ノ住所、姓名ヲ記載シタル封緘票紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 清涼飲料水ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル封緘票紙ヲ貼用者ハ貼用セシメタル者又ハ封緘票紙ニ虛偽ノ改竄ヲ爲シ若ハ爲サシメタル者ハ二十五日以下ノ懲役、罰金又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 二 第八條乃至第十條ノ規定ニ違反シタル者

第二十三條 第十一條乃至第十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 一 許可ヲ受ケスシテ第二條各號ノ事項ヲ變更シ又ハ製造場ヲ増築、改築若ハ修繕シタル者
 二 第三條、第五條、第六條、第七條、第十四條、第十五條及第十六條ノ規定ニ違反シタル者

○臺灣總督府令第十八號 (官報 四月八日)
明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部(林内)ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十四年三月二十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換料金年額
旗仔脚 三十六圓
竹頭崎 三十六圓

○臺灣總督府令第十九號 (官報 四月八日)
明治四十三年十月律令第七號臺灣林野調查規則ハ明治四十四年四月三日ヨリ嘉義廳ニ之ヲ施行ス

明治四十四年三月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第二十號 (官報 四月八日)
明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年三月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

總爺店仔口間	九十錢	總爺店仔口間	二十五錢
總爺新豐北間	五十五錢	總爺新豐北間	二十五錢
總爺新豐中間	五十五錢	總爺新豐中間	二十五錢
總爺彰化間	五十五錢	總爺彰化間	二十五錢
總爺斗六間	三十五錢	總爺斗六間	十五錢
總爺西螺間	三十五錢	總爺西螺間	十五錢
總爺五間厝間	三十五錢	總爺五間厝間	十五錢
總爺嘉義間	三十五錢	總爺嘉義間	十五錢
總爺打貓間	三十五錢	總爺打貓間	十五錢
總爺蒜頭庄間	三十五錢	總爺蒜頭庄間	十五錢
總爺旗仔脚間	三十五錢	總爺旗仔脚間	十五錢
總爺南靖庄間	三十五錢	總爺南靖庄間	十五錢
總爺二香庄間	三十五錢	總爺二香庄間	十五錢

總爺阿猴間	四十五錢	總爺阿猴間	三十錢
總爺臺北間	九十錢	總爺臺北間	三十錢
總爺新豐北間	五十五錢	總爺新豐北間	三十五錢
總爺新豐中間	五十五錢	總爺新豐中間	三十五錢
總爺彰化間	五十五錢	總爺彰化間	三十五錢
總爺斗六間	三十五錢	總爺斗六間	三十五錢
總爺西螺間	三十五錢	總爺西螺間	三十五錢
總爺五間厝間	三十五錢	總爺五間厝間	三十五錢
總爺嘉義間	三十五錢	總爺嘉義間	三十五錢
總爺打貓間	三十五錢	總爺打貓間	三十五錢
總爺蒜頭庄間	三十五錢	總爺蒜頭庄間	三十五錢
總爺旗仔脚間	三十五錢	總爺旗仔脚間	三十五錢
總爺南靖庄間	三十五錢	總爺南靖庄間	三十五錢
總爺二香庄間	三十五錢	總爺二香庄間	三十五錢
總爺阿猴間	三十五錢	總爺阿猴間	三十五錢

○臺灣總督府令第二十一號 (官報 四月八日)
明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部(竹頭崎)ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十四年三月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換料金年額
旗仔脚 三十六圓

○臺灣總督府令第二十二號 (官報 四月八日)
明治四十二年三月府令第八號臺北水道給水規則中左ノ通改正ス

明治四十四年三月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 第二十七條 使用料ニ依ル給水装置ノ條件ハ左ノ如ク
- 一 給水管給水栓接合管及止水栓ノ口徑ハ二分ノ一時又ハ四分ノ三吋
 - 二 給水管ノ長サ木栓二十五間以内支栓五間以内
 - 第三十八條中(給水栓取付費ヲ除ク)ヲ削ル
 - 第三十七條中給水栓ヲ給水装置ニ改ム
- 附則中第二項ヲ削ル

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺北水道給水規則(明治四十二年三月二十五日)抄録
 第二十七條 使用料ニ依ル給水設備ノ條件ハ左ノ如シ
 給水管ノ口径ハ二分ノ一時四分ノ三時ノ二種トス
 給水管ノ長サハ本栓二十五間以内支栓五間以内トス
 給水栓取付費ハ申込者ノ負擔トス
 第二十八條 使用料納付ノ方法ヲ以テ爲シタル給水設備ハ其ノ引用者ノ便宜ニ應ヒ設備費給水栓取付費ヲ除クテ納付
 八分納トシ私利ト爲スコトヲ得
 附則第二項
 使用料ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ適用セス

○臺灣總督府令第二十三號(官報四月八日)

明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
 明治四十四年三月三十日

中 寮 基 隆 間	六十五錢	中 寮 鹿 港 間	十
中 寮 淡 水 間	六十五錢	中 寮 員 林 間	十
中 寮 北 門 間	五十五錢	中 寮 北 門 間	十五
中 寮 新 店 間	五十五錢	中 寮 淡 洲 庄 間	十五
中 寮 桃 園 間	五十五錢	中 寮 林 地 埔 間	三十
中 寮 新 竹 間	三十五錢	中 寮 斗 六 間	三十
中 寮 苗 栗 間	三十五錢	中 寮 西 廬 間	三十五
中 寮 葫 蘆 間	二十五錢	中 寮 五 間 厝 間	三十五
中 寮 草 鞋 間	二十錢	中 寮 土 庫 間	三十五
中 寮 南 投 間	二十錢	中 寮 仙 里 間	三十五
中 寮 埤 里 社 間	三十錢	中 寮 北 港 間	三十五
中 寮 集 集 間	二十五錢	中 寮 打 鐵 間	三十五
中 寮 彰 化 間	二十五錢	中 寮 嘉 義 間	三十五

○臺灣總督府令第二十四號(官報四月八日)

官設埤圳獅子頭圳ニ依リ水利ヲ受ケヘキ土地ニ課スル水租ノ等級及租率左ノ通相定ム
 明治四十四年四月一日

中 寮 南 靖 庄 間	三十五錢	中 寮 蓬 南 間	五十五錢
中 寮 新 營 庄 間	四十五錢	中 寮 橋 仔 頂 間	五十五錢
中 寮 鹽 水 港 間	四十五錢	中 寮 打 狗 間	六十五錢
中 寮 蕭 壠 間	五十錢		

水租等級
 一 第一甲ノ租率
 二 第二甲ノ租率
 三 第三甲ノ租率
 四 第四甲ノ租率
 五 第五甲ノ租率

○臺灣總督府令第二十五號(官報四月八日)

明治四十年九月府令第七十八號臺灣浮浪者取締規則施行細則(明治四十年九月二十六日)抄録
 第七條 臺灣浮浪者取締規則第二條ノ處分ヲ受ケタル者ニ對スル左ノ費用ハ官費ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ヲ支辨スルコトヲ得

臺灣總督府令第二十六號(官報四月十三日)
 臺灣總督府令第二十八號臺灣總督府經費渡切規則中左ノ通改正ス
 明治四十二年四月府令第十八號臺灣總督府經費渡切規則中左ノ通改正ス
 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 明治四十四年四月二日

第一條 明治四十二年勅令第六十一號ニ依リ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ官署及費目左ノ如シ

- 一 登記所稅關監視署
 - 應費
 - 備品費
 - 消耗品
 - 雜給及雜費
 - 備入料
 - 薪炭油類、雜用品
 - 小使及雜役夫(小使ハ登記所ニ限ル)
- 二 一、二等郵便局出張所
 - 遞信事業費
 - 現業用諸品費
 - 備入料
 - 雜品、薪炭油類、雜用品
 - 雜役夫
- 三 三等局以下ノ郵便官署
 - 遞信事業費
 - 三等局以下經費
 - 集配費
 - 普通事務費
 - 雜品、薪炭油類、雜用品
 - 雜役夫
- 四 測候所、燈臺
 - 測候所經費
 - 燈臺及測候費
 - 航路標識及測候用諸品費
 - 備入料
 - 雜品、薪炭油類、雜用品
 - 雜役夫
 - 解船賃(燈臺ニ限ル)
- 五 普通集配料
- 六 普通遞送料

第二條 各部署ノ前條ノ費目ニ就キ渡切經費ヲ以テ支辨スヘキ品目若ハ種別ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 各部署ノ前條ノ費目若ハ種別ニ就キ渡切經費ノ年額及月割額ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ各官署ニ令達シ同時ニ當該所管任拂命令官若ハ現金前渡ヲ受クル官吏ニ通知スヘシ其ノ年額及月割額ヲ變更セムトスル時亦同シ

第五條 仕拂命令官若ハ現金前渡ヲ受クル官吏ハ第三條ノ通知ニ基キ毎月上旬各官署ノ主任官ニ現金交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 各官署ノ主任官ハ渡切經費ニ關スル簿冊ヲ設ケ現金及物品ノ受拂ヲ記入シ證書書類ハ適宜編纂シ置クヘシ

第七條 主任官ニシテ月ノ中間ニ交代又ハ死亡シタルトキハ交付ノ翌日ヨリ起算シ殘餘ノ日數ニ對スル日割額ニ相當スル現金若ハ現品ヲ後任主任官ニ引繼クヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ後任者之ヲ精算スヘシ

第十條 削除
第十二條 本令施行ニ關スル細則ヲ要スルトキハ各部署局長之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
附則
本令ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕
臺灣總督府令第十八號臺灣總督府經費渡切規則(明治四十二年四月十三日(即ち四月)抄録)
第一條 明治四十二年勅令第六十一號ニ依リ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ官署左ノ如ク指定ス
登記所

一、二等郵便局出張所
 燈臺
 渡切所
 渡切經費ヲ以テ支辨セシムルハ左ノ如シ
 一 薪炭油類、マツチ類、燐燐、生鉄、ラシ、ラシ、火炭、布巾、雜巾、雜
 二 厩舎内外ノ掃除、取取、其ノ他雜役等ノ當時ニ要スル一切ノ備入料
 但シ燈臺ニテアリテハ浮標巡視其ノ他用務處辨ノ爲常時ニ要スル渡切經費并備入料ヲ含ム
 第三條 渡切經費ハ年額ニ依リ月割額ニ區別シ登記所ニテアリテハ其ノ所管ノ地方法院長一、二等郵便局出張所、燈臺
 ニテアリテハ通信局長、税關監督等ニテアリテハ税關長ニ於テ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ各官署ニ令達スヘシ其ノ年額及
 月割額ノ變更セムトスルハ亦同シ
 第五條 渡切經費ハ毎月十日迄ニ當該主任官ニ交付スヘシ
 第六條 各官署ノ主任官ハ渡切經費ニ關スル簿册ヲ設ケ一切ノ收支ヲ記入スヘシ
 前項ノ簿册ハ主任官交代ノトキ後任者ニ引継クヘシ
 第七條 主任官ニシテ月ノ中間ニ交代シタルトキハ交付ノ翌日より起算シ殘餘ノ日數ニ對スル日割額ニ相當スル現金若ハ
 現品ヲ後任主任官ニ引継クヘシ
 第十條 第三條ノ當該官ハ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ第二條ノ範圍ヲ變更シ又ハ増減スルコトヲ得
 ○臺灣總督府令第二十七號(官報四月十三日)
 臺灣人工甘味質取締規則左ノ通相定ム
 明治四十四年四月六日
 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ於テ人工甘味質ト稱スルハ、サッカリン(甘精)其ノ他之ニ類スル化學的製品ニシ
 テ糖分ニ非サルモノヲ謂フ
 第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ニハ人工甘味質ヲ加味スルコトヲ得ス
 人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ
 得ス

本條ノ規定ハ第三條第一項第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス
 第三條 廳長ハ治療上ノ目的ニ供スヘキ飲食物ノ調味ニ人工甘味質ノ使用ヲ許可スルコトヲ得
 前項ノ飲食物ハ醫師ノ證明アル者ニ限リ之ヲ販賣、授與スルコトヲ得
 第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ飲食物ヲ他人ニ代理販賣又ハ請買セシムルトキハ其ノ姓名及營
 業ノ場所ヲ廳長ニ届出ヘシ
 第一項ノ許可ハ廳長ニ於テ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得
 第四條 前條ノ飲食物ヲ販賣、授與スルトキハ容器又ハ被包ヲ用井其ノ容器、被包ニ人工甘味質製
 ナル旨ヲ明記スヘシ
 第五條 廳長ハ第三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ人工甘味質ヲ加味シタル飲食物ニ關シテハ明治
 三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本令ニ違反シタル營業者ニ關シ亦同シ
 第六條 第二條第一項第二項、第三條第三項又ハ第四條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘
 留若ハ科料ニ處ス
 第七條 營業者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ
 管理人又ハ代表者ニ適用ス
 營業者ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反
 シタルトキハ營業者ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ營業者ニ適用ス
 附則
 本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ○臺灣總督府令第二十八號(官報四月二十九日)
 明治四十三年法律第七號臺灣林野調查規則ハ明治四十四年五月一日ヨリ南投廳ニ之ヲ施行ス
 明治四十四年四月二十日
 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第二十九號（官報四月二十九日）
明治四十一年八月府令第二十七號臺灣牛乳營業取締規則中左ノ通改正ス

明治四十四年四月二十二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 本令ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脱脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳脱脂煉乳及粉乳ヲ謂フ

牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ榨取製造販賣若ハ請買ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一、〇二六乃至一、〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ一、〇三二乃至一、〇三八トス

全乳ノ脂肪量ハ百分中三、〇分以上脱脂乳ノ乾燥物質量ハ百分中八、五分以上トス

第三條 煉乳ノ脂肪量ハ百分中八、〇分以上トス

煉乳又ハ脱脂煉乳中ニ混和スル糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五、〇分以下トス

第九條 牛乳營業者ハ亞鉛銅黃銅燒酎不真ニシテ且ツ有害ノ物質ヲ施シタル陶器又ハ含鉛玻璃ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス

第十二條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

一 腐敗シタルモノ

二 他物ヲ混合シタルモノ

三 第九條ノ容器ヲ用井タルモノ

四 第十條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ

五 第三條ノ規定ニ適合セザルモノ

第十六條 牛乳營業者ハ牛乳ノ容器ニ全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ表示シ煉乳ノ容器ニハ煉乳脱脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タルコトヲ表示スヘシ

牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脱脂乳ヲ、煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ルルコトヲ得ス

第二十九條 左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第八條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第三十條 第十七條乃至第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ第四條各號ノ事項ヲ變更シ又ハ牛乳榨取所ヲ増築改築若ハ修繕シタル者

二 第五條第六條第十三條乃至第十六條第二十條乃至第二十四條ノ規定ニ違反シタル者

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十七號臺灣牛乳營業取締規則（明治四十一年八月二十二日）

第一條 本令ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脱脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳及粉乳牛乳營業者ト稱スルハ牛乳ノ榨取製造又ハ牛乳製品ノ榨取製造又ハ牛乳製品ノ貯藏若ハ請買ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

取扱場運動場並ニ附屬建物及乳製品製造場乳製品貯藏場其ノ他營業ノ用ニ供スル建物若ハ場所ヲ謂フ

第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一、〇二六乃至一、〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ一、〇三二乃至一、〇三八トス

牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中二七分以上脱脂乳ニ在リテハ百分中〇・五分以上トス
 第三條 煉乳ハ水分ヲ除ク外全乳ノ成分ノ三倍以上ヲ含有スルモノトス
 煉乳中ニ混和スル白糖量ハ乳糖ヲ含シテ百分中五・〇分以下トス
 第九條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ニ衛生上有害ノ材料ヲ以テ製シタル容器蓋等ヲ用フルコトヲ得ス
 牛乳營業者ノ營業上使用する器具等ハ衛生上有害ノ材料ヲ以テ製シタルモノニ限ル
 第十二條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
 一 腐敗シタルモノ
 二 他物ヲ混合シタルモノ
 三 有害ノ容器ヲ用ヒタルモノ
 四 第十條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
 五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳
 第十六條 牛乳ノ容器ニハ適當ナル覆蓋ヲ爲スヘシ
 第二十九條 左ニ掲ケル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第四條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シタル者
 二 第八條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者
 第三十條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 一 許可ヲ受ケスシテ第四條各款ノ事項ヲ變更シ又ハ牛乳採取所ヲ増築改築若ハ修繕シタル者
 二 第五條第六條第十三條乃至第十六條第二十條第二十四條ノ規定ニ違反シタル者

○臺灣總督府令第二十號(官報 四月二十九日)

明治三十九年府令第四十五號中電話交換料ノ部總爺ノ次ニ左ノ如ク加フ
 明治四十四年四月二十二日
 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換料金年額
 關西 三十六圓

○關東都督府令第八號(官報 四月七日)
 郵便振替貯金規則左ノ通定ム
 明治四十四年三月三十日
 關東都督 子爵大島義昌

郵便振替貯金規則

目次

- 第一章 總則
- 第二章 加入
- 第三章 拂込及拂出
 - 第一節 通則
 - 第二節 拂込
 - 第三節 振替
 - 第四節 現金拂
 - 第五節 局待拂
- 第四章 異動變更
- 第五章 脱退及除名

郵便振替貯金規則

第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

- 一 加入者又ハ其ノ他ノ者ヨリ現金又ハ所定ノ證券ニ依ル拂込ヲ指定加入者ノ口座ニ受入ルルコト
- 二 加入者ノ請求ニ依リ加入者ノ口座相互間ニ於テ貯金ノ振替ヲ爲スコト
- 三 加入者ノ請求ニ依リ其ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ當該加入者又ハ其ノ指定人ニ現金ノ拂渡ヲ爲スコト

第三條 郵便振替貯金ノ振替計算ヲ爲ス爲關東都督府通信管理局郵便貯金局大阪郵便貯金支局福岡郵便貯金支局朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所及臺灣總督府通信局ニ加入者ノ口座ヲ設ク郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ自己ノ便宜ニ從ヒ前項所管廳ノ一箇所又ハ數箇所ニ口座ノ開設ヲ請求スルコトヲ得

第四條 口座所管廳ニ於テハ加入者ノ口座番號氏名住所職業等ヲ輯録シタル振替貯金加入者名簿ヲ發行シ加入者又ハ其ノ他ノ者ノ請求ニ依リ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スモノトス

前項ノ名簿ヲ買受ケムトスル者ハ其ノ請求書ニ名簿價格ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シ之ヲ口座所管廳ニ差出スヘシ但シ加入者所屬ノ口座所管廳ヨリ名簿ヲ買受クル場合ニ於テハ其ノ代金ハ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

第五條 加入者及其ノ他ノ關係人本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ成規ニ依リ提出シタル印鑑票ト同一ノ形式ニ依リ署名シ且同一ノ印章ヲ使用スヘシ

第六條 社寺學校組合又ハ團體ニシテ法人ニ非サル者振替貯金ニ加入セムトスルトキハ其ノ代表者一名ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ以テ一箇ノ加入者ト看做ス

前項ノ加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ニ於テ社寺學校組合又ハ團體ノ名稱ヲ肩書シ署名捺印スヘシ

第七條 加入者ハ一名ヲ限リ參加署名人ヲ設定スルコトヲ得

參加署名人ヲ設定シタル加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ參加署名人モ亦其ノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第八條 加入者ハ一名又ハ數名ノ代理署名人ヲ設定スルコトヲ得

第九條 加入者ハ一口座ニ付一箇ヲ限リ商號屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ之カ登記ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ別名登記ニ對シテハ料金一圓ヲ徵收ス

第十條 代人ニ於テ本規則ニ依ル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ蓋出シ且代人タルノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

前項ノ委任ハ郵便官署ニ提出スヘキ書類ニ附記シテ之ヲ證明スルコトヲ得

第十一條 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金及代金ハ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外口座所管廳ニ於テ之ヲ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス但シ時宜ニ依リ郵便切手ヲ以テ徵收スルコトアリ

第十二條 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金ニシテ郵便官署ノ過失ニ依リ過納又ハ誤納セシメタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ納付ニ係ルモノナルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ニ係ルモノナルトキハ現金ヲ以テ之ヲ還付ス

前項ノ料金ハ納付後九十日ヲ經過スルトキハ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 郵便振替貯金ノ利子ハ其ノ口座ニ於ケル月末現在高ニ對シ翌月ヨリ拂出ノ前月マテ之ヲ付ス但シ一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

郵便振替貯金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ區切り之ヲ元金ニ加フ

第十四條 國庫金受拂ノ爲ニスル口座ノ貯金ニ對シテハ利子ヲ付セス

第二章 加入

第十五條 郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ニ基本預金二十圓ヲ添ヘ且別名ノ登記ヲ受ケムトスル者又ハ用紙若ハ名簿ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ料金又ハ代金ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ官公署ニ於テ加入請求ノ場合ハ基本預金ノ拂込ヲ要セス

一 加入者ノ住所氏名
 二 加入者ノ職業
 三 振替貯金ノ口座ヲ開設スヘキ場所ノ指定
 四 加入ノ際振替貯金ニ關スル用紙及加入者名簿ヲ買受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱及所要數量
 五 代表者、參加署名人又ハ代理署名人ヲ設定スルモノハ其ノ住所氏名
 六 商號、屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ登記ヲ受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱
 前項ノ場合ニ於テ官署又ハ官吏カ國庫金受拂ノ爲ニ加入スルモノナルトキハ其ノ金種目又ハ使用ノ目的ヲ記載シタル當該官署ノ證明書ヲ加入請求書ニ添附スヘシ
 第十六條 口座所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人名義ノ口座ヲ開設シ其ノ口座番號ヲ請求人ニ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス
 第十七條 請求人前條印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ署名捺印ノ上無料書留通常郵便ニ依リ速ニ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ但シ參加署名人又ハ代理署名人ヲ設ケタルモノナルトキハ其ノ印鑑票ノ裏面ニ加入者ニ於テ其ノ旨ヲ證明スヘシ
 第三章 拂込及拂出
 第一節 通則
 第十八條 郵便振替貯金ノ拂込、振替及拂出ハ拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ
 第十九條 拂込書用紙ハ拂込ノ際郵便局所ニ於テ當該拂込人ニ無料ニテ之ヲ交付ス
 第二十條 加入者ハ自己ノ口座ニ對スル拂込ニ專用スル爲其ノ口座番號及住所氏名或拂込料金加入者負擔ノ表示ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ表示ヲ印刷シタル拂込書用紙ノ賣渡ヲ所屬口座所管廳ニ請求スルコトヲ得

前項拂込書用紙ノ價格ハ五十枚綴一冊ニ付金十錢トス
 第二十一條 加入者ハ拂込書用紙ヲ私製スルコトヲ得
 私製ノ拂込書用紙ハ附録離形ニ適合シ且其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及氏名ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス
 第二十二條 拂込書用紙ニハ其ノ裏面餘白ニ廣告又ハ其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得
 第二十三條 拂出書用紙ハ普通拂出書及局待拂出書ノ二種トシ所屬ノ口座所管廳ニ於テ其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シ當該加入者ニ之ヲ賣渡スモノトス
 前項拂出書用紙ノ價格ハ各五十枚綴一冊ニ付金十五錢トス
 第二十四條 拂込書及普通拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者又ハ指定受取人ニ對スル通信文ヲ記載スルコトヲ得
 第二十五條 拂込書及拂出書ニ表示スル金高ハ其ノ字體ヲ正確ニ記載シ一、二、三及十ノ數字ハ壹貳參及拾ノ文字ヲ使用スヘシ
 拂込書及拂出書ニシテ其ノ記載事項ヲ訂正シタルモノハ郵便官署ニ於テ之ヲ受理セス但シ金高ヲ除クノ外其ノ訂正ノ箇所ニ拂込人又ハ拂出人ニ於テ相當證明ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二十六條 口座所管廳ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表示スル受拂通知票ヲ調製シ之ヲ當該加入者ニ發送ス
 前項ノ貯金現在高ニハ基本預金ヲ算入セズ
 第二十七條 加入者ハ所屬ノ口座所管廳ヨリ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ貯金現在高ヲ超過シテ振替若ハ拂出ノ請求ヲ爲シ又ハ局待拂出書ノ振出ヲ爲スコトヲ得ス
 第二十八條 現金ヲ以テ拂渡ヲ爲スヘキ拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十九條

郵便振替貯金ノ受拂ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ料金ヲ徵收ス
一 振替貯金ノ拂込金ニ對シテハ拂込ノ際一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ郵便切手ヲ以テ當該拂込人ヨリ徵收ス

一圓迄	一錢
五圓迄	二錢
十圓迄	四錢
五十圓迄	六錢
百圓迄	八錢
五百圓迄	十二錢
千圓迄	十四錢
五千圓迄	十六錢
一萬圓迄	十六錢
一萬圓ヲ超ニルトキハ其ノ超過額一萬圓迄毎ニ金四錢ヲ加徵ス	
振替貯金ノ口座ニ對シテ拂込金ノ受入ヲ爲シタルトキハ一口ニ付金一錢又振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ受入又ハ拂出各一口ニ付金二錢ノ割合ニ依ル料金ヲ一箇月分宛取總ノ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス	
現金拂渡ノ爲ニスル振替貯金ノ拂出ニ對シテハ一口ノ金高ニ應シ左ノ割合ニ依ル料金ヲ拂出ノ際當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス	
十圓迄	五錢
五十圓迄	十錢
百圓迄	十五錢

二百圓迄	二十錢
三百圓迄	二十五錢
四百圓迄	三十錢
五百圓迄	三十五錢
六百圓迄	四十錢
八百圓迄	四十五錢
千圓迄	五十錢

國庫金受拂ノ爲ニスル振替貯金ノ取扱ニ對シテハ前項ノ料金ヲ徵收セス

第三十條 前條第一項第一號ノ料金ハ加入者ニ於テ豫メ所屬ノ口座所管廳ノ承認ヲ受ケ自ラ之ヲ負擔スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拂込人ヲシテ拂込料金加入者負擔ノ旨ヲ表示シタル自己口座專用ノ拂込書用紙ヲ使用セシムヘシ但シ其ノ表示ハ印刷若ハ印章捺捺ニ依ルモノトス
前項ノ承認ヲ受ケタル加入者ノ口座ニ對シテハ一般ノ手續ニ依リ拂込ヲ爲スコトヲ妨ケス
第三十一條 加入者前條ニ依リ拂込料金負擔ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ請求書ニ拂込書用紙見本ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ
前項ノ規程ハ承認ノ取消ニ之ヲ準用ス

加入者拂込料金負擔取消ノ承認ヲ受ケタル後ト雖拂込料金負擔ノ爲發行シタル自己口座專用ノ拂込書用紙ニ依リ拂込アリタルトキハ其ノ料金ノ負擔ヲ拒ムコトヲ得ス
第三十二條 郵便振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ三十日トス
第三十三條 郵便振替貯金拂出證書ハ銀行ニ對シ引渡ヲ爲スコトヲ得
交換所組合銀行ハ當該交換所ニ參加セル郵便官署ニ對シ手形交換ノ手續ニ準シ交換所所在地ノ郵便局所ニ於テ拂渡スヘキ振替貯金拂出證書ノ交換拂ヲ請求スルコトヲ得

第二節 拂込

第三十四條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込ヲ爲サトスル者ハ拂込書用紙ニ拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號、氏名、拂込金額及拂込人ノ住所氏名ヲ記載シ、拂込金ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ、其ノ受領票ヲ受取ルヘシ

第三十五條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルトキハ、其ノ拂込書ヲ拂込ヲ受クヘキ口座ノ屬スル口座所管廳ニ送付ス

口座所管廳ニ於テハ、前項ノ拂込書ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ登記シ、拂込通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第三十六條 左ノ證券ハ之ヲ現金ニ代用シテ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得、但シ郵便取立金取立濟通知書ニ依リ拂込ム場合ハ、取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼附スヘシ

一 郵便爲替證書

二 郵便取立金取立濟通知書

三 郵便振替貯金拂出證書

四 中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券

第三十七條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ、豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立金ノ振替拂込ヲ請求スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ自己ノ口座ニ專用スヘキ拂込書用紙ノ相當數量ヲ當該郵便局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ、郵便取立金到着ノ際加入者ノ請求ヲ待タズ直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ、其ノ拂込料金及取立金送達料ハ所屬ノ口座所管廳ニ於テ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徵收ス

第三十八條 拂込人ハ拂込金ノ口座登記前ニ限リ、其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

拂込人前項ノ請求ヲ爲サトスルトキハ、拂込先加入者ノ口座番號、氏名、拂込金額、拂込局名、拂込人ノ氏名及取消ノ旨ヲ郵便又ハ電報ニ依リ當該口座所管廳ニ通報スヘシ

第三十九條 拂込人前條取消ノ通報ヲ郵便局所ニ依リ託セムトスルトキハ、相當事項ヲ記載シタル拂込取消通報請求書ニ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ、金三十錢電報ニ依ルモノハ、金三十錢ノ割合ニ依リ郵便切手ヲ添へ、拂込郵便局所ニ差出スヘシ

第四十條 口座所管廳ニ於テ拂込金取消ノ通報ヲ受ケタルトキハ、其ノ拂込金ヲ口座ニ登記セス、拂込郵便局所ヲ經テ之ヲ拂込人ニ還付ス

前項ノ場合ニ於テ當該拂込金既ニ口座登記後ナルトキハ、單ニ其ノ旨ヲ拂込人ニ通知ス

第三節 振替

第四十一條 加入者ハ相手加入者所屬ノ口座所管廳ノ如何ニ拘ラス、其ノ口座ニ對シ貯金ノ振替ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ヘムトスルトキハ、普通拂出書用紙ニ金額、振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名等ヲ記載シ、署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

第四十三條 口座所管廳ニ於テ振替請求ニ係ル拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ、當該印鑑票ニ就キ氏名及印影ノ正當ナルコトヲ認メ、其ノ口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ之ヲ受入レ、拂出通知票ハ當日ノ受拂通知票ト共ニ之ヲ拂込ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第四十四條 郵便振替貯金ニ加入セル銀行ハ、特ニ指定セラレタル銀行ニ於ケル自行ノ當座勘定口ニ其ノ貯金ノ振替ヲ請求スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ普通拂出書ノ指定受取人欄ニ相手銀行ノ名稱及「當座勘定口」ノ文字ヲ記載シ、署名捺印ノ上第四十二條ノ例ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

第四十五條 口座所管廳ニ於テ前條ノ拂出書ヲ受ケタルトキハ第四十三條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上指定銀行ノ區別ニ從ヒ各銀行ノ請求ヲ取極メ共ノ總額ニ對シ指定銀行ニ支拂フヘキ振替貯金拂出證書ヲ發行シ各銀行ヨリ提出セル拂出通知票ト共ニ之ヲ當該指定銀行ニ送付ス

前項ノ拂出證書ニ對シテハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

第四十六條 前條ノ拂出證書ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ從ヒ當該指定銀行ニ對シ振替ノ方法ニ依リ之カ支拂ヲ爲ス

指定銀行ニ於テ前項ニ依リ支拂ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該各銀行ノ當座勘定口ニ振替受入ルルモノトス

第四十七條 第三十八條乃至第四十條ノ規定ハ振替取消ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四節 現金拂

第四十八條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ヲ指定シテ之カ拂渡ヲ受ケシメタルトキハ普通拂出書用紙ニ金額受取人ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ且金額欄ノ下部餘白ニ「現金拂」ノ文字ヲ附記シ署名捺印ノ上無料普通郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第四十九條 口座所管廳ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第四十三條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ發行シ當該拂出通知票ト共ニ拂渡郵便局所ヲ經テ之ヲ指定受取人ニ送達ス

第五十條 受取人拂出證書ニ對スル現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ之ヲ引替ニ現金ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人カ法人又ハ法人ニ非サル團體ナルトキハ其ノ名稱ヲ記載シ捺印スルカ

又ハ其ノ代表者若ハ會計ヲ掌ル者ニ於テ相當肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第五十一條 拂渡郵便局所ニ於テ指定受取人所在不明又ハ其ノ事由ニ依リ拂出證書ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ證書ヲ發行シタル口座所管廳ヲ經テ拂出請求加入者ニ送達ス

加入者前項ニ依リ口座所管廳ヨリ送達ヲ受ケタル拂出證書又ハ指定受取人ヨリ返付ヲ受ケタル拂出證書ニ對シ現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ所在ノ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第五十二條 現金拂ヲ請求シタル加入者ハ振替貯金拂出證書ノ現金拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ノ停止ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ口座番號拂出金額拂出書用紙番號拂出請求日附指定受取人ノ住所氏名及停止通知ノ郵便又ハ電報ニ依リ區別ヲ記載シタル拂渡停止請求書ニ署名捺印ノ上無料普通郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

前項拂渡停止ノ請求ニ對シテハ拂出證書一枚ニ付其ノ停止通知ノ郵便ニ依ルモノハ金三錢電報ニ依ルモノハ金三十錢ノ割合ニ依リ料金を徴收ス

第五十三條 加入者ハ拂渡停止ノ請求ヲ口座所管廳ニ送達セシムル爲其ノ電報通知ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記シ尙其ノ料金をトシテ拂出一口ニ付金三十錢ノ割合ニ依リ郵便切手ヲ添ヘ之ヲ當該郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第五十四條 口座所管廳ニ於テ拂渡停止ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求ノ區別ニ從ヒ郵便又ハ電報ニ依リ其ノ拂渡ノ停止ヲ當該拂渡郵便局所ニ通報ス

拂渡郵便局所ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタル場合ト雖既ニ拂渡済ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ當該加入者ニ通知ス

第五十五條 前三條ノ規定ハ拂渡停止解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡資金ノ缺乏又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ拂出證書ニ對スル拂渡

ヲ停止シタルトキハ當該證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記載印シテ之ヲ請求人ニ返付ス

前項ニ依リ拂渡ヲ停止シタル爲經過シタル日數ハ之ヲ拂出證書ノ有效期間ニ算入セス

第五十七條 拂渡郵便局所ニ於テ拂出證書ニ對シテ拂渡ヲ停止シタル場合ト雖拂渡ヲ爲レ得ルニ至

リタルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス停止期間ノ延長ヲ要スルニ至リタルトキ亦同シ

第五十八條 拂渡郵便局所ニ於テ資金缺乏ノ爲拂出證書ニ對スル拂渡ヲ停止スヘキ場合ト雖其ノ

拂渡シ得ル金額ヲ限度トシ請求人ノ希望ニ依リ一部假拂ヲ爲スコトアルヘシ

請求人前項ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領書ヲ差出し且拂出證書ヲ呈示シテ假拂金ノ記入及殘

額ニ對スル拂渡停止ノ證明ヲ受クヘシ

第五十九條 加入者又ハ受取人ニ於テ拂出證書ニ指定セル拂渡局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキ

ハ拂出證書ノ記號番號日附金額及新舊拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル拂渡局所變更請求書ニ

料金トシテ證書一枚ニ付金三錢ノ割合ニ依リ郵便切手ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出し又ハ所屬ノ

口座所管廳ニ送付スヘシ

郵便官署ニ於テ拂渡局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨請求人ニ通知ス

第六十條 加入者及受取人ハ左ノ場合ニ於テ振替貯金拂出證書ノ再度交付ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ納付スヘシ

一 拂出證書亡失シタルトキ

二 拂出證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂出證書有效期間ヲ經過シタルトキ

第六十一條 加入者又ハ受取人拂出證書ノ再度交付ヲ請求セムトスルトキハ證書ノ記號番號日

附金額加入者ノ口座番號氏名及請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ料金ニ相當スル郵便切手

ヲ貼附シ署名捺印ノ上原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ニ對シテハ口座所管廳ニ於テ原證書ニ對シテ未タ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再

度振替貯金拂出證書ヲ發行シ書留郵便ニ依リ之ヲ請求人ニ送達ス

第六十二條 再度振替貯金拂出證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第六十三條 加入者拂出金戻入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル請求書ニ拂出證

書ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ提出スルカ又ハ拂込書ノ金額ノ下部餘白ニ「戻入」ノ文字ヲ記

載スルノ外總テ證券ニ依リ拂込ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ但シ證券亡失シタルモノ及毀損汚斑シ

テ不判明トナリタルモノハ拂出月日、拂出金額、證書番號及受取人氏名ヲ記載シタル戻入請求書

ヲ所屬ノ口座所管廳ニ提出スルカ又ハ之ヲ拂込書ニ添屬スヘシ

拂入金ノ戻入ハ之ヲ拂込ト看做シ取扱フ

第五節 局待拂

第六十四條 關東都府通信管理局ニ屬スル加入者ハ大連郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入

者ハ東京中央郵便局又ハ遞信省構内郵便局ニ於テ大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪中央

郵便局ニ於テ福岡郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ福岡郵便局ニ於テ朝鮮總督府郵便爲替貯金管

理所ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ又臺灣總督府通信局ニ屬スル加入者ハ臺北郵便局ニ於

テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ拂渡ヲ受ケシムヘキ局待拂拂出書ヲ振出スコトヲ得

第六十五條 加入者局待拂拂出書ヲ振出サムトスルトキハ局待拂拂出書用紙ニ相當事項ヲ記載

名捺印シ且金額ノ變造ヲ豫防スル爲拂出書用紙ニ設備セル數字ニ依リ拂出金額ノ四位以上ヲ再

示シ直接之ヲ受取人ニ交付スヘシ

第六十六條 局待拂拂出書ニ對スル現金ヲ受領セムトスル者ハ拂出書ノ裏面ニ署名捺印シ之ヲ指

定郵便局ニ差出スヘシ

局待拂出書ニ對シテハ指定郵便局ニ於テ振出加入者ノ氏名印影及貯金高等ヲ調査シタル上受取人ニ即時現金ノ交付ヲ爲ス

第六十七條 局待拂出書ニシテ其ノ振出ノ日附ヨリ起算シ七日間ヲ經過シタルモノハ郵便局ニ於テ之ヲ受理セス

第四章 異動變更

第六十八條 本章ノ規定ニ依リ加入者ヨリ差出スヘキ各種ノ異動變更ニ關スル屆書ニハ口座番號ヲ附記シ署名捺印シ且關係人アルトキハ之ニ連署スヘシ關係人死亡又ハ其ノ事由ニ依リ連署スルコト能ハサルトキハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第六十九條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人氏名ヲ變更シタルトキハ加入者ニ於テ其ノ屆書ニ氏名變更ノ事實ヲ證明スヘキ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十條 加入者法人ナル場合ニ於テ其ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ屆書ニ法人登記ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ變更ノ事實ヲ證明シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十一條 加入者肩書別名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツヘシ

第七十二條 加入者其ノ代表者、參加署名人若ハ代理署名人ヲ變更シ又ハ新ニ參加署名人若ハ代理署名人ヲ設ケタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ口座所管廳ニ於テ印鑑票用紙ヲ請求人ニ送付ス

請求人前項ノ印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ例ニ依リ新ニ印鑑票ヲ調製シ差出スヘシ

第七十三條 加入者參加署名人又ハ代理署名人ヲ廢シタルトキハ其ノ屆書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十四條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人印章ヲ改メタルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ所屬ノ口座所管廳ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出し且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第七十二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 郵便振替貯金ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡スコトヲ得

第七十六條 郵便振替貯金ノ讓渡ハ口座所管廳ニ於テ當該口座ノ名義ヲ書換ヘタルトキヨリ其ノ效力ヲ生ス

第七十七條 郵便振替貯金ノ讓受人ハ當該口座ニ對スル未納料金ノ納付其ノ他讓渡人ノ郵便官署ニ對スル一切ノ義務ヲ承繼スルコトヲ要ス

第七十八條 郵便振替貯金ヲ讓渡サルトキハ加入者ニ於テ讓受人ノ連署シタル振替貯金讓渡請求書ヲ作製シ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十九條 口座所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ料金一圓ヲ徴收シタル上當該口座ノ名義ヲ書換ヘ其ノ旨ヲ前加入者及讓受人ニ通知シ且讓受人ニ對シテハ印鑑票用紙ヲ送付ス

○朝鮮總督府令第五十四號(官報五月十三日)

統監府看守、統監府女監取締給與品及貸與品規則並統監府監獄備人給與品及貸與品規程中、統監ヲ

朝鮮總督ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第五十五號(官報五月十七日)

明治四十二年統監府令第四十六號同年統監府令第四十七號及同年統監府令第四十八號中、統監ヲ

朝鮮總督ニ「韓國」ヲ「朝鮮」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

〔參照〕

明治四十二年十月二十三日 統監府令第四十六號ハ統監府監獄ニ看守部長ノ職ヲ置クノ件、同統監府令第四十七號ハ兼
任及判任待遇統監府監獄職員及統監府巡查ノ加俸額ニ關スル件、同統監府令第四十八號ハ統監府監獄職員ニシテ巡警等ニ
從事スル者ニ就テ携帶セシムル件ナリ

○朝鮮總督府令第五十六號(官報五月十七日)

朝鮮人タル朝鮮總督府看守ノ給與ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年五月十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮人タル朝鮮總督府看守ノ給與ニ付テハ左ノ變更ヲ以テ委任及判任待遇監獄職員給與令中看守
ニ關スル規定ヲ準用ス但シ宿料ハ之ヲ給セス

- 一 月俸ハ七圓乃至十六圓トス但シ教習中ハ六圓トス
- 二 初任者ノ月俸ハ九圓以下トス
- 三 月俸ノ増給ハ二圓以下トス
- 四 増俸期間ノ制限ヲ受クル月俸ハ十圓以上トス
- 五 特別手當ハ一月七圓以下トス
- 六 勤務手當ハ一日三十錢以下トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第五十七號(官報五月二十五日)

明治四十四年七月一日ヨリ左記地域ニ度量衡法ヲ施行ス

平安南道

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

- 咸川郡 順川郡 安州郡 中和郡 龍岡郡 价川郡 江西郡 寧遠郡 陽德郡 江東郡 孟山郡
- 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡 蔚山郡
- 平安北道
- 寧邊郡 江界郡 龍川郡 定州郡 宣川郡 慈山郡 龜城郡 鐵山郡 熙川郡 豐基郡 雲山郡
- 泰川郡 昌城郡 朔州郡 溟陽郡 嘉山郡 郭山郡 博川郡 慈城郡 厚昌郡 雲山郡

○朝鮮總督府令第五十八號(官報五月三十一日)

朝鮮總督府看守採用規則左ノ通定ス

明治四十四年五月二十六日

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

朝鮮總督府看守採用規則

第一條 朝鮮總督府看守ハ試験ノ上之ヲ採用ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ看守ニ採用スル

場合ニ於テハ學術試験ヲ省略スルコトヲ得

- 一 滿二年以上看守ノ職ニ在リテ退職後滿二年ヲ經過セサル者
 - 二 看守精勤證書ヲ有スル者
 - 三 判任官ノ職ニ在リタル者及判任官タル資格ヲ有スル者
 - 四 陸軍兵卒ニシテ現役滿期トナリ又ハ戰時召集ヲ解除セラレ下士適任證書ヲ有スル者
 - 五 朝鮮人ニシテ舊職國判任文官ノ職ニ在リタル者
- 第二條 看守志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十五年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス但シ曾テ看守長 看守ノ職ヲ奉シタル者ハ年齡五十年迄志願スルコトヲ得

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 懲戒處分ニ因リ免官又ハ免職セラレタル後滿二年ヲ經過セサル者

三 身分不相應ノ負債アル者又ハ破産 家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者

四 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條 體格検査ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 體質善良ニシテ嫌惡スヘキ疾患ナキ者

二 身幹四尺九寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ充分發聲ニ堪フル者

六 精神完全ナル者

第四條 學術試験ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 刑事及監獄ニ關スル法規ノ大要ニ通スル者
- 二 普通往復文及申告書ヲ作り得ル者
- 三 加減乗除ヲ爲シ得ル者
- 四 普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者
- 第五條 試験ハ看守長二名以上立會ヒ第一課長之ヲ行フ
- 第六條 試験ニ合格セシ者一年內ハ其ノ合格ヲ有效トス但シ體格ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 本令施行ノ方法細目ハ典獄之ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第五十九號(官報五月三十一日)

地方費賦課金徵收規則中左ノ通改正ス

明治四十四年五月二十六日

朝鮮總督 伯府寺内正毅

- 第二條 賦課金ヲ徵收セムトスルトキハ地稅附加稅ニ付テハ面長ニ、市場稅ニ付テハ市場管理者ニ對シ納額告知書ヲ發シ其ノ他ニ付テハ納稅者ニ對シ納入告知書ヲ發行スヘシ
- 第三條 第一項ヲ左ノ如ク改ム
 - 公錢領收員又ハ市場管理者ハ其ノ徵收シタル現金ニ現金納付書ヲ、納稅者ハ現金ニ納入告知書ヲ添附シ道金庫ニ納入スヘシ
- 第三條ノ二 前條第二項ニ依リ郵便振替貯金ヲ以テ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込通知書裏面通信文記載欄甲乙兩號ニ年度科目金額納入ノ氏名取扱廳名等ヲ記入スヘシ但シ郵便振替貯金拂

込用紙ハ府郡ニ請求スヘシ

郵便振替貯金拂込ニ要スル料金ハ拂込人ヨリ納付スルコトヲ要セス

道金庫ニ於テ郵便振替貯金ニ依リ納入ヲ受ケタルトキハ拂込通知書乙號用紙ニ押印シ收入徵收官ニ送付スヘシ

第五條 地稅附加稅ニ付テハ面ニ、市場稅ニ付テハ市場管理者ニ其ノ徵收金額ノ百分ノ二ヲ交付ス

第七條 賦課金ノ納額告知書、納入告知書、現金納付書及郵便振替貯金拂込書用紙通信文ノ樣式ハ第一號乃至第四號ニ依ル

第一號樣式用紙寸法等ニ關スル割註ヲ左ノ如ク改ム

(用紙適宜)紙面寸法 縱六寸 横四寸五分 輪廓ハ單線、輪廓內ノ寸法ハ適宜)

第二號樣式ノ下ニ左ノ割註ヲ加フ

(用紙適宜)紙面寸法 縱六寸五分 横三寸五分 ノモノ三枚、輪廓ハ單線、輪廓內ノ寸法ハ適宜)

第三號樣式用紙寸法等ニ關スル割註ヲ左ノ如ク改メ「公錢領收員」ノ下ニ「市場管理者」ヲ注意中「公錢領收員」ノ下ニ又ハ「市場管理者」ヲ加フ

(用紙適宜)紙面寸法 縱六寸五分 ノモノ三枚、輪廓ハ單線、輪廓內ノ寸法ハ適宜)

第三號樣式ノ次ニ左ノ樣式ヲ加フ

第四號樣式(用紙寸法刷色等郵便振替貯金規則振替貯金拂込書拂込通知書ノ通但シ通知書ノ次ニ注意文ヲ加フ)

(表面)

拂込通知票

名所入拂 氏住込	※一金	加入者 氏名	添付 口座
		※	※
			受附局印

口座管理員印

注意

- 一、表甲乙號共拂込入ニ於テ記入スヘシ
- 二、金額ハ明瞭ニ記載スヘシ
- 三、一金ノ下ニハ道金庫ニ納付スヘキ金額ヲ記載スヘシ
- 四、拾銭未満ノ金額ハ振替貯金ト爲スコトヲ得サルモノトス

(裏面)

通信

第「何」號	「何」道	「何」年度	「何」面公債債收員 (市場管理員)	「何」某納
款「何」項	「何」年	「何」月	「何」期(月)	分
一金何程				

乙

乙

文 欄 載 記

明治「何」年「何」月「何」日 拂込
 歳入徴收官
 「何」府尹(郡守)殿

「何」金 庫

第「何」號	「何」道	「何」年度	「何」面公債債收員 (市場管理員)	「何」某納
款「何」項	「何」年	「何」月	「何」期(月)	分
一金何程				
右納入ス				
明治「何」年「何」月「何」日				

乙

甲

注意 收入官或納税者ヨリ添込ヲ爲ス場合ニ於テモ本様式ニ準シ取扱フモノトス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(参照)

- 朝鮮總督府令第三十五號 地方費賦課金徴收規則(明治四十四年四月三十日(府令)抄録)
- 第二條 賦課金ヲ徴收セムトスルニキハ地稅附加稅ハ市長ニ對シ其ノ納額告知書ヲ發シ其ノ他ハ納稅者ニ對シ其ノ納入公報書ヲ發行スヘシ
- 第三條 第一項 公債債收員ハ其ノ徴收シタル現金ニ現金納付告知書ヲ納稅者ハ現金ニ納入告知書ヲ添附シ道金庫ニ納入シ領收證書ヲ受ケヘシ
- 第五條 地稅附加稅ニ付テハ面ニ共ノ徴收金額ノ百分ノ二ヲ交付ス
- 第七條 賦課金ノ納額告知書納入告知書ニ現金納付書ノ様式ハ第一號乃至第三號ニ依ル

明治四十四年五月 府令 朝鮮總督府第六十號 第六十一號 臺灣總督府第三十一號 臺灣有害性著色料取締規則 二四〇

○朝鮮總督府令第六十號(官報五月三十一日)
明治四十二年十二月 朝鮮總督府令第五十六號憲兵隊管區及配置表中左ノ邊改正ス

明治四十四年五月二十六日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

一 沃川憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄 大老川分遣所黃洞郡梧谷面ヲ 林山里分遣所黃洞郡海下面ニ改ム

一 釜山憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄 黃橋分遣所梁山郡東面ヲ 西倉分遣所梁山郡熊上面ニ改ム

一 金泉憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄 金鳥山分遣所開寧郡南面ヲ 若木分遣所仁同郡若木面ニ改ム

一 北青憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄 厚峙嶺分遣所ヲ 直洞分遣所ニ改ム

一 訓戎鎮憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄ニ 美占分遣所穩城郡美占面ヲ加フ

一 義州憲兵分隊管轄分派遣所名稱位置ノ欄 雲頭里分遣所 昌城郡府內面ヲ 昌州分遣所昌城郡昌州面ニ改ム

○朝鮮總督府令第六十一號(官報五月三十一日)
明治四十二年十二月 朝鮮總督府令第五十七號警察署ノ職務ヲ行フ憲兵分隊ノ名稱位置管轄區域表中左ノ邊改正ス

明治四十四年五月二十六日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

一 清河憲兵分隊管轄區域ノ欄 延日郡ノ内 西面ヲ削除ス

○臺灣總督府令第三十一號(官報五月十日)
臺灣有害性著色料取締規則左ノ通相定ム
明治四十四年四月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣有害性著色料取締規則

第一條 本令ニ於テ有害性著色料ト稱スルハ左ノ物質其ノ化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ
砒素「バリウム」「カドミウム」「クロム」「銅」「水銀」「鉛」「錫」「アンチモン」「ウラン」「ウーラニウム」「亜鉛」「蘇黃」「ピクリン酸」「チニトロクロレゾール」「コラルリン」

第二條 有害性著色料ハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ野茶 果實類ノ貯藏品及昆布ニ其ノ一「キログラム」中銅百「ミリグラム」ヲ含有スル限度内ニ於テ銅又ハ銅含有著色料ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條 有害性著色料ヲ以テ著色シタルモノハ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ容器又ハ被包トシテ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 漆硝子 釉藥又ハ珪瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ
二 硫酸「バリウム」「硫化」「カドミウム」「酸化」「クロム」「朱」「酸化錳」「偽金」「ムツレーフ」「ゴールド」
三 化亞鉛 硫化亞鉛 銅 錫 亞鉛 及其ノ合金屬ニシテ固有ノ光澤ヲ有スルモノヲ以テ著色シ飲食物ニ其ノ著色料混入ノ虞ナキモノ

第四條 有害性著色料ハ前條第二號ニ掲グルモノヲ除クノ外販賣ノ用ニ供スル化粧品 齒粉 小兒玩具品(繪草紙 錦繪 色紙ノ類ヲ含ム)ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ左ニ掲グルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 漆硝子 釉藥又ハ珪瑯質ニ有害性著色料ヲ融和シタルモノ
二 護謨質ニ融和シタル金硫黃
三 乾燥油又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタル酸化鉛(鉛丹ヲ含ム)但シ剝離シ易キモノハ此ノ限ニ在ラス
四 水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護謨質又ハ「ワニス」ニ融和シ若ハ「ワニス」ヲ塗布シタルモノ

明治四十四年五月 府令 臺灣總督府第三十一號 臺灣有害性著色料取締規則 二四一

酸化亞鉛又ハ硫化亞鉛ハ販賣ノ用ニ供スル護謨製玩具品ノ製造又ハ著色ニ使用スルコトヲ得ス
但シ護謨質又ハワニスニ融和シ若ハワニスヲ塗布シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
第五條 砒素ヲ含有スル著色料ハ販賣ノ用ニ供スル衣服其ノ他身ノ圍リニ用ウル物品又ハ其ノ材
料ノ著色ニ使用スルコトヲ得ス但シ布片百平方センチメートル中ニミリグラム以下ノ砒素
ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス
第六條 第二條ノ規定ニ適合セサル飲食物第三條ノ容器被包及之ヲ使用シタル飲食物又ハ第四
條若ハ第五條ノ規定ニ適合セサル物品若ハ材料ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ
貯藏スルコトヲ得ス
第七條 廳長ハ前條ノ物品ニ關シテハ明治二十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得
本令ニ違反シタル營業者ニ關シ亦同シ
第八條 第二條乃至第六條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
第九條 營業者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ
管理人又ハ代表者ニ適用ス
營業者ノ代理人ノ戶主家族同居者雇人共ノ他ノ從業者ニシテ共ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反
シタルトキハ營業者ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ營業者ニ適用ス
附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

鉛白ハ常分ノ内第四條ノ規定ニ拘ラス化粧品トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

○臺灣總督府令第三十二號(官報五月十日)

明治四十四年四月府令第三十一號臺灣有害性著色料取締規則第二條野菜、果實類ノ貯藏品及昆布中

銅ノ試驗方法ハ明治三十七年十一月內務省令第十五號ニ依ル省令ニ改正アリタルトキ亦同シ

明治四十四年四月二十五日

臺灣總督 伯崎佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十三號(官報五月十日)

臺灣總督府監獄所屬ノ職員中奏任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年四月二十六日

臺灣總督 伯崎佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十四號(官報五月十日)

臺灣飲食物用器具取締規則左ノ通相定ム

明治四十四年四月二十八日

臺灣總督 伯崎佐久間左馬太

臺灣飲食物用器具取締規則

第一條 本令ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調製器、容器、貯藏器
及量器ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スル
コトヲ得ス

第三條 營業者ハ飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ
鐵著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鍍布スルコトヲ得ス

罐詰用ノ罐ニ在リテハ營業者ハ外部ノ鐵著及鐵受ノ鐵著ニ百分中鉛五十分以上ヲ含ム合金ヲ使
用スルコトヲ得ス

第四條 營業者ハ珪瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシテ之ニ百分中醋酸四分ヲ含ム水ヲ入

ノ三十分時間煮沸スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ス條ヲ得ニ關シ亦同シ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護膜ヲ以テ製造スルコトヲ得ス

第六條 營業者ハ其ノ製造又ハ臺灣外ヨリ輸入シ又ハ移入シタル金屬性飲食物用器具ニ極印其ノ他容易ニ剝落セサル方法ヲ以テ自己ノ製造又ハ輸入移入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ共ノ他ノ符號ヲ附スヘシ

輸入業者又ハ移入業者ハ當分ノ内自己ノ輸入若ハ移入ニ係ルコトヲ證スルニ足ルヘキ商號其ノ他ノ符號ヲ記載シタル票紙ヲ貼附シテ前項ノ符號ニ代フルコトヲ得

第七條 第二條乃至第五條ノ規定ニ該當セサル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第六條ニ規定セル符號ナキ金屬性飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第八條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金屬ノ剝脫シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セサルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第九條 廳長ハ第二條乃至第五條ノ規定ニ該當セサル飲食物用器具若ハ之ヲ用井タル飲食物又ハ第八條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用井タル飲食物ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本令ニ違反シタル營業者ニ關シ亦同シ

第十條 第二條乃至第八條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十一條 營業者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ管理人又ハ代表者ニ適用ス

營業者ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反

シタルトキハ營業者ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ營業者ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ輸入シ若ハ移入シタル金屬性飲食物用器具ニ關シテハ第七條第二項ノ規定ヲ適用セス

茶ノ容器ニ關シテハ當分ノ内本令ヲ適用セス

○臺灣總督府令第三十五號(官報五月十日)

明治四十三年三月府令第十八號郵便振替貯金規則中左ノ通告正ス

明治四十四年四月二十八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第三條中「及朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所」ヲ「朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所及關東都督府通信管理局」ニ改ム

第六十一條中「及朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所」加入者ハ京城郵便局ニ於テ又關東都督府通信管理局ニ關スル加入者ハ大連郵便局ニ於テニ改ム

督府郵便爲替貯金管理所ニ關スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ又關東都督府通信管理局ニ關スル加入者ハ大連郵便局ニ於テニ改ム

〔參照〕

臺灣總督府令第十八號(明治四十三年三月三十一日附三)抄録

第三條第一項

郵便振替貯金ノ經營計算ヲ爲ス爲臺灣總督府通信局郵便貯金局大阪郵便貯金支局、福岡郵便貯金支局及朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所ニ加入者ノ口座ヲ設ク

第六十一條 臺灣總督府通信局ニ關スル加入者ハ臺北郵便局所ニ於テ郵便貯金局ニ關スル加入者ハ東京中央郵便局又ハ通信省構内郵便局ニ於テ大阪郵便貯金支局ニ關スル加入者ハ大阪中央郵便局ニ於テ福岡郵便貯金支局ニ關スル加入者ハ福岡郵便局ニ於テ又朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所ニ關スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ換取ヲ受ケシムヘキ局待拂出書ヲ提出スコトヲ得

○臺灣總督府令第三十六號 (官報 五月十三日)

明治四十一年二月府令第九號臺灣「ベスト」豫防組合規則施行規則中「ベスト」豫防組合「ヲ」防疫組合ニ「ベスト」豫防事項「ヲ」傳染病及風土病豫防事項ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第三十七號 (官報 五月十三日)

臺灣防疫組合規則第一條第二項ニ依ル風土病ヲ左ノ通定ム

明治四十四年五月二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

一 マラリア

○臺灣總督府令第三十八號 (官報 五月二十二日)

度量衡器及計量器比較検査規則左ノ通相定ム

明治四十四年五月十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

度量衡器及計量器比較検査規則

第一條 臺灣總督ニ左ニ掲クル度量衡器又ハ計量器比較検査ノ依頼ヲ爲ス者ハ別記様式ノ依頼書ニ現品ヲ添ヘ之ヲ殖産局長ニ差出スヘシ

- 一 各種度量衡器
- 二 寒暖計
- 三 比重計
- 四 檢尺器

第二條 前條比較検査ニ於テ各種度量衡器及檢尺器ハ臺灣度量衡規則第五條ノ檢定原器ヲ基本ト

シ寒暖計ハ「トシメロー」水銀寒暖計ヲ標準トシ比較検査ヲ行ヒ比重計ハ別ニ比重ヲ測定セル標準液ヲ用井又ハ同液ニ依リ豫メ比較ヲ了シタル標準浮秤ニ對照シ比較検査ヲ行フモノトス

第三條 比較検査ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 度量器ノ全長ノ検査ハ一箇ニ付金五十錢目盛ノ検査ハ一箇毎ニ全長検査ノ手数料ノ外目盛二十迄ニ付金十錢トシ以上二十迄ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ
- 二 量器ノ全量ノ検査ハ一箇ニ付金二十錢目盛ノ検査ハ一箇毎ニ全量検査ノ手数料ノ外目盛十迄ニ付金十五錢トス
- 三 天秤「ライダー」ノ検査ハ一件ニ付金一圓五十錢トス
- 四 分銅ノ重量ノ検査ハ五百匁又ハ二百「グラム」若ハ五「ポンド」未滿五箇迄ハ金二十錢以上一箇ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ五百匁又ハ二百「グラム」若ハ五「ポンド」以上五箇迄ハ金五十錢以上一箇ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加フ比重ノ検査ハ五箇迄ハ金五十錢以上一箇ヲ増ス毎ニ金十錢ヲ加フ
- 五 寒暖計ノ検査ハ一箇ニ付金二十錢トス
- 六 比重計ノ検査ハ一箇ニ付比重天秤ハ金二圓浮秤ハ金十五錢トス
- 七 檢尺器ノ検査ハ一箇ニ付金二十錢以上金二圓以下トス

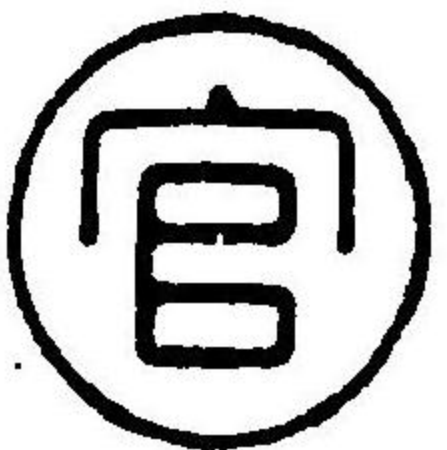
二段目盛アルモノニ付テハ検査ノ手数料ハ各段毎ニ之ヲ納ムヘシ

第四條 第一條第一號ノ比較検査ニハ成績書ヲ交付ス

第一條第二號乃至第四號ノ比較検査ニ於テ其ノ器差微少ニシテ正確ト認ムルモノニハ證明ヲ附シ及依頼者ノ請求ニ依リ成績書ヲ交付ス其ノ正確ナラサルモノニ對シテハ依頼者ノ請求ニ依リ更正表ヲ交付ス

第五條 比較検査ノ證明ノ雛形ヲ定ムルコト左ノ如シ

雛形



第六條 第四條第一項ノ成績書副本及同第二項ノ成績書若ハ更正表ヲ請求スル者ハ紙數一枚ニ付 金五錢ノ手数料ヲ納ムヘシ

成績書及更正表ノ譯本ヲ請求スル者ハ一件ニ付金二十錢以上金五圓以下ノ手数料ヲ納ムヘシ

第七條 豫メ手数料ノ額ヲ確定シ難キモノニ在リテハ依頼書ニ比較検査ノ結果ニ依リ指定ノ手数料ヲ納ムヘキ旨ヲ記入スヘシ

前項ノ規定ハ比較検査ノ成績書及更正表ノ譯本ヲ請求スル場合ニ之ヲ適用ス

第八條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

附則 本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

比較検査依頼書

貼付シタル收入印紙ノ額	金何圓
一品名 何々	何箇(件)
一比較検査ノ範圍	
全長(全量)目盛(重量) 何々	

一物品ノ用途 何々
右比較検査及依頼書也

年月日

現住所 依頼者 何 某

總督宛

○臺灣總督府令第三十九號(官報五月二十二日)

明治三十七年九月府令第七十二號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目中土地臺帳地圖ノ閲覧及土地臺帳地圖ノ謄本下附手数料ヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第四十號(官報五月二十二日)

明治三十七年十二月府令第八十八號臺灣地租規則施行規則中左ノ通改正ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第六條第三項及第四項ヲ削ル

第六條ノ二 一街庄全部連續シタル土地臺帳又ハ地圖ノ謄本ヲ土地臺帳又ハ地圖ト照合シ且ツ其

ノ照合ノ結果ニ依リ土地臺帳又ハ地圖ト符合セサル事項全部ニ對シ謄本ノ更正ヲ請ハムトスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ地方廳ニ差出スヘシ

前項後段ノ規定ハ一街庄ニ涉ル土地臺帳又ハ地圖ノ筆數ノ半數以上ニ付キ更正ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス